

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

(ー：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北海道)	◎	旅行代理店（従業員）	・冬の観光繁忙期を迎えることから、インバウンドの増加が期待される。ただし、日中関係の問題により、中国路線の減便、運休の継続などの影響が出始めていることが懸念材料となっており、早期の関係修復が望まれる。
		タクシー運転手	・これから年末の忘年会シーズンを迎え、1年間で最もタクシーの売上が良い時期となる。当社は乗務員の採用が順調なことから、前年から20%以上の売上増加を期待している。
		観光名所（従業員）	・中国からの冬季限定チャーター便の運航が中止となったものの、その影響を考慮しても、国際線の運航便数が過去最高だった前年を上回る計画となっていることから、当地的経済効果への期待は大きい。また、インバウンドについては、富裕層の個人客が増えていることから、飲食や物販において、キャラクターグッズを筆頭に高単価商品がよく売れている。これらのことから、今後の景気は良くなる。
	○	商店街（代表者）	・新政権になり、積極財政への転換が進むことで、景気が向上すると期待している。
	○	一般小売店【酒】（経営者）	・年末を控えていることもあり、今後、客の消費活動がやや活発になると期待している。
	○	一般小売店（経営者）	・政治の不透明感が薄れていることで、これから景気が向上することを期待している。
	○	衣料品専門店（店長）	・12月には忘年会があり、年明けには新年度に向けての動きが出てくることになる。これまでの流れから、スーツなどの需要が増えてくると期待している。
	○	家電量販店（経営者）	・エアコンの2027年問題への対応で、エアコンの需要が旺盛である。また、省エネ型給湯器などの省エネにつながる商品の販売も堅調に推移している。法人を中心に、蛍光灯の製造終了に伴うLED化への対応相談も増えている。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・例年、年が明けると車両販売の動きが活発になることに加え、新型車の発売が予定されていること、様々な販売施策を実施することから、今後の景気は上向くことになる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・年末を控えて、消費が上向く時期であり、年が明けてから、新車購入に向けた動きが出てくることを期待している。
	○	乗用車販売店（従業員）	・今後については、新型車の投入が予定されているため、景気はやや良くなる。ただし、生産台数に限りがあり、予定台数に達するとすぐに受注停止になるとみられるため、メーカーの生産体制が変わらない限り、景気が大きく上向くことは考えにくい。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（経営者）	・ガソリンや軽油の暫定税率廃止に伴い、価格が低下することから、値下げ効果が生じることを期待している。
	○	スナック（経営者）	・日々の生活も仕事も状況はほとんど変わっていないものの、新政権が強い意志で国のために努力していることから、今後の景気が上向くことを期待している。
	○	観光型ホテル（経営者）	・冬の観光シーズンに入ることから、インバウンドを中心に宿泊客が増加することが見込まれる。
	○	タクシー運転手	・乗務員不足に加え、例年よりも雪が少ないことから、余り大きな期待は持てないものの、今後、忙しくなることを期待している。
	○	通信会社（企画担当）	・新しい通信規格に対応した端末への移行が追い風となり、今後の集客を期待できる。ただし、物価上昇の影響から、安価な機器の販売は期待できるものの、高額な機器の販売は余り期待できないため、大幅な売上増加までは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	美容室（経営者）	・ガソリン以外は価格の高止まり又は値上げが進んでいるものの、年末年始を迎えて、ふだんよりも売上が増えることを期待している。
	○	住宅販売会社（経営者）	・新政権の積極財政方針により、今後の景気はやや良くなると期待している。
	□	百貨店（販売促進担当）	・本格的な冬を迎える、各種イベントが始まっていることから、客足が伸びている。ただし、売上を伸ばしているカテゴリーは食を中心とした生活必需品にとどまっており、し好性の高いブランドショップや時計、宝飾などは厳しい状況が続くとみられる。
	□	スーパー（店長）	・景気回復に向けての具体的な動きがまだみられないため、今後も景気は変わらない。
	□	スーパー（店長）	・インバウンド需要の不透明感などもあって、先行きに不安を感じて、消費を控える傾向が出てくることが懸念される。
	□	スーパー（企画担当）	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響が懸念されるものの、ガソリンの暫定税率の廃止など、新政権での経済対策の内容が明らかになり始めていることから、消費行動が促進されることを期待している。
	□	スーパー（従業員）	・インフレが進んでいることから、今後も景気は変わらない。
	□	衣料品専門店（エリア担当）	・ガソリンの暫定税率廃止のように、物価高対策として効果のある施策もみられるものの、食費や光熱費が家計支出に占める割合が大きいことから、食料品の価格や光熱費が下がらない限り、衣料品への支出が増えることは考えにくい。
	□	家電量販店（店員）	・年末年始の売上にはある程度期待できるが、その後は来客数、販売額が落ち込むことになる。
	□	乗用車販売店（従業員）	・決して景気が良いわけではなく、主要車種のマイナーチェンジ、フルモデルチェンジなどの予定も少ないため、今以上に販売量が増えることは考えにくい。そのため、今後も厳しいまま変わらない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・新車の価格が上昇していることから、乗換を検討するよりも、車検を受けて車を長く乗ることを考える客が増えている。また、新型車が発売されたとしても、系列メーカーでは4WDの電気自動車を展開していないため、雪の降る地域では販売に難しい面がある。
	□	自動車備品販売店（店長）	・物価高に加え、暖房費が家計を圧迫するという降雪地域ならではの事情があるため、今後も買い控えが続くことになる。
	□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・薬局の役割として、客が健康相談を期待している状況がうかがえる。実際に、漢方薬などの相談に対応することはあるものの、時間を掛けて対応しても、相談後に病院で薬を処方してもらうケースが増えており、心が折れる場面が増えていく。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・日中関係の影響で、ホテルでは予約キャンセルなどの動きがみられるものの、全体的には冬期間の予約が順調なことから、飲食店にも多少の恩恵が生じることを期待している。今冬は、例年並みの売上をどうにか維持できるとみている。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・景気がなかなか上向いてこないことから、今後、売上の伸びが鈍化していくとみられる。原材料の値上げが続いていることもマイナスである。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・中国人観光客の動向が不透明ではあるものの、おおむね堅調に推移すると見込まれる。
	□	旅行代理店（従業員）	・現状と変わらずやや悪い状態が続くことになる。特に円相場が円高傾向にならない限り、今後の景気回復は難しいと見込まれる。一方、日中関係の影響については、インバウンドや中国行きの旅行を取り扱っていないため、ほとんどないものとみられる。
	□	旅行代理店（従業員）	・生活必需品や一般的なサービスに係る費用が段々と値上がりしていることで、家計を圧迫している。一部のレジャー関連については、ガソリンの値下げがプラス要因となるものの、インバウンドの主力である中国人観光客が減少することで、観光関連業界としてはかなり厳しい年末年始を迎えることになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	タクシー運転手	・年末の繁忙期を迎えるに当たって、消費行動に結び付くようなプラス材料が現れるなどを期待している。
	□	タクシー運転手	・イベント関連での予約は例年並みとなっているものの、観光客の予約がやや減少している。また、料金の改定により、一時的な利用客の減少も見込まれる。天候要因による利用客の増加は見込めるものの、それ以外の好材料がないことから、全体的には横ばいでの推移となる。
	□	観光名所（職員）	・景気が上向くような状況ではないことから、今後も横ばいでの推移となる。
	□	住宅販売会社（従業員）	・土地価格や建築単価の高止まりにより、購入価格が客の想定を超えており、住宅ローン金利が上昇傾向にあることから、客の購入意欲が低下しており、今後も同様の状況が続く。
	▲	商店街（代表者）	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けによる影響を懸念していたが、中国国内の景気減速の影響もあって、今年の春頃から、中国人観光客が減少傾向にあったことから、今のところ大きな影響はみられない。また、データからは、個人客が観光に来ていることもうかがえる。ただし、今後、香港においても、何らかの動きが出てくることになれば、大きな影響が生じることが見込まれるため、動向を注視している。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・冬の観光シーズンを迎えることから、国内客は増えることになる。インバウンドは、本来であればウィンターシーズンに客が増える傾向にあるが、これから中国便の減便や休止が増えてくることになれば、下振れすることになる。ただし、中国人観光客による売上は、爆買いがあった頃こそ3割以上のシェアを占めていたが、最近は1割弱にとどまっていることから、そこまで大きな影響は受けないとみられる。
	▲	スーパー（店長）	・日中関係が懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・円安傾向が継続していることから、物価の安定には程遠い状況にある。今後の年末年始商戦も、価格競争の激化が見込まれるため、一段と厳しくなることが見込まれる。
	▲	スーパー（役員）	・円安が進んでいることから、多くの食品メーカーにおいて、原材料の価格負担が増しており、来年も値上げしなければならないとの声が上がっている。物価上昇が続くことで、客の節約志向がますます強まることが懸念される。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・景気の先行きが不透明なことから、例年であれば、消費の増える年末においても、客の節約志向が続くとみられる。クリスマスや年末の予約商品の受注にも影響が及ぶことが懸念される。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・例年であれば、これからインバウンドが増加する時期だが、入込数の多い中国人の動向が懸念されることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・物価高の影響に加え、当地の秋サケ漁が記録的な不漁となっていることから、今後、地域経済が大きく落ち込むことが懸念される。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・物価の上昇が続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・販売の中心となる食料品について、10月に値上げが行われた商品が多く、いまだに値上げの動きが続いている。これから価格が下がるような見通しもなく、食料品の消費税引下げも見通しが不透明なことから、今後も厳しい状況が続くことになる。
	▲	住関連専門店（役員）	・食料品などの値上げにより、一般消費者の節約志向が一段と強まるとみられるため、今後の景気はますます悪くなる。
	▲	その他専門店〔造花〕（店長）	・仕入先から、価格改定の連絡が来ていることから、この先の買い控えが懸念される。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・中国人観光客の動向が不透明なことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・店舗への来客数は、今後も減少傾向が続くと見込んでいる。また、インバウンドによるWeb予約も当面は減少すると見込まれる。今後については、社会情勢に左右されることになるものの、補助金や賃上げによる効果は限定的とみられることから、景気の下向き傾向が続くことになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連 (北海道)	▲	タクシー運転手	・今後の景気はやや悪くなる。景気が上向くためには、政治情勢が落ち着くことが必要である。
	▲	美容室（経営者）	・今後も物価の上昇傾向が続くとみられることから、来店周期の長期化、メニューの変更などにより、美容関係の出費を控える傾向が続くことになる。
	▲	美容室（経営者）	・客から、生活が楽になったといった話を聞くことがないため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フレリー〕（従業員）	・冬期間に入ることで、天候の変化が激しくなり、安定した運航が見通せないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	商店街（代表者）	・今後については、ガソリンの暫定税率廃止に伴う価格低下に加え、冬期間の電気・ガス料金への支援拡充などが打ち出されているものの、物価高による生活への影響が大きいことから、今後の景気はやや悪くなる。また、当区域を訪れる来街者の多くが高齢者であり、積雪期間となることで外出機会が減ることもマイナス要因である。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・物価の上昇、国内経済の低迷、中国人観光客の減少などの不安要素が重なることから、今後の景気は悪くなる。
	×	百貨店（売場主任）	・インバウンドのうち、シェアの大きな中国人観光客の動向が不透明であり、今後、入込数が減少することになれば、大きな影響が生じることになる。
	×	スーパー（店長）	・これからますます寒さが厳しくなること、正月を控えてることから、客の財布のひもが固く、必要な物や安い物しか買っていない。客の買上点数は好調に推移しているものの、客単価の低い状況が続いていることから、今後の景気は悪くなる。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	・春節における中国人観光客の入込が落ち込むとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	住宅販売会社（経営者）	・インフレが進行している一方で、客の可処分所得が増えていないことから、客が住宅購入に充てる資金が減っている。スピード感のある物価高対策が打ち出されない限り、住宅市場の実需は減少の一途をたどることになる。
	◎	—	—
	○	家具製造業（経営者）	・新政権への期待感が高まっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・国土強靭化や食料安全保障を進める新政権の方針から、関連予算の拡充が見込まれるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（役員）	・年度内に完工予定の建設工事において、追加工事がこれから出てくることになるため、利益面での上乗せを期待できる。
	○	金融業（従業員）	・新政権の物価高対策が、消費マインドを改善すると期待している。ただし、これらの対策が、物価高の続く要因の1つとなる懸念もある。
	○	司法書士	・今後も、ガソリンの暫定税率廃止のように、所得の向上につながる政策が続くことで、景気が回復することを期待している。
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新政権の経済対策によって、投資に向けた動きが進むことになる。少なくとも、投資に前向きな気運が高まると期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・懸念事項はあるものの、国内の建設投資は引き続き堅調に推移すると期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・年度末まで、既存市場の動きは前年を下回ると予測されるものの、官庁関連での受注増加が見込まれることから、全体では前年並みに回復することになる。
	□	農林水産業（経営者）	・農産物について、これまでの猛暑対策では対応できなくなったりつつある。施策として、あらゆる手段を検討していく必要がある。
	□	食料品製造業（従業員）	・受注量について、今以上に増えるような要素が見当たらぬ。
	□	食料品製造業（従業員）	・4月に価格改定を行ったこともあって、販売量が前年並みという状況は決して悪くない。しばらくはこうした傾向が続くことになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (北海道)	□	金属製品製造業（従業員）	・新築住宅着工棟数の減少は、今後も続くとみられる。また、人口減少やカーボンニュートラルの推進による暖房負荷低減の流れも続くことから、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	・今年度の受注額は既に目標を達成しているものの、来年度以降の見通しが不透明である。建設単価上昇や職人不足による入札不調が続出しており、順調とはいえない状況にある。
	□	輸送業（支店長）	・本格的な冬を迎えて、輸送需要が引き続き減少すると見込まれる。
	□	広告代理店（従業員）	・新政権の経済対策への期待はあるものの、日中関係の問題が観光業や水産業に悪影響を及ぼしそうな状況にあることから、全体ではプラスマイナスゼロで景気は変わらない。
	▲	食料品製造業（従業員）	・中国における日本への渡航自粛呼び掛けの影響が出てくると見込まれる。春節を迎えるため、影響が大きくなることを懸念している。
	▲	司法書士	・相続登記は多いものの、新築や売買などの不動産登記の受注件数が落ち着き始めたことから、今後の景気はやや悪くなる見通しである。
	×	—	—
家計 動向 関連 (東北)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・企業の採用活動は、年明けから再開されるとみられ、3月決算に向けて、業績拡大のための人材ニーズが増えると見込まれる。ただし、人材と企業のミスマッチはますます顕著になっている。人材側はすぐに転職できると安易に考えているようだが、企業が求めるスキルは高く、妥協することもないため、人並みのスキルでは採用に至らないとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・本来であれば、年末商戦を迎え、活気の出てくる時期であるが、小売業の元気がないことから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の減少要因が継続しているものの、求人数の減少が景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。
	□	職業安定所（職員）	・当地の10月の新規求人数は前年を7.3%上回り、2か月連続での増加となった。一方、月間有効求人数は4か月ぶりに前年を上回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・物価高や資材価格高騰、人件費増加など企業の景気が上向くような要素が見当たらない。消費者も、必要な物は購入するが、節約志向の高まりから、し好品の購入を控えているため、消費が拡大するとは考えにくい。これらのことから、今後も景気は変わらない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・11月に入っても人手不足の企業が多いものの、採用にはつながっていないことから、今後も景気は横ばいで推移することになる。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・経済は動いているのかもしれないが、円安と物価高が改善しない限り、中国人を除いたインバウンドが堅調に推移したとしても、国内の個人消費は落ち込むことになる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・年明け以降、中国人観光客が大幅に減少するとの見込みが広がっている。団体客の減少や高付加価値消費の落ち込みは避けられないことから、宿泊、飲食を中心に影響が出てくることが懸念される。
	×	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

(－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	◎	通信会社（営業担当）	・単価が上昇するなど客の動きが良くなっている。
	◎	観光名所（職員）	・鉄道会社のキャンペーンによる来客数の増加に期待している。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の購買意欲は落ちておらず、今後の見通しとしても悪い方には考えていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末年始は現状と比べれば回復するとみているが、消費者の購買意欲が高まるというより、出費せざるを得ないから消費するという方が近い。降雪量等が景気に大きく影響する地域のため、不透明なところもある。
	○	百貨店（経営者）	・長期予報どおり冬らしい寒さが来れば、商品政策ともマッチする。
	○	スーパー（店長）	・最低賃金引上げなどによる収入の増加が期待される。
	○	コンビニ（エリア担当）	・天候によるが、熊出没による不安が解消されれば、多少は回復するとみている。
	○	衣料品専門店（店長）	・政府が打ち出している景気対策の効果を消費者が実感できるようになる。消費モチベーションが徐々に回復していくことを期待したい。
	○	家電量販店（従業員）	・2～3か月先は初売りや新生活需要などがあるため、やや良くなるとみている。18歳の新成人人口も前年と比べて大きく減少しないという調査結果が出ているため、前年と同様に新生活需要が期待できる。冬の寒さが厳しさを増し気温が下がると冬物商材の売れ行きが伸びる。景気が良くなることを期待したい。
	○	乗用車販売店（従業員）	・初売り、決算で繁忙期に入る。
	○	住関連専門店（経営者）	・受注販売のため、2～3か月先の販売量は今月よりやや良くなることが確定している。
	○	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・寒い日が多くなり、配達灯油の販売も増えている。年末にかけて家庭用の注文も増えるとみている。
	○	都市型ホテル（支配人）	・インバウンドの先行予約が好調である。
	○	通信会社（経営者）	・放送サービス、通信サービス共に、引き続きサービスエリア拡大による新規加入者数の増加が見込める。また、年始に向けた加入促進キャンペーンも始まっているため、相乗効果も期待できる。
	○	通信会社（営業担当）	・物価高対策に期待している。ガソリンの暫定税率廃止が決まり、ガソリン代が徐々に下がってきてている。
	○	通信会社（営業担当）	・1～2か月先に受注が増えそうな案件が数件出てきている。
	○	ゴルフ場（支配人）	・客の様子や話から、最低賃金引上げが消費に良い影響を及ぼすことが期待できる。また、政府の経済対策の効果が現れ始めるとしている。
	○	競艇場（職員）	・年末年始はイベントが多いため、来客数は間違なく増える。その後の再来場を促す努力が必要になる。
	○	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・年末年始に向けて、売上は好調に推移するとみている。
	○	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・政府の経済対策に期待している。景気はやや良くなるとみている。
	□	商店街（代表者）	・例年どおり年末年始商戦の準備を進めているが、物価高騰の影響があるとみている。
	□	商店街（代表者）	・価格上昇が購買意欲をそいでいる。
	□	商店街（代表者）	・年末年始商戦は多少良くなるが、その後は雪の影響により人出が減るとみている。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・インフルエンザが流行しているため、抗原検査キットが売れれば多少は潤うが、売上は変わらないとみている。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・物価高が続き生活防衛意識が高まっている。新政権の経済対策により消費マインドが変わることを期待したい。
	□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・政府の経済対策も特効薬にはみえない。強いて言えば、ガソリンの暫定税率廃止に期待したいが、効果は限定的とみる。しばらくは小康状態が続くとみている。
	□	百貨店（企画担当）	・気温の変化に伴う需要変動に加え、ギフト需要の低下もあり、厳しい状況が続くとみている。
	□	百貨店（営業担当）	・外国との取引額が少ないため、中国情勢等の影響も少ない。
	□	百貨店（経営者）	・高齢化に伴うシルバー層の来店頻度減少の影響は大きく、物価高とあいまって少しづつ販売量に影響している。国の経済対策が具体化され、年末年始に向け消費マインドが上がる事を期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（従業員）	・最低賃金引上げなど消費マインドが高まる要素はある。しかし、物価高に歯止めがかからず、生活防衛意識は変わらないとみている。
	□	スーパー（経営者）	・米価高で米農家は助かったと聞くが、生産性向上のためDXに取り組む企業では、一部を除き実効性や費用対効果は期待値まで至っていないという話もある。また、熊の出没による外出控えに加え、中国からのインバウンドが減少しており、観光関連事業は芳しくないと聞く。ガソリンの暫定税率を廃止する法案が成立し、政府の経済対策補正予算もほぼ決まったようなので、その早い執行を期待したい。ただし、前年から実質賃金の前年割れが続いていることからも、消費の傾向は変わらないとみている。
	□	スーパー（経営者）	・政府の経済対策により、消費マインドは多少プラスに変化するとみている。
	□	スーパー（店長）	・物価高騰による値上げ効果で一定の売上は確保しているが、年末年始以外は金を使わなくなることを不安視している。
	□	スーパー（店長）	・来客数の大幅な増加は見込めず、限られた客を相手にした商売となるため、景気が大きく変動することはないとみている。
	□	スーパー（店長）	・ガソリンの暫定税率廃止や児童手当の上乗せを始めとする積極財政により、景気が回復に向かうことを期待したい。
	□	スーパー（企画担当）	・熊の出没による好調な動きは一時的なものである。今後落ち着くことを考えれば、変化はないとみている。
	□	スーパー（商品担当）	・1品平均単価の上昇により買上点数は厳しい状況が続くとみている。年末年始は大型連休ということもあり消費拡大が期待できるが、正月明け以降は節約志向が現状よりも更に厳しくなるとみている。
	□	スーパー（業務担当）	・全体の景気が回復するのはまだ先とみている。
	□	スーパー（店舗運営）	・物価高騰に伴う節約志向は今後も続くとみている。
	□	コンビニ（経営者）	・売上、来客数は春先から継続して伸びている。しかし、ここ2~3か月、買上点数の伸び率が前年比2ポイント低下している。購買意欲が落ちてきているのか、不安要素はその点だけである。
	□	コンビニ（経営者）	・年末年始にどれほどの人が動くかによるが、帰省客が年々減っており、厳しい状況は変わらない。
	□	コンビニ（経営者）	・利益が増加しても、人件費の上昇で経費が掛かるため、余り変わらないとみている。
	□	コンビニ（経営者）	・プラス要因は見当たらず、人口減少による厳しい状況は変わらない。
	□	コンビニ（経営者）	・人の動きはあるものの来客数が増えないため、景気は変わらないとみている。
	□	コンビニ（エリア担当）	・食料品の値上げにより売上は増加し、前年並みの推移になるが、来客数や買上点数は減少が続くとみている。
	□	コンビニ（店長）	・原材料価格の安定は期待できない。
	□	コンビニ（店長）	・良くなる兆しが全くない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・法人向けお歳暮の受注時期が前年より早くなっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・かなりの効果が期待できる経済対策案が出てこない限り、消費意欲のアップにはつながらないとみている。
	□	衣料品専門店（店長）	・来客数は微減にとどまっているが、客単価は苦戦している。買物は必要最低限とする傾向が顕著である。
	□	衣料品専門店（総務担当）	・物価の上昇と冬場の光熱費増加に備えてか、買い控えが発生している。12月のボーナスをあてにした購買もみられない。
	□	家電量販店（従業員）	・寒くなり冬物商材の売行きが良くなることに期待している。
	□	乗用車販売店（従業員）	・新型車が発表されても販売がなかなか伸びない。今後の新車発表もない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・物価高騰の影響もあり、中古車の商談件数が増加傾向にある。中古車の在庫台数がそろえば新車分もカバーできるとみているが、新車への買換えが減少すると下取り車の入庫台数も当然足りなくなる。新車の販売量が増えなければ大きな変化はないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
小売業	□	乗用車販売店（従業員）	・新車の配車状況は変わらないとみており、大幅な収益増加は期待できない。
	□	乗用車販売店（店長）	・新車、中古車共に一部の人気車種にオーダーが集中しており、新車は生産が追い付いていない。サービス部門では例年だと冬物商材が売れる時期だが、今年は全体を底上げできるほどの売上が立っていない。
	□	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・新政権の経済対策に期待しているが、効果があるのかという不安もある。
	□	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・新年度に向けて売上は伸びていくが、前々年、前年と同様の売上を確保できるか不安である。また、ライバル企業との競争激化により、価格競争が一層激しくなっている。顧客になりうる新規開業の情報もなく、先細りの気配がある。
	□	その他専門店〔靴〕（経営者）	・ガソリンの暫定税率廃止や光熱費の補助などで、可処分所得が増えることが期待できる。
	□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・ガソリンの暫定税率が廃止になり、ガソリンに関して動きが不安定になる要素はなくなるが、販売量の増加までは見込めない。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・飲食店街の大規模改装オープンを予定している来春以降は来客数の増加が期待できるものの、2～3か月先に景気が良くなるような動きはない。先行き不透明である。
	□	一般レストラン（経営者）	・クリスマスもあり年末に向けてレストランは繁忙期を迎えるのが通常だが、今年はクリスマス近くの予約も低調である。厳しい状況が続くとみている。
	□	一般レストラン（経営者）	・物価高が続くなか、忘年会、新年会の予約状況は例年よりもかなり少ない。会社関係が少ないので、宴会のスタイルが変わったためとみている。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・物価高の影響により、身の回りの景気は決して良いとはいえない。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・日中関係に問題が生じているが、当地域は中国からのインバウンドが少ないため影響はないとみている。
	□	観光型旅館（経営者）	・好転要素がなく、物価高の影響も続くため、景気は変わらないとみている。
	□	観光型旅館（スタッフ）	・閑散期に入るがインバウンドの需要は増していく。9割超が台湾からの客になるため、日中関係の影響は少ないとみている。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・紅葉が終わり雪には早い時期だが、マレーシアのチャーターフlightなどプラス要素もあるため、インバウンドの動きは変わらないとみている。
	□	旅行代理店（従業員）	・富裕層や好況企業をターゲットにすることにより、前年並みの実績は維持できるとみている。
	□	旅行代理店（従業員）	・当社契約宿泊施設の販売額は、前年同期比ではほぼ同様である。
	□	タクシー運転手	・長距離客は土日が多く平日は少ない傾向に変化はないため、平日の客単価が低い状況は変わらない。利用者数は物価高の影響により減少の見通しである。
	□	タクシー運転手	・悪天候による買物客や通院客の利用のほか、新年会の利用者が期待できる。
	□	通信会社（営業担当）	・景気が好転する材料に乏しいため、変化は少ないとみている。
	□	観光名所（職員）	・客単価は前年を上回る大変良い状況を維持できる。予約数も大きく伸びる要素はないが、若干良い状況を維持するとみている。
	□	遊園地（経営者）	・シーズンオフで休園中になるが、消費の基調が好転するかは不透明である。
	□	美容室（経営者）	・国の物価高対策も道半ばで、消費者のニーズに応えきれていない。今後の景気は政策の内容次第で大きく変わる。また、首相発言による日中関係への影響拡大が懸念される。
	□	美容室（経営者）	・物価高が続いており、客が美容に掛ける金額が減少している。
	□	設計事務所（経営者）	・短期的に景気が変動する職種ではないため、大きな変化はない。
	□	住宅販売会社（経営者）	・新築住宅の客単価の低さをリフォームの受注で補っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
小売業	▲	商店街（代表者）	・予約状況をみても、社用関係は全く動いていない。消費者は金に余裕がある人との人で動きが全く異なる。
	▲	商店街（代表者）	・円安と物価高、人件費の高騰が懸念事項である。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	・お歳暮や新年の挨拶等の需要がなくなる。
	▲	一般小売店〔茶〕（経営者）	・例年冬は景気が落ち込む地域である。
	▲	一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・ゴルフは冬場がオフシーズンになるため、来客数や売上が減少する。来年春の新作発表に期待したい。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・中国からのインバウンドによる経済効果は、例年より期待できない。
	▲	衣料品専門店（店長）	・ブラックフライデー、年末年始、初売りと続くが、良い物が安くなったということに対して、例年よりも動きが見られない。景気が良くなる要素はない。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・前月から新車及び中古車の販売台数が減少傾向にあるため樂観できない。
	▲	高級レストラン（支配人）	・短くとも来年3月までは、来客数、予約数共に減少傾向が続くとみている。
	▲	一般レストラン（経営者）	・この先の予約はそれほど埋まっていない。
	▲	一般レストラン（スタッフ）	・ランチタイムの高齢者の来店が減っている。平日のディナータイムも回復は期待できない。
	▲	テーマパーク（職員）	・ホテル内の改装計画による店舗改装及び閉店店舗の影響があるとみている。
	▲	観光名所（職員）	・例年と比べて予約が少ない。熊の出没による外出控えが影響していると考える。
	▲	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・大規模工事の先送りは続き、ハウスクリーニング及び小規模な断熱工事の問合せは増えるとみている。
	×	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・11月、12月に商品の動きが全くなければ、1月、2月はより悪化することが懸念される。不安しかない。
	×	コンビニ（経営者）	・最低賃金引上げ、売上減少、光熱費増加、除雪代の負担を考えると、これまで20数年経営してきたなかで1番厳しい冬になる。本部は要求するが力になってくれるわけではない。これでは加盟店オーナーは皆辞めていくだろう。
	×	衣料品専門店（経営者）	・冬物が終わり、春物には早い時期になる。雪の量や天候にも左右されるが、暇な時期になる。
	×	一般レストラン（経営者）	・当地は雪の影響が大きい。朝晩の除雪に体力、精神力、金を持っていかれるため、他の消費に回す余裕が生まれない。また、日中関係が、雪を見に来る中国からのインバウンドにどの程度影響するか不透明である。
	×	旅行代理店（従業員）	・春節期間のインバウンドの延べ宿泊者数、販売額が減少傾向にある。
企業動向関連 (東北)	◎	—	—
	○	食料品製造業（営業担当）	・商品のブランディングを再構築することで、販売量の回復を図る予定である。
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末にかけて役所等からの発注が多少期待できる。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・納期が1年以上先の相談件数が少しずつ増えている。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・年明けからの良い情報が入り始めている。今の状況より良くなる見込みがある。
	○	通信業（営業担当）	・年度末に向け、システムの改変やAIの導入などについて客からの引き合いが増える見込みである。
	○	経営コンサルタント	・新政権の積極財政による消費の底上げを期待したい。
	□	農林水産業（従業員）	・青果物の売れ行きに回復の兆しがない。
	□	食料品製造業（経営者）	・物価高が消費に影響している。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・受注量が減少傾向にあり、売上や利益からみて人員が過剰である。収益の改善が最優先課題である。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いの件数は少し増えているが、受注量は余り変わらない状況である。2~3か月後も大きな変化はないとみている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・半導体の在庫調整が春先まで続くとの情報がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
業種別	□	電気機械器具製造業 (総務担当)	・取引先からの受注見通しは明るい。
	□	建設業 (従業員)	・降雪の状況にもよるが、例年冬場は工事が少ない。
	□	建設業 (従業員)	・人手不足で今後も受注量を大幅に増やすことはできないため、変わらない。
	□	建設業 (従業員)	・現在の良い状況は、この先数年変わらないとみている。
	□	輸送業 (経営者)	・ガソリン及び軽油の暫定税率廃止は業界としてプラス材料である。一方、渡航自粛要請など中国の対日制裁措置は、地方においてもインバウンド消費を始め経済への打撃となる。日中関係の早期正常化を望む。
	□	通信業 (営業担当)	・今後も顧客からの値下げ要請は強まるとみている。適正価格について辛抱強く理解を求めていくしかない。
	□	広告業協会 (役員)	・人手不足関連の広告出稿は今後も増えるとみている。しかし、物価上昇や人件費の高騰が企業の収益を圧迫することから、個人消費向けの販売促進費は縮小傾向とみており、広告市場の拡大は期待できない。
	□	広告代理店 (経営者)	・来年の予算の話をする時期に来ているが、今のところ変化の兆しはない。
	□	司法書士	・受託件数については前年同月比で大きな変化がない。
	□	コピーサービス業 (従業員)	・新内閣が打ち出した経済対策は、個人向け中心の物価高対策のため、当社の業況に影響ないとみている。
	□	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕 (経営者)	・物価高などの影響を受け、消費マインドは低下している。
	□	その他企業〔企画業〕 (経営者)	・景気は変わらないとみている。
	▲	農林水産業 (従業者)	・米価が高値を維持しているものの、設備の老朽化により、耕作面積を縮小せざるを得ない。
	▲	食料品製造業 (製造担当)	・建築、修繕費用が予想以上に高騰しているなか、賃上げもあり、価格改定やコストカット策を講じなければ収益は厳しくなっていく。
	▲	金属製品製造業 (経営者)	・若干だが減産の情報が入ってきている。
	▲	建設業 (従業員)	・今年度想定していた主要な工事受注が一段落している。
	▲	輸送業 (従業員)	・日中関係を懸念している。
	▲	金融業 (広報担当)	・中国の水産物輸入停止や渡航禁止の措置により、地域の取引先における水産物の輸出や観光に悪影響が出ることが予想される。また、最低賃金引上げ開始に伴い、体力のない中小零細企業において業績悪化が進み、廃業や倒産件数の増加が予想される。
	▲	不動産業 (従業員)	・住宅ローン金利の上昇は必至で、不動産の適正価格とのかい離が業界の景気を悪化させると予想する。
	▲	公認会計士	・製造業、建設業の業績次第だが、現在の資材価格の高騰、人手不足に解決のめどが立たない限り、景気が上向くことはない。サービス業、飲食業はイベントが多い12月以降、業績は良くなるが、全体としては現状よりもやや悪化するとみている。
	▲	その他企業〔協同組合〕 (職員)	・米国の関税政策の影響が表面化しつつある。
	×	窯業・土石製品製造業 (職員)	・公共事業、民間事業共に受注量が減少している。冬に入ると一層厳しい状況になる。
雇用関連 (東北)	◎	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	・新政権の経済政策により、景気の底上げが期待できる。また、AI需要の高まりにより、製造業を中心に景況感は良くなるとみている。
	○	職業安定所 (職員)	・最低賃金引上げにより賃金が上昇し、政府の物価高対策の効果も見込まれることから、景気は上向くとみている。
	□	人材派遣会社 (経営者)	・新政権が様々な景気刺激策を検討しているため、経営者と話をしても、先の見通しは明るく、期待感を持っている様子がうかがえる。
	□	人材派遣会社 (社員)	・下期に向けて求人数は増加傾向にあるが、求職者とのマッチングがどこまで伸びるかである。
	□	人材派遣会社 (社員)	・求職者数の減少が続くかどうかは不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	求人情報誌製作会社 (経営者)	・最低賃金引上げが、資金面で企業活動の足かせとなることを危惧している。労働者の手取りも大事だが、原資となる売上に転嫁できないと人員を雇えないと話す企業もある。
	□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・物価高に加え、熊の出没による経済活動への影響もあるため、当面は景気回復が見込めない。
	□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・県内で大きなトピックスがない。
	□	職業安定所(職員)	・物価高騰の継続などマイナス要因はあるが、プラス要因が見当たらない。
	□	職業安定所(職員)	・有効求人数は前年同期より増加している。一方、大企業、中小企業共に企業整備による人員削減がみられる。
	□	職業安定所(職員)	・求人数、求職者数に大きな変動はない。ただし、年末から年度末にかけて工場閉鎖や事業縮小に伴う雇用調整の動きも見られ、今後も注視する必要がある。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・物価高が続く限り、製造業、卸売業、小売業で求人を控える動きは変わらないとみている。
	▲	アウトソーシング企業 (経営者)	・業界としては、AI技術の発展により市場が小さくなると考えている。
	▲	学校〔専門学校〕	・日中問題による日本経済への中長期的な影響が懸念される。
	×	*	*

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

(ー：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北関東)	◎	通信会社(営業担当)	・大きな変化はないものの、政策への期待感から、消費について財布のひもが緩む可能性が出てきている。
	○	一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・お歳暮用品等の贈答品の動きがあるため、やや良くなる。
	○	コンビニ(経営者)	・政府の物価高対策が功を奏したら、今よりも良くなっていく。
	○	コンビニ(エリア担当)	・今後も、インバウンドの影響には余り左右されない。
	○	コンビニ(エリア担当)	・年末年始は、旅行や帰省、出張、スキーやスノーボードなどの冬のレジャーで鉄道利用が増えやすく、駅を利用する人流が増える可能性がある。当店のある駅は主要駅かつ観光や登山、スキーパークの通過点になりやすい立地のため、需要増加が期待できる。
	○	家電量販店(店員)	・このところ、テレビが好調の兆しがあるため、期待している。
	○	乗用車販売店(従業員)	・受注が減少しているため、受注残も減少傾向になっているが、年末から年始にかけての販売で変わるように対応している。
	○	住関連専門店(店長)	・新政権の物価高対策に期待したい。
	○	その他専門店(総務担当)	・例年この時期には、売上が増加する。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・年末に向けて、大人数の宴会問合せが増えている。ここ数年にはないボリュームを実感している。平日の動きが増えれば、更に良くなる。
	○	一般レストラン(経営者)	・しばらくは現状のままとなる。来店頻度は減っているものの、単価は上がってきている。売上は変わらない。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・新年会の団体予約や年明けの問合せが予想していたよりも多い。忘年会を開催しないで、新年会に回す企業もあるようである。
	○	都市型ホテル(経営者)	・忘年会シーズンになり少人数、大人数問わず、利用客数が増加するとみている。
	○	都市型ホテル(スタッフ)	・前年と比べて、宴会件数の減少が12月以降は小さくなってきており、各種団体需要に加え、個人の宴会利用が少しづつ戻ってきていている。宿泊に関しては、定期的に宴会付きのインバウンドツアーが入るようになっており、単価上昇に寄与している。
	○	旅行代理店(従業員)	・来客数も含め、案件が増えている。
	○	タクシー(経営者)	・全体的に動きが良くなっているため、この先も良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
小売業	○	通信会社（総務担当）	・今月の落ち込みは一時的なものと考えられる。来月からは回復すると予想している。
	○	設計事務所（所長）	・新政権の誕生後で、経済が動き出すのではないかという期待が高まっている。
	□	商店街（代表者）	・プレミアム付商品券の利用が少ない。年末年始の利用に期待している。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・新政権になって、やや外交面が混沌としている。このままよいのか、少し懸念している。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・国内外共に、多くの観光客の来訪が続いている。今まで余り目立たなかった若年層の来訪が多く、比較的購買意欲もある。厳冬期は国内旅行客数は例年落ち込むが、インバウンドの来訪も堅調に推移しているため、良い状況は続く。
	□	百貨店（営業担当）	・依然として物価が高く、消費マインドの改善には至らない。向こう数か月で景況が改善する見込みはない。
	□	百貨店（営業担当）	・世間の流行やブームに乗って売れているアイテムは好調だが、収まることがない値上げや価格高騰の影響により、全体的な購買行動のアクセラレートは思い切り踏み込めない。今後も大きな変化は予測されず、現状維持になる。
	□	百貨店（店長）	・先行きは、環境の変化1つで大きく変動する可能性を秘めているものの、この数か月の様子から見て、大きくは変化しないとみるのが妥当ではないかと考える。
	□	スーパー（総務担当）	・新政権の経済対策により多少は効果があると考えるが、それ以上に物価高が進んでいるため、大きくは変わらない。
	□	スーパー（商品部担当）	・今月より良くなることはない。悪い状態のまま変わらない。
	□	コンビニ（店長）	・余りにも値上げ商材が多いため、客の購入行動の予測ができない。
	□	家電量販店（営業担当）	・特売時には売上は上がるものの、平日の不振が大きい。来客数も前年の85%で推移している。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・最近、人の動きはなかなか読めない。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・ブラックフライデーの企画等のディスカウント商材には反応があるものの、それ以外の動きはまだ弱く、当分は価格戦略にシフトせざるを得ない状況である。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・事業所給食部門では、米価の高値が続く見通しで、人件費も、求人難が続くなかで処遇面の改善等が求められている。当面は収支の厳しい状況が続くとみており、生産性向上や省力化を一段と進めるとともに、クライアントとの取引条件の引き上げ交渉を継続していく必要に迫られている。
	□	都市型ホテル（支配人）	・宿泊部門は、中国からのインバウンドは若干下がるとみているが、他の国からのインバウンドを見込めることが料飲部門の受注も順調に推移しているため、変わらないと考えている。
	□	旅行代理店（営業担当）	・物価上昇が続く限り、日々の生活を優先するため、レジャー産業の景気は変わらない。
	□	タクシー運転手	・物価上昇により、忘年会、新年会等は少なくなるとみている。
	□	テーマパーク（職員）	・ガソリン価格の引下げ等、明るい情報はあるものの、依然として物価高騰もあるため、良くなるとはいえない。
	□	住宅販売会社（経営者）	・経済状況が不安定な間は、現状のまま変わらない。
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・リフォーム関連の補助金や助成金の増額があればプラスに転じるかもしれないが、金額が例年どおりなら余り変わらない。
サービス業	▲	衣料品専門店（経営者）	・人口減少、物価上昇、高齢化等のマイナス要因が多いため、やや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、輸出台数が減少しているものの、関税負担の絶対額が大きくなっている。今期の利益が減少し、地域の産業界にも影響が出てきている。
	▲	旅行代理店（経営者）	・販売単価は上がるものの、全体の仕事量は減るため、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連 (北関東)	▲	旅行代理店（所長）	・元々、冬季の来訪者数は落ち込む。冬季を好む東南アジアからのインバウンドの来訪者数に期待したい。ただし、時節柄、春節の中国からのインバウンドの減少には、ある程度の覚悟が必要だとみている。
	▲	通信会社（社員）	・物価高対策を期待しているが、現状では先が見えない。
	▲	通信会社（局長）	・これから年末の繁忙期に入るが、物価は高止まりすることなく更に上がっている。政府の対策も不透明でスピード感もない。金利上昇により住宅ローンなどの支払額も一段と上がる想定になると、ますます買い控えや節約志向になり、景気回復の方向には向かわない。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・冬場は閑散期に入るため、例年来場者は少なくなる。また、プレー人口も減少しているため、一層厳しい状況になると予測している。
	▲	美容室（経営者）	・商材の相次ぐ値上げに伴い、当店も来年、施術料金の1割値上げを断行する。
	×	商店街（代表者）	・12月からの通行止め期間が更に延長され、踏切閉鎖の影響を受ける期間も長くなる。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・客の使えるお金が少ないことが大きい。これが改善されない限りは景気が上向くことはない。必要最低限の物しか売れないため、厳しい。
	×	通信会社（経営者）	・少子高齢化が進む当地では、かなりの不況ではないかと考える。通常、セールやキャンペーン等をほとんどしないメーカーや問屋までが、割引セールを始めている。メーカー担当者の話でも、かなり落ち込んでいるとのことである。やはり物価高の影響は大きく、消費者の財布のひもはかなり固い。円安もそろそろ手を打たないと、中小企業は疲弊していくばかりである。
	◎	—	—
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・年末が近くなり必要な物を買う人が多くなってきている。この先も良くなっていくとみている。
企業動向関連 (東海)	○	一般機械器具製造業（経営者）	・新規案件が動き出し、少しずつ良くなる見込みである。適正価格交渉も進んでいる。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先、受注量、競争相手の様子等は、12月、1月は若干ではあるが、上向きである。
	○	金融業（営業担当）	・クリスマスや年末における消費者の購買は拡大する。2～3か月後は入金等もあり、全体的に良い状況になるのではないかとみている。
	○	経営コンサルタント	・実質所得の伸びが足りないが、物価上昇が抑えられれば冬場の消費増加も期待できる。また、中小製造業の一部では業績が回復し、更なる向上が見込まれる。
	□	化学工業（管理担当）	・3か月先の受注量は既に確定しており、前年同月と変わらない。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・これから2月くらいまでは、平日の時間外勤務が続くとみている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・各業種の取引先が50社ほどあるが、ほぼ全ての会社からの受注が減少している。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・2か月先までの分だが受注が来ており、量的にはかなり増えている。年度末まではこのままの状態でいくのではないかとみている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・今年度末の3月までに、これ以上仕事が増えるという情報はないため、現状と変わらない。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・まだ物価高の状況が続いている。
	□	輸送業（営業担当）	・年末年始に向かい、冬物暖房、エアコン、ヒーター、石油ストーブ、電気カーペットや白物家電、初売り商材や冬物寝具等の物量は、前年並みを確保予定だが、ドライバーや車両不足等もあり、コスト高で利益は薄くなりそうである。
	□	社会保険労務士	・予算は無事成立すると思うが、地方創生にも引き続き力を入れてほしい。
	▲	食料品製造業（経営者）	・消費者の生活防衛への取組みは一層厳格になると予想される。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・取引先の注文量の推移をみると、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (北関東)	▲	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・主要取引先が減産傾向にある。今のところ、極端に悪くなっている様子はないが、非常に不安である。
	▲	建設業 (総務担当)	・想像以上に全体的な業務量が足りていない上に、この先も回復する見込みは余りない。
	▲	不動産業 (管理担当)	・協力会社からの値上げ要請や資材の値上げ傾向も続いているため、継続的に利益を出すことに苦労しそうな環境が続く。
	×	—	—
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社 (経営者)	・年末年始に向けての買い控えはあるとみているが、どうしても必要な物については購買力は上がっていく。ガソリン、灯油、野菜など、堅実に伸びていくのではないかとみている。贈答関係での商材の家電、家財、装飾品等は、やむを得ずお金を掛けると予測しており、同時に購買力も上がると見込んでいる。
	□	人材派遣会社 (社員)	・新規採用の依頼は例年と変わらないものの、来春の賃上げ交渉については、比較的前向きの状況である。
	□	職業安定所 (職員)	・新規求人数の前年同月比での動向をみると、医療、福祉分野は増加傾向で推移しており、建設、製造、卸売・小売業については増減を繰り返している。
	▲	人材派遣会社 (管理担当)	・派遣数が増加するような時給の高い求人がないため、やや悪くなる。
	▲	学校〔専門学校〕 (副校长)	・取引業者の話では、物価上昇による影響が大きく利益がかなり減少しており、これがしばらく続きそうだとのことである。景気の減退が見込まれる。
	×	*	*

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

(ー：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	◎	一般小売店〔食料雑貨〕 (経営者)	・月末に商業施設がオープンしたため、この先も良くなる。
	◎	一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・9月から毎月前年比では20%から30%以上の増加率で売上及びレジ通過客数が伸びていることに鑑み、年末から年始にかけては購入単価も上がるとみられるため、景気は上向きに推移する。また、従来はヒット商材や売れ筋が偏っていて、その商材の入手が困難となる事態が発生していたが、ここ数年は売れ筋が多種に分かれ、品切れを起こすこともなく、コンスタントに販売できていることも売上好調の要因になっている（東京都）。
	◎	衣料品専門店 (経営者)	・いろいろな施策を打っている。これでも駄目ならどうしようもない。
	◎	一般レストラン (経営者)	・12月は忘年会があり1年で最も忙しい月になる。宴会料理の価格を改定したが、常連客もそれを承知で予約しているため、今年の12月も宴会数に期待できる（東京都）。
	○	商店街 (代表者)	・新内閣に対する期待値、支持率が高いからは消費の押し上げ効果が続くが、政局が不安定化したり、期待を裏切ったときは下方修正もある。また、異常気象、厳冬や大雪などの気象リスクによる不安もある（東京都）。
	○	一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・年末のため、少しは良くなる。
	○	一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・外商の方は、ランサムウェア攻撃を受けた通信販売大手のシステムが何とか12月中には6割くらい復旧できるだろうという予測ではあるが、システムが直ったとしても、1度客離れがあったため、なかなか全てが回復するのは難しい。また、小売の方は、可処分所得が少ないのか、徐々に単価が下がってきてている。不必要的物やし好品は極力買わない、買えないという状態が続いている。
	○	一般小売店〔書店〕 (総務担当)	・基幹事業の業績は振るわないが、関連事業は好調である。今年度については前年並みの業績が見込まれており、今月よりも状況は良くなる見通しである（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
○	百貨店（営業担当）	・免税売上における中国の状況が不安材料ではあるものの、ボリュームファッショントークンを中心としたクリアランスセールや春物の国内需要については好調が続く見通しである（東京都）。	
	百貨店（販売促進担当）	・秋以降の気温推移が順当なお陰で、売れるべき物が売れるべき月に売れている。これにより、この先1～2月のセール商戦から初春物商戦にかけても、当初から計画している品目の適時的確な販売が期待できる（東京都）。	
	百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向から、やや良くなる（東京都）。	
	スーパー（経営者）	・経済対策が積極的に行われているため、客の財布のひもも多少は緩んでくるのではないかとみている。また、近隣にできた大手ディスカウントストアに苦しめられた1年が経過し、前年比では少しづつ上がってきていているため、これから少しは良くなってくる。	
	スーパー（経営者）	・新政権になってからやや明るさが出てきて、来客数、客単価共に回復傾向にある。ガソリン暫定税率廃止の効果ではないかと考える。	
	スーパー（総務担当）	・新政権に期待している。	
	スーパー（販売担当）	・12月になると、やや良くなる。	
	コンビニ（エリア担当）	・年末に向けて需要が伸びると考えられ、今と同じくらいの景況感で推移する（東京都）。	
	コンビニ（商品開発担当）	・株価が高いため、年末に向けて期待感がある（東京都）。	
	家電量販店（店長）	・政府による積極財政で消費意識が向上したり、春闇での賃上げが前年を上回ることができれば、消費マインドが改善し、景気が良くなる。	
	家電量販店（店長）	・燃料費などが下がり、物価高が落ち着くことを期待したい。	
	乗用車販売店（経営者）	・年末年始にセールを実施するため、集客が増え、販売量も増加する。	
	乗用車販売店（総務担当）	・2～3か月先は決算月、需要月でもあり、今より回復すると見込んでいる。ただし、中古車市況が著しく変化した場合は悪化する可能性もある。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・政治の変化や新政権への期待により将来に対する安心感が出てきて上向くのではないかと期待している（東京都）。	
	一般レストラン（経営者）	・景気は良く、年末年始の来客数が増えるとみているが、円安が続き、輸入品の価格が高くなり、仕入価格の高騰につながっているため、利益が出ない（東京都）。	
	旅行代理店（営業担当）	・ガソリン価格の値下げにより車移動が増える。	
	タクシー運転手	・今年も残り少なくなり、いよいよ1年を通して最も忙しい繁忙期を迎える。駅出し、会社無線、配車アプリの利用もあり、ロングの客も増えているため、忙しくなる。	
	タクシー（団体役員）	・来月は繁忙期になるため、今月よりはましである。	
	通信会社（経営者）	・客の様子が明るくなってきたように見受けられる（東京都）。	
	通信会社（社員）	・年度末までの企画が順調に進んでいる。世間の景気も維持され会社の採算も見込める（東京都）。	
	通信会社（社員）	・株高の恩恵が市場に反映されてくることが期待される（東京都）。	
	通信会社（管理担当）	・イベントを含めて案件を積み増ししており、そのなかで納品スパンの短い案件から販売が加速する見込みである（東京都）。	
	通信会社（営業担当）	・新商品をリリースする（東京都）。	
	観光名所（職員）	・来客数が徐々に回復している（東京都）。	
	ゴルフ場（従業員）	・予約が好調に入っている。	
	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	・SNS効果が出てきて、Web予約や問合せが多くなってきている。年末年始や2～3月の100名オーバーの大型予約も数件入っている（東京都）。	
	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（営業担当）	・緩やかながら来客数が前年を上回る推移が続いている。年明け以降もこの状態が維持されるとみている（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	その他レジャー施設 〔複合文化施設〕（財務担当）	・新内閣の経済対策によりやや良くなる（東京都）。
	○	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・例年12月から2月頃までは繁忙期のため忙しくなる。
	○	住宅販売会社（経営者）	・都内のホテルの宿泊料金は前年と比べて15%も上昇しつつあり、ホテル業界はまだ良くなる。問題は建設費の高騰が続く建設業であり、我々中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、物価に追い付くだけの値上げはできない。
	○	住宅販売会社（従業員）	・みらいエコ住宅2026事業の補助金が閣議決定されたという報道により、今年の補助金申請に間に合わなかった客の動きが必ず出てくる。住宅ローン金利も上がらないため、景気はやや良くなる。
	○	住宅販売会社（従業員）	・イベントの集客状況が今までより良い。
	○	住宅販売会社（従業員）	・販売中の物件への問合せ数が増加しているため、今後の成約件数も伸びるとみている。懸念点として、政府が節税対策の不動産商材について規制を強める方針のようなので、今後の動向を見守りたい。
	□	商店街（代表者）	・物価高が長く続いていることで、客が買物に慎重になっていることは間違いないが、そのなかでも買物にやや積極的になってきているように見える。そういう意味では大変有り難く、これからも商売にしっかりと取り組んでいきたい。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・今はとにかく客との話が全く進まず、先の動きがみえない。全体的に、今まであった電化製品等の売上はなくなってきて、細かい工事等の依頼が増えている（東京都）。
	□	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・今の家電業界にはこれといった新商材はないが、補助金絡みの仕事や工事などはある程度あるとみている。
	□	一般小売店〔家具〕（経営者）	・景気が良くなる要素がないため、この先も状況は変わらない。じっと我慢を続けるしかない（東京都）。
	□	一般小売店〔印章〕（経営者）	・当店は年賀状印刷等の受付をしているが、近年は年賀状文化が薄くなっている。郵便局での年賀状印刷の受注、年賀状自体の値上がり、年賀状を控える客など非常に厳しい環境である。大変な思いをして受注していたこともあったが、今は非常に少ない。
	□	一般小売店〔米穀〕（経営者）	・収入と支出のバランスが大事である（東京都）。
	□	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・仕入価格、人件費が高騰している。来客数が伸びて、売上が増えないと厳しくなりそうである。現政権で円安が進めば更に厳しくなると予想する。
	□	一般小売店〔乳業〕（経営者）	・顧客数の減少を新規獲得で補えそうである（東京都）。
	□	一般小売店〔生花〕（店員）	・3か月後の2月頃は余りイベントがない。バレンタインデーはあるが、それほど需要は多くない。今の時期の方がまだ花の需要がある。今月は初旬に三味線の発表会があり、それなりに良かったので、2～3月も今月と同じくらい売れるといい（東京都）。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・当社の取扱商品は年末でも売上は変わらない。販売量が伸びることを願っているが、期待はできない（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	・中国人観光客減少の影響は避けられない。来年以降も商材の値上げ傾向は続くとみられるため、現状維持若しくは若干悪化していくとみている。政権は安定方向に向かっているものの、円安による輸入商材の値上げが商材価格に影響するため、楽観視できない（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	・多岐にわたる物価上昇からくる消費マインドの冷え込みは継続することが予想される。
	□	百貨店（総務担当）	・年明け以降に具体的のある景気対策がみえてくる可能性があるとはいっても、何が起きるか分からない不透明さが完全になくなったようにはみえない。消費者心理の迷いも同様に続き、先行きはどうなるか分からない（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	・インバウンドのマイナス分を国内富裕層がカバーすることで現状維持となる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（広報担当）	・多くのシェアを占める国内客の動向には大きな変化がなく、現状の堅調な景気が続く。来春の賃上げが思い切ったものにならない限り、この短期間では大きな成長は期待できない。インバウンドは足元の日中摩擦の収束時期が現時点ではみえないため判断できない。ただし、全体への影響は限定的とみられるため、国内客の動向が景気を左右するファクターと考えている（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	・燃料費などの値下げや負担軽減策が進んでいるが、原材料価格の高騰や最低賃金引上げなどによる商品価格の上昇は続く見込みであり、不安要素は大きい（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	・ここ数か月で、国内客、インバウンドの来客数の伸びは前年並みとなり、堅調を維持している。また、世の中の価格上昇に際し、担当しているショッピングセンターでは割合低価格から中価格帯の商材を取り扱っているため、ここ数か月と同様に1けた成長を続けている（東京都）。
	□	百貨店（販売促進担当）	・今後は政府による物価高対策の実施やボーナス支給もあり、年末年始需要に期待しているものの、客の消費に対する意識は厳しく、しばらく景気の傾向は変わらない。
	□	百貨店（店長）	・物価の上昇が止まることは考えにくい。建築費の高騰により店舗の修繕や新規投資が行いにくく状況が続く。小売業の人員確保が難しく、アルバイトは時給で就業先を決める人が増えている。
	□	スーパー（経営者）	・最低賃金が毎年上がっているものの、最もボリュームの多い非正規労働者の年収の壁が変わっていないため、年間の手取り額は変わらず可処分所得が増えていない。
	□	スーパー（店長）	・来客数と買上点数は今後も下向きである。1品単価は引き続き上昇傾向だが、1人当たりの買上点数は前年並みである。必要な物は購入するが、余計な物は購入しない等、取捨選択をする客が増えている。
	□	スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いている。年末年始を控えて出費が多くなる時期を迎えるため、日々の食生活において消費マインドが向上いてくるとは考えられない。したがって、同様の状態がもうしばらく続く（東京都）。
	□	スーパー（営業担当）	・単価の上昇、販売量及び来客数の減少は続くとみている。食費の中心となる野菜や米の価格状況により消費動向が変わってくる（東京都）。
	□	スーパー（仕入担当）	・米価は、全農が1俵3万円を超える価格で概算金を支払ったため、現在の銘柄米の価格は高い今まで、令和6年産米が出回ったり、在庫が余ってきている。輸入米、備蓄米を含めて今後の動向が非常に気になる。
	□	コンビニ（経営者）	・人件費が高騰しており、厳しい経営状態が続きそうである。
	□	コンビニ（経営者）	・物価高の影響が重くのしかかっており、円安傾向もすぐに改善しない（東京都）。
	□	コンビニ（エリア担当）	・来客数は伸長しているものの、買上点数が伸びてこない。ついで買いというよりは目的買いが多いため、変わらない。
	□	コンビニ（店長）	・特に変わるべき要素がない（東京都）。
	□	コンビニ（従業員）	・新年を迎えるも景気は変わらないと予想している。景気が良くなる政策が打たれれば世の中の人々の消費行動が活発になる。給与が増えたり、給付金が支給されることなどがあれば、ふだんの買物での買上単価も上がってくる。逆に、そのような政策が打たれない限りは消費行動は変わらない。
	□	コンビニ（従業員）	・年が明けても景気の変動による消費行動は増えそうにはない。良くなることはなさそうだが、悪くなる感じもしない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・変わらないというのは、低迷したままで変わらないということである。諸物価が上がり、円安も続いており、輸入加工品を扱う当社としては大変困っている。12月は商店街でもいろいろなキャンペーンがあるが、個人店の参加が少なくなつておらず、先行きを心配している。
	□	衣料品専門店（店長）	・日中関係の影響で、好調だった株価が軟調になり、良い物志向の富裕層の購買意欲が低迷することが懸念材料だが、今のところ業績は横ばいが続くものとみている（東京都）。
	□	衣料品専門店（役員）	・衣料品需要は物価上昇の影響を最も受けている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。客の来場は結構あるものの、なかなか成約に結び付かない。
	□	乗用車販売店（経営者）	・一気に好転するような材料がない（東京都）。
	□	乗用車販売店（販売担当）	・円安の影響により輸入品が圧倒的に高くなっている。食料品は輸入品も多いため、生活に必要な食料品の価格も上がっているが、賃金はそれほど上がってない。政府が賃上げを主導し、物価を引き下げ、円安から円高に誘導しないと、景気は変わらない。逆に、また悪くなる可能性もある（東京都）。
	□	乗用車販売店（涉外担当）	・販売が増加する要因が見当たらない。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・春闘でのベースアップや一時金増額が想定以上でないと厳しい状況は続く（東京都）。
	□	住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界においては、令和7年度の国策補助金事業の終了により客の動向に様子見の部分もみられたが、来年度の補助金事業が閣議決定されることにより、現状からの大きな後退はないとしている（東京都）。
	□	その他専門店「ドラッグストア」（経営者）	・消費者はどうも活気がない。いろいろ目玉商品などを作つて集客しているが思うようにはいかない。
	□	その他専門店「貴金属」（統括）	・販売単価はやや伸びているが、インバウンドが落ち着きを見せていること、国内客への販売量も伸び悩んでいることから、余り変わらない（東京都）。
	□	その他小売「生鮮魚介卸売」（営業）	・このところの社会不安をあおるような報道やニュースも、買物客の心理に影響していると考える（東京都）。
	□	高級レストラン（営業担当）	・年明け以降の法人関連の宴会予約状況は前年と同様で推移している（東京都）。
	□	高級レストラン（役員）	・政権が代わったことにより今後に期待感はあるものの、米国株価の低迷や政治改革にも時間が掛かるとみている（東京都）。
	□	高級レストラン（仕入担当）	・景気減速の理由はなく、年末の利用予約もあり、このまま順調に推移していくと予想している（東京都）。
	□	一般レストラン（経営者）	・2～3か月後の年明けはどのような動態になっているか分からないが、決して良くもなく悪くもなく、今と変わらない。
	□	一般レストラン（経営者）	・日中関係の影響により、周辺でも宿泊等のキャンセルが出ている。このままでは結構な打撃になるところもある。
	□	一般レストラン（経営者）	・過去半年くらいはやや上向きだったが、現時点では売上は頭打ちのため、それほど変わらないとみている（東京都）。
	□	その他飲食「カフェ」（経営者）	・当店はインバウンドの影響は余りないが、徐々にリピーターが増えつつある（東京都）。
	□	その他飲食「カフェ」（経営者）	・売上は上がるものの、材料価格の上昇で利益率が悪いため、これが改善されないと変わらない。良くなることを期待したいが、円安が止まらず1ドル160円以上になることもみてきているため、更なる価格転嫁や別の方法を模索しながらの企業努力が必要である（東京都）。
	□	その他飲食「居酒屋」（経営者）	・今後も物価上昇が続く見通しである（東京都）。
	□	その他飲食「給食・レストラン」（役員）	・当期の材料費、人件費のコスト増加は現在交渉中の価格転嫁で来期に取り返すことになるため、これから来年3月までの下期利益は上期と比べてやや悪くなる（東京都）。
	□	都市型ホテル（経営者）	・11月は非常に良かった。これから年末年始を迎える、現状を継続できればよいが、世界情勢などの先行きが不透明な部分もあるため、心配である。諸経費や仕入原価等の高騰はあるが、それを克服し、良い状況で来年を迎えるべし。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・変わらないというより、中国との関係や米国の関税政策の影響など先行き不透明な部分が多いため、分からぬ。
	□	旅行代理店（経営者）	・インフルエンザが大流行しており、なかなか客足が戻ってこない。
	□	旅行代理店（従業員）	・ここ2～3か月は前年同期比105～110%で推移している（東京都）。
	□	タクシー運転手	・年末年始を目前にしているが、値上がりが止まらず、今までにない年末になりそうである。この先が心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
□	□	タクシー運転手	・11月は夜の客の動きが大分鈍くなっている。コロナ禍以降の生活習慣が続いている。来年に向けて、年末から2月までは客の動きが増えて忙しくなる（東京都）。
	□	タクシー（経営者）	・物価高と経済対策でプラスマイナスゼロとみている。
	□	通信会社（経営者）	・機器及び工事等が増加傾向にはない現状は2～3か月先も変わらない（東京都）。
	□	通信会社（営業担当）	・物価高が続くなかで、景気が上向く兆しありえない。
	□	通信会社（局長）	・日中関係等の政治情勢はあるものの、当社への影響はない」と判断している（東京都）。
	□	通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
	□	通信会社（経営企画担当）	・現状のまま毎月推移していくと予想している（東京都）。
	□	通信会社（営業担当）	・物価高が止まらないと、景気は良くならない（東京都）。
	□	通信会社（経理担当）	・消費者に関連してくるような産業が活性化するような話題がないため、すぐには変わらない。
	□	通信会社（営業担当）	・大きくは変わらない。中国との関係によって変化する可能性がある（東京都）。
	□	通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されない（東京都）。
	□	観光名所（職員）	・日中関係がどのくらい影響するのか、また、それがいつまで続くのか不透明なところがあるため、注視していきたい。一方で、飽和状態であった都内の宿泊施設は、中国人観光客が抜けてもこれまで予約できなかった他国からの客の利用を考えられる。都内のインバウンド自体の減少は余りなく、心配するほど大きな影響はないのではないかとみている（東京都）。
		□ ゴルフ場（経営者）	・特に情勢は変わらないと予測している。
□	□ ゴルフ場（経営者）		・政府による経済対策等が行われれば景気は回復するはずである。
	□ 競輪場（職員）		・状況が変化しない。
	□ その他レジャー施設〔ボウリング場〕（従業員）		・大きな変化がみられない（東京都）。
	□ その他レジャー施設〔映画〕（営業担当）		・新政権になってまだ時間がたっていないことと、企業の四半期決算をみる限り、景気に大きな変化はない（東京都）。
	□ その他サービス〔保険代理店〕（経営者）		・現状と比較して先の景気は上向きになる。
	□ その他サービス〔フィットネスクラブ〕（エリア統括）		・物価、個人消費等、どの側面からも景気回復の兆しがみえない（東京都）。
	□ 設計事務所（経営者）		・今ある物件は具体的になっていくだろうが、現在、新規の案件が入ってきていない。
	□ 設計事務所（職員）		・期待したいが、まだ分からない（東京都）。
	□ 住宅販売会社（総務担当）		・企業が雇用を抑え、現有人員での業績回復を目指しているため、若者を含む活性化は困難である。
	▲ 一般小売店〔家電〕（経理担当）		・年末に向けて、今年も早くからテレビやインターネットで安売りをしているところが多くみられる。広告を出すタイミングも例年早くなっています。年末らしさがなくなっているように見受けられる。価格に敏感な客が多いため、売上が上がっても利益が少なくなっている。
▲	▲ 一般小売店〔酒類〕（経営者）		・良くなる兆しがみえない。
	▲ 一般小売店〔傘〕（店長）		・この先、冬場の関東地方は降雨の少ない時期になり、傘の使用頻度が減るため、買い求める客も少なくなる。
	▲ 百貨店（売場主任）		・日中関係の緊張が続くなか、影響が長期化することを心配している。年末年始の最繁忙期後、年明けのインバウンド動向を懸念している（東京都）。
	▲ 百貨店（営業担当）		・インバウンドの減少傾向がこのまま続くと、国内消費の底上げだけでカバーすることは難しくなってくる（東京都）。
	▲ 百貨店（営業担当）		・円安の影響により年末年始の海外渡航は減少することが予想され、国内外の国内での消費に一定レベル置き換わるものと推測するが、インバウンドについては中国人客の減少が影響する想定である。景況は現状から一定レベル悪化するものとみている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	百貨店（財務担当）	・日中関係によるインバウンドの減速等が景気にマイナスの影響を及ぼす（東京都）。
	▲	百貨店（企画宣伝担当）	・中国人旅行者の渡航が抑制されるなか、それらに依存していた業界の低迷が予想され、他業態にも影響が出る。
	▲	百貨店（管理担当）	・おせちやクリスマスケーキの動きが悪い。食に対しても買い控え傾向がうかがえる（東京都）。
	▲	スーパー（経営者）	・金利の動向や原材料等の価格高騰により、やや悪くなる（東京都）。
	▲	スーパー（ネット宅配担当）	・1品単価の上昇により、販売量がますます落ち込む傾向になる。
	▲	スーパー（食品担当）	・食品への支出は最低限であり、1品単価は上がるものの客単価は上がらない（東京都）。
	▲	コンビニ（経営者）	・競合店がお店してきたため、これから年末年始に向けて来客数、単価共に減少する。
	▲	コンビニ（経営者）	・今月より時給を大幅に引き上げたにもかかわらず従業員が集まらず、24時間営業が困難になっている。今後も厳しさが増す。
	▲	コンビニ（経営者）	・政治のせいにしてはいけないのかもしれないが、政策によって左右されることがかなり多い。パートやアルバイトも幾らまで働いたらよいのか、働けないのか、たくさん働いた方がよいのかと、とても不安を抱いている。当店としては販売量の減少に伴い仕事量も減っているため、スタッフを減らす方向にかじを切りたいこともあり、非常に不安な状態である。
	▲	コンビニ（経営者）	・コンビニ業界としては現状維持というところだが、当チェーンでは夏の不祥事があったため、今のところ良くない。コンビニはどうしても季節的に冬が弱く、夜間の来客数が少し落ちてくるため、今後2～3か月は悪くなっていく。不祥事についての改善がどこまで進むか、来客数が元に戻ってくるかを注視している。
	▲	コンビニ（経営者）	・商材の値上げもあり客単価は伸びているものの、来客数は増えていない。コンビニではなく安価なドラッグストアに客が流れている。消費者は今後の不安もあり、購買金額を抑えているようである。消費税の廃止等、減税や社会保険料の減額を実施しないと景気は悪いままである。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・競合店出店の影響は年単位で続くことが想定される。また、近隣のイベントも前年同様とはならない（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・来客数のトレンドは変わらないため、2～3か月後も今と同様にやや悪い動向になる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・日用品、食料品の値上げの影響が出始め、デイリー需要の来客数、売上が落ちており、今後もこれが継続する。ただし、イベントなどではそこまで財布のひもは固くないため、クリスマスや年末年始、イベント時のスポットでの売上は期待できる。
	▲	衣料品専門店（従業員）	・まだ物価高が続くとみられるため、きちんとした物価対策が打たれなければ、客の購買意欲は湧かない。
	▲	家電量販店（店長）	・現在の政治情勢を見て、中国圏のインバウンドが減少し、売上に影響が出ることを心配している（東京都）。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	・3月の本決算前は例年どおりの落ち込みが懸念される。
	▲	乗用車販売店（営業）	・今後も車種を絞ったり、下取り価格が上がらないと厳しい。
	▲	その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・年末年始の盛り上がりは年々減ってきてている。セールでもついで買いが減っているため、客単価が伸びない。
	▲	高級レストラン（経理担当）	・資産価格の下落や外国為替などを巡る不安感が広がるか顧在化し、消費は冷え込む（東京都）。
	▲	一般レストラン（経営者）	・2～3か月先の1～2月はとても寒く、なかでも2月は飲食業が最も暇な時期で、現在よりも3割くらいは売上が落ちる。今後の景気は今よりやや悪くなる。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・年末年始はピークとなるが、それ以降はオフシーズンとなるため、稼働が下がっていく。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・円安が進み過ぎている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向 関連 (南関東)	▲	タクシー運転手	・例年どおりなら3か月後は10月と比べて売上が減る。しかし、配車アプリからの仕事を増やし、流しの客の利用が減った分を少しあ取り戻せるのではないかとみている（東京都）。
	▲	通信会社（管理担当）	・当社の状況が変わらないとしても、大手通信キャリアの対応は進むため、競合他社との競争など契約獲得に対する難易度は高まる（東京都）。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・3か月先は真冬で気温が低くなるため、例年どおり来場者数は厳しくなる。今月と比べて15%程度は来場者数が減ることが予測されることから、何らかの対策を講じて歯止めを掛けたいところである。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・依然として物価の上昇が続いている。
	▲	パチンコ店（経営者）	・政府の景気対策のうちガソリン暫定税率の廃止以外は来年以降となり、物価高の勢いが止まらず、消費マインドに悪影響を及ぼしている。日中関係も今後いろいろな方面で影響してくれる。
	▲	その他レジャー施設〔総合〕（経営企画担当）	・中国の日本渡航制限が春節まで長引いた場合、ダメージが非常に大きい（東京都）。
	▲	美容室（経営者）	・来店頻度が鈍っている理由が分からない。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価高のため、通う曜日を減らしたりする生徒が出てきている。業界にとって余り良くない。景気は悪くなっている。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・期間講習の受講率や客単価などからみて、財布のひもは固い。
	▲	その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・物価高、エネルギー関連の価格高騰が影響する。
	▲	設計事務所（経営者）	・仕事は入札や営業などでやや入っているが、全体の流れとしてはややマイナスに向かっていくとみている。話合いがまとまらないだとか、一般的な来客数の減少が一目瞭然である。仕事をこなす従業員の数が少ないことが目下最大の悩みである。
	×	都市型ホテル（経営者）	・中国の関係で、都内のインバウンドに影響が出れば、間接的に都下の宿泊単価、稼働率に影響が出ることが予想される。実際に影響が出るかどうかは来月以降になる（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・物価上昇により販売数は横ばいとなる。
	×	ゴルフ場（経理担当）	・素材やエネルギー価格の高止まりが続き、固定費の回収すら苦慮する経営環境にあり、依然として利益を創出できない状況が続いている。3か月後に当たる2月は降雪による影響を受けやすく、現下の不安定な天候状況に鑑みると、楽観視はできない。物価情報、実質賃金低下により生活防衛を意識し、高額レジャー支出の抑制行動が顕著となる状況を総合すれば、景況感の回復を展望することは困難である。
	×	設計事務所（経営者）	・今しばらく傾向が変わる要素がない。
	×	設計事務所（所長）	・受注の見込みがない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建築資材の荷動きのなかでも、先行きの物件情報が先細りしている印象が強い（東京都）。
企業動向 関連 (北関東)	◎	その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・ボーナスも例年より大幅にアップしており、景気は上向き傾向である。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・ここ数か月の取引量増加は兆候がなかったが、既に予定されている新規の取引が予定どおりに始まれば、更に忙しくなるため、並行して人員募集も進めている。
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	・A I関連製品に代表される半導体製品の需要が拡大している。その要求に品質的にも納期的にも対応できれば、景気は更に良い方向に向かっていく。
	○	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・人気車種を持つ自動車メーカーは販売が好調である。年度末にかけて発注量が増えていく見込みである。
	○	通信業（従業員）	・物価高が少し改善されることが期待できる（東京都）。
	○	税理士	・年末調整による還付金の増加が見込まれ、賞与支給も順調である。金利の上昇もそれなりに抑えられ、株価は上がる要素の方が大きく、円安も落ち着き、自動車以外の輸出産業は堅調である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	食料品製造業（経営者）	・年末にかけて原材料が高騰しているため、利益が取れなくなってくる可能性がある。
	□	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・やや上向きになってきているが、1～2月に特に増えている材料はない。店頭の来客数も横ばいでほとんど変わらないのが現状である（東京都）。
	□	化学工業（従業員）	・年内の受注量は例年並みであり、年が明けても増加する要因はない。
	□	化学工業（総務担当）	・業界としては閑散期になるため、しばらくは今のやや悪い状況が続く。
	□	金属製品製造業（経営者）	・日銭を稼ぐような案件は増えてきているが、大型案件が動くという確実な情報もないため、当面は現状のままで変わらない。
	□	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価高の影響により客の来店頻度が下がっている（東京都）。
	□	建設業（経営者）	・諸物価がどんどん上がっていかなかで賃金等は余り上がらないため、景気は余り良くならず、変わらない。
	□	建設業（従業員）	・ガソリン暫定税率が廃止されても物価上昇は収まるどころかますます高騰しているため、2～3ヶ月先もさほど変わらない。
	□	輸送業（経営者）	・このまま受注、販売量の高止まり傾向が続きそうである。ガソリン暫定税率廃止に伴う良い影響も期待したい（東京都）。
	□	輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量は微増しているが、予想以上にはなっていない。輸出に関しては予定もない。今後も現状のままだと予想している。
	□	金融業（従業員）	・原材料価格の高騰分を価格転嫁できず厳しいとの声が多く聞かれる。そのようななかでも、経費の見直しで利益を確保している企業や、インターネット販売や宣伝強化により新規客の開拓を行うなど、先行き不安な状況ながらも前向きの取組を行う企業もみられる（東京都）。
	□	金融業（総務担当）	・年末商戦は売上増加要因だが、人件費高騰や値上げ等もあり、実質収支は変わらない。建設業、不動産業は売上増加傾向が顕著である。景気対策が奏功し、ガソリン価格が下がれば、その分消費に向かう（東京都）。
	□	金融業（営業担当）	・造船関連の企業からは受注の動きは活発との話を聞くが、他の製造業からは、今後の受注見込みの聴取から、近々に大きく改善し得る要因は見当たらない。建築関連においても、先の受注はみえているものの、足元の推移は低調であり、回復にはしばらく期間を要するようである。
	□	不動産業（従業員）	・人件費、建設費が高止まりしているが、販売価格、賃料も高値を維持している（東京都）。
	□	不動産業（総務担当）	・オフィス、商業テナントの賃料も上昇しており、今後もしばらくは景気の落ち込みはない（東京都）。
	□	広告代理店（従業員）	・多少中身の入れ替わりはあるものの、数字としては前年度を何とか維持した状態で推移している。新規の取引や案件などプラスアルファまで伸ばせてはいない（東京都）。
	□	税理士	・大企業、特に輸出企業は円安の恩恵で、1ドル75円だったこともある10数年前と比べて、同じ物を売っても倍以上の金額が入ってくるため、利益がたくさん出ているところが多い。一方で中小企業、特に食料品を含めて原材料に輸入品を使っているところは、円高の頃と比べて倍以上の金額になっているから大変である。賃上げといつても体力がなければ上げられず、従業員は賃金の良いところに移っていくので、経営は厳しい（東京都）。
	□	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
	□	経営コンサルタント	・中国との関係への懸念など、良くなる材料がない。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・周りの取引先である中小零細企業には景気回復の兆しがみえないため、しばらく低迷した状態が続く。
	□	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・値上げ交渉を続けていく。
	▲	食料品製造業（経営者）	・中国からのインバウンド減少の影響がある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
業界別	▲	出版・印刷・同関連産業（所長）	・11月から各用紙メーカーの価格改定に伴い値上げ交渉を行っているが、順調に進んでいない。この先も厳しい状況が続く（東京都）。
	▲	プラスチック製品製造業（経営者）	・インバウンドの復活で少しずつ上昇する気配のあった化粧品容器の受注が、日中関係の影響で、雲行きが怪しくなっている。
	▲	建設業（経営者）	・政治が安定してくれればと考えている。
	▲	建設業（経営者）	・設備投資は中止等が出始めているが、補助金絡みの案件は進みそうである。
	▲	輸送業（経営者）	・運賃収入の核をなす取扱量と納品先の店舗数がマイナス基調にあり、回復の兆しが見えないため、厳しい状況が当面続く（東京都）。
	▲	金融業（支店長）	・中小零細企業は人材確保のために多大な費用を投じて雇用の維持に努めているが、原材料価格の上昇も重なるなか、発注先からの単価は思うようには上がっておらず、赤字の取引先が多くなっている。
	▲	不動産業（経営者）	・賃貸物件の入居率に変化はないともみているが、物価高、人件費の上昇により物件の維持費が膨らみ、収益が悪化する。
	▲	広告代理店（経営者）	・原材料費や人件費の高止まりが続くなか、飲食店では価格転嫁に限界もあり、採算を維持するためのコスト削減や支払条件の見直しが増えている。当社への受注動向としては、価格改定などのための制作物の依頼も多くあるが、費用を捻出できないため、既存デザインを転用することが多い。全体的に先行きの不透明感が強く、短期的には景況感の悪化が続くと見込んでいる（東京都）。
	▲	広告代理店（営業担当）	・日中関係の動向により、プロモーションやイベントのキャンセルが出てきている。影響がもうしばらく続きそうである（東京都）。
	▲	経営コンサルタント	・関税の問題やその他の輸出環境が下り坂のようで、中小製造業にとってより厳しい環境になると見込まれる。50年前の公共事業で整備したインフラがメンテナンス時期に入っていることから、当時のようには国は積極的に公共事業を行うなど、大きく動き出してほしい（東京都）。
	▲	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・最低賃金引上げで原価が上がるため、既存契約の値上げができなければ利益を圧迫することが予想される（東京都）。
	▲	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・今後の業績予想が良くないため、大型案件がないのではないかとみている（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・12月で繁忙期が終わるため、その後は悪くなる（東京都）。
	×	金属製品製造業（経営者）	・従業員に対しては賃上げ、発注企業には値上げ要請を認めるなどといえば耳障りは良いが、賃上げ分を少しでも価格転嫁すれば、中国などの輸入製品と比較され、海外からの調達が増えるため、結局は受注が減るという現実に直面している。これから受注が増えることは考えられない。
	×	精密機械器具製造業（経営者）	・取引の方針説明会で、営業利益が悪化し我々パートナー企業へのコストダウン要請を行いたい旨の説明があった。3か月先の年初は例年どおり受注が減るため、余計に不安である。
	×	建設業（営業担当）	・受注予定案件の中止や延期が続き、受注状況が読めなくなっている。
雇用関連 (南関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・まだ様々な課題はあるものの、企業努力にて改善することは可能である（東京都）。
	○	人材派遣会社（社員）	・足元の状況が続いているが、やや良くなる（東京都）。
	○	人材派遣会社（社員）	・新年度からの新規人材の採用、増員若しくは交替を検討している企業が多く、求人依頼が増加する見通しである（東京都）。
	○	人材派遣会社（営業担当）	・例年、年度末に向けて短期需要なども含めて求人数が増加する傾向にある。短期案件も若干増えてきており、数か月先是現在より求人数、求職者数共に増加し、人材が流動化する可能性がある（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
人材派遣会社	○	新聞社〔求人広告〕(担当者)	・大変な状況のなかでも何とか生き残るため、他業種に転換したり新規事業を始めようと動いている会社が10数社あるため、その分を何とか取り込もうとしている。
	○	職業安定所(職員)	・有効求人数の増減は月ごとにばらつきがあるものの、前年同期を上回る状況が続くなど、全体的には増加傾向にある。
	□	人材派遣会社(支店長)	・社員枠の欠員補充、採用難による派遣代替など人材需要は底堅く継続する(東京都)。
	□	人材派遣会社(支店長)	・働き方、環境重視だけではなく、成果と働き方の両方を求め実現できる社会になれば経済がよく回るが、それには少し時間が掛かりそうである。
	□	人材派遣会社(社員)	・登録者数の状況に改善の傾向がみられない(東京都)。
	□	人材派遣会社(社員)	・予定される求人数に大きな変動はなさそうであり、規模の大きいイベントもないため、変わらない。
	□	人材派遣会社(営業担当)	・現時点で製造業の開発が衰退するようなネガティブな情報は聞こえてこないため、今後も現状のまま変わらない(東京都)。
	□	求人情報誌製作会社(経営者)	・事業者仲間や取引先から景気の良い話は聞こえてこない(東京都)。
	□	求人情報誌製作会社(広報担当)	・待遇の良い会社は増えているとみているが、物価が上がっているため、余り景気が良くなることは見込めない(東京都)。
	□	職業安定所(職員)	・周辺の製造業では、受注量はあるものの、人材不足により残業で対応している。ただし、残業対応にも限界があり、売上を伸ばせない。したがって、労働者に残業代は支給しているものの、賃上げに踏み切れるほどは利益を確保できていない。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	・求人の動きは従来から余り変わらず、求職の内容もほぼ技術系、営業系の事務に偏っている(東京都)。
	□	学校〔大学〕(就職担当)	・新卒採用の求人数はおおむね堅調であり、数か月では変わらない(東京都)。
	▲	人材派遣会社(社員)	・年末商戦も終わり、求人数は一旦減少すると見込まれる。
	▲	人材派遣会社(社員)	・物価の上昇に賃上げが追い付いていない(東京都)。
	▲	求人情報誌製作会社(所長)	・最低賃金引上げへの対応に追われ、人材の増強を図れない企業が増えているにもかかわらず、売手市場の傾向が続いている。
	▲	求人情報誌製作会社(営業)	・製造業を中心に先の生産状況が見えないため、生産や採用を抑えている。
	▲	職業安定所(職員)	・地域の有効求人倍率が低下傾向にある(東京都)。
	×	—	—

5. 甲信越(地域別調査機関: 株式会社日本経済研究所)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (甲信越)	◎	*	*
	○	百貨店(営業担当)	・新政権による物価高対策が、いよいよガソリン暫定税率の廃止からスタートする。また、いわゆる年収の壁、基礎控除が増えるため、若干、消費が上向きつつあるとみている。
	○	百貨店(店長)	・店舗のリニューアルに伴い、更なる集客増加を期待している。
	○	コンビニ(経営者)	・クリスマスや年末年始の需要が増加している。
	○	コンビニ(経営者)	・クリスマス需要があり、徐々に売上は上がってくる。ボーナス時期でもあるため、来店客も増えるとみている。
	○	乗用車販売店(経営者)	・新型車効果が続き、新車受注が堅調に推移するとみている。
	○	高級レストラン(経営者)	・政府の経済対策の効果が出てくれれば、徐々に良くなっていくとみている。
	○	スナック(経営者)	・忘年会シーズンに入り、既に多少の動きも見られるため、今月よりは多少は良くなる。ただし、例年のように大きな団体で移動したり、宴会をすることが、最近少なくなっている。少人数の忘年会がほとんどなので、こうした客をつかんでいきたいと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・年末年始の動きが好調であり、年明けも動きが継続している。法人利用は、例年並みかプラスで進捗しており、個人利用も既に正月明けから先の動きが増えている。
	○	遊園地（職員）	・冬休みで旅行やレジャー需要の高まりが見込める。クリスマスや年末年始等のイベントを控えているため、より積極的な情報発信を行い、多くの客の獲得につなげていきたい。
	○	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（経営者）	・年末年始は1年で最も集客できる時期であり、団体の利用も増える。今年は年末年始の休みが長いため、期待している。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・年末年始を目前に売上増加を望むところだが、ボーナスの話題も出なければ消費者の購買意欲もみられず、厳しい年末商戦になりそうである。商材の買い控えというよりは、必要なときに必要な物を購入するパターンが浸透してしまっている。
	□	百貨店（経理担当）	・ガソリン暫定税率廃止や電気代等への政府の生活支援補助が、どこまで小売業界に影響を与えるか関心があるものの、期待できない。百貨店の強みであるクリスマス、お歳暮ギフト等の年末商戦に期待したいところだが、客足が天候に影響される昨今、穏やかな天候に期待を寄せ、前年以上の実績を目指している。
	□	スーパー（経営者）	・ガソリン暫定税率の廃止による単価下降は追い風となるものの、円安で輸入原材料価格上昇分と相殺かもしれない。
	□	スーパー（経営者）	・物価高、人件費高騰と原材料高などで、利益確保が難しくなってきている。何とか耐え忍んで営業していきたい。
	□	スーパー（店長）	・ガソリン価格は安くなっているものの、それが商材価格に反映されるまでは景気は変わらない。米価が低下しないと、厳しい状況は続く。
	□	コンビニ（経営者）	・前年と比べて売上が伸び悩んでおり、今後は来客数も期待できないため、コンビニ、小売業としては、厳しい状態が続く。
	□	コンビニ（店長）	・ここにきて、購買意欲がかなりなくなってきたようで、キャンペーンを打っても、若干上向くものの、期待したほどの伸びではない状況が続いている。この先も変わらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・商店街の人通りが全くない。
	□	家電量販店（店長）	・景気回復の兆しがみえない。
	□	一般レストラン（経営者）	・気候変動の影響を受け、状況によっては、むしろ下降の懸念もある。
	□	タクシー運転手	・夕方から夜間の乗務員が不足している。特に、夜間は乗務員が2～3人だけになってしまうため、依頼が来ても配車ができず、客を逃している。
	□	通信会社（社員）	・例年と比べて、良くなる要素はないなかで、新政権に期待する部分もあるものの、中国との関係など不確定な要素も多く、不透明感は変わらない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	・物価高による生活負担の増加から、出費に対するちゅうちょがあり、今後も回復する見込みはない。
	▲	商店街（代表者）	・店じまいの話は出るが、新規開店の話は全くない。
	▲	商店街（代表者）	・当商店街も若い人が一生懸命、いろいろな催事を行っている。催しを見に出てくる人はかなりいるが、屋台など出店の食べ物などを買っているだけで、商店街で買い物をして帰ることはほとんどない。これから、本当に大変なことになるのではないか、今後どういう方針にしたらよいかと常に考えている。
	▲	商店街（代表者）	・客の購入金額からも節約志向がうかがえる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・天候不順が続くため、やや悪くなる。
	▲	自動車備品販売店（従業員）	・来客数が伸び悩んで、厳しくなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
業界別	▲	その他専門店〔酒〕(店長)	・格差が広がっていると、現実的に体感している。酒に関しては酒米の価格が上がっており、来年1月から日本酒の値上げがあると予想している。既に値上げはしているが、再値上げで明暗が分かれていく可能性がある。良いところはそれでも買ってくれるが、良くないところも出てくる。今後も注視しながら、営業していくかなければいけない。
	▲	観光型旅館(経営者)	・今年は特に大きなイベント等がなく、冬季の集客が増える要素は少ない。こうしたなかで、日中関係の影響により春節時期の中国からのインバウンドは減少すると予想されている。中国からのインバウンドが多い観光地に隣接しているため、日中関係がこのままだと、中国からの客が減少し、中国以外の客の取り合いが激しくなると予想している。
	▲	都市型ホテル(スタッフ)	・日中関係の影響が、地方の当地にも出ている。上海からの路線が就航しているが、早くも中国からの団体客が取消となっている。今後は新規のグループ旅行は発生しないだろうとみている。また、年末商材のおせちの予約についてだが、前年は高い商材から売れていたが、今年は安い商材から入っている。消費者の財布が厳しくなってきている。
	▲	都市型ホテル(スタッフ)	・来客数の動きが鈍くなっている。12月で既にリードタイムが短い。また、主要駅前の宿泊費の高騰は落ち着きそうな動きになっている。
	▲	旅行代理店(副支店長)	・国内旅行は宿泊費等の費用が上昇しており、海外旅行では円安や燃油価格高騰等による費用が上昇しているため、国内、海外問わず、旅行控えが進むと考えられ、年末年始から冬季の受注に陰りがみえる。
	▲	観光名所(職員)	・利益は増えない状況のなか、人件費は増加している。
	▲	ゴルフ場(経営者)	・インフレ、働き方改革、人件費高騰の3重苦により、先行きはやや悪くなる。
	×	コンビニ(経営者)	・2月は天候と道路状況が非常に悪くなり、1年で最も販売数、来客数が悪くなる。
	×	コンビニ(経営者)	・物価高やエネルギー価格の高騰により、悪くなる。
	×	スナック(経営者)	・居酒屋業界はもう駄目かもしれない。
	×	その他飲食〔カフェ〕(経営者)	・インバウンドが減少している。
企業動向関連 (甲信越)	◎	金属製品製造業(総務担当)	・半導体需給が回復し、良くなる。
	○	—	—
	□	窯業・土石製品製造業(経営者)	・年末年始は谷間となり、特注品の受注でもない限り、低迷する。
	□	金融業(経営企画担当)	・新政権の発足により、経済対策等に期待感はあるものの、具体的にはまだ波及していない。ここにきて日中関係の問題がみられ、不透明感が続く。
	▲	食料品製造業(製造担当)	・更なる物価の上昇で、ますます価格に差が出て、売れなくなる。
	▲	食料品製造業(営業統括)	・業界の一部メーカーは、シンガポール、台湾等、東南アジアに販売先を開拓しつつあるが、結果が出るのは数年先とみられる。しばらくは国内出荷に注力しなければならない。
	▲	食料品製造業(総務担当)	・原材料価格の高騰は続く。
	▲	出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・今後2~3か月の間に、紙と資材が値上げされる。そのため当社も受注金額を上げたいところだが、客に転嫁できるかやや心配である。
	▲	電気機械器具製造業(経営者)	・受注があっても数量は少なく、短納期となっている。客先も様子を見ながらの発注である。
	▲	電気機械器具製造業(従業員)	・現状、仕事量は確保できているが、今後を考えると地元にはなかなか仕事がないため、県外の仕事を探して受注するようしている。先行きはやや不安である。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕(経営者)	・原材料高や円安の影響により、商材作りが難しい。新商品を作ると地金高騰の影響により高額となり、小売店舗に並べても、問屋在庫の価格改定をしていない商材の2倍以上の価格になってしまう。顧客の新製品を求める声は多いものの、客が求める価格帯での商品作りは難しく、対応できない状況である。客の期待に応えられないことから、結果としてジュエリー離れにつながっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	建設業（経営者）	・冬季に入るため、天候のことを考慮すると、若干悪くなる。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
(甲信越) 雇用 関連	◎	—	—
	○	—	—
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で3.5%減少となり、3か月ぶりに前年同期比で減少している。
	□	職業安定所（職員）	・求人数、求職者共に大きな変化はない。期待されていた進出企業の求人には多くの応募者があったものの、当初の予想より落ち着いている。
	□	職業安定所（職員）	・米国の関税政策や近隣国への動向等、不透明感が一向に解消されない状況から、企業収益が直ちに良くなるとか悪くなるということはない。人件費に振り向ける余力に乏しい環境が続くなか、人材確保との兼ね合いから動きが出にくい状況である。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・円安による原材料等の値上がりが止まらず、物価高となっており、将来が不透明だとする企業では慎重な姿勢が続いている。
	▲	職業安定所（職員）	・中国の景気が低迷していることに加え、米国の相互関税政策の影響が、少しずつ日本経済に顕在化している。今後は日本企業の収益悪化が懸念される。
	×	—	—

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

(－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海) 家計 動向 関連	◎	商店街（代表者）	・業況が良くなりそうな手応えがある。
	◎	商店街（代表者）	・ガソリン暫定税率廃止など景気刺激策の効果が出てくる。
	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・近隣国との関係が問題化しているが、当地域には影響がない。
	◎	タクシー運転手	・客の様子が明るく、ポジティブな言動が増えている。
	○	商店街（代表者）	・政府の景気対策により一時的ではあるが、良い方へと向かう。インバウンドが若干落ち着くのも良いことである。
	○	百貨店（企画担当）	・気温の低下に伴い、これまで動きが鈍かった衣料品関連の動きが活発になっている。物価高などに伴い商品1点当たりの単価は上がっており、販売数量も前年を超えていることから消費者の購買意欲は維持される見込みである。
	○	スーパー（店員）	・ここ最近の値上げラッシュが一旦落ち着き、これから寒さで鍋関連商材の消費が多くなることで期待できる。
	○	スーパー（店員）	・クリスマスから年末商戦の時期となり、購買意欲が上がるため良くなる。
	○	スーパー（支店長）	・経済政策が決まり国民生活の負担が少しでも軽くなることにより、消費の活性化を期待する。ただし、日中関係に変化が生じつつあり、今後どのように影響するか心配である。
	○	コンビニ（エリア担当）	・新内閣の景気対策により購買意欲が高まっていくと期待する。
	○	衣料品専門店（店長）	・法人客では仕事量が増えてきており、しばらく消耗品購入のために来店は増える。個人客による購入も堅実で全体的に景気は良くなっている。
	○	家電量販店（営業担当）	・ガソリン価格が安くなり物流コストも下がれば、期待できる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・年始の初売りを上昇のきっかけとしたい。
	○	乗用車販売店（経営者）	・ガソリン代が安くなることに期待する。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新内閣になってからガソリン暫定税率廃止によりガソリン価格が下がり、今後の政策への期待感もあるためやや良くなる。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・例年どおり年末に向かって来客数も減っていく見込みだが、年明けからは繁忙期に向かうため、今より良くなる。
	○	その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・新内閣発足を機に、国内景気の回復を期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
小売業	○	一般レストラン（従業員）	・ボーナス支給で多少消費が増える。
	○	通信会社（企画担当）	・新政権の積極財政への期待と併せて、年末年始を控え消費も上向くと期待している。
	○	美容室（経営者）	・年末年始は髪を整えて過ごしたいと考える人が多く、繁忙期である。
	○	美顔美容室（経営者）	・現在実施中のキャンペーンセールは年末までで、最後に追加で1セット購入する客が多く、売上が見込める。
	□	商店街（代表者）	・飲食関連は好調を維持するが、物販については購入後の手提げ袋を持っている人が少ない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価高が続く限り、良くはならない。
	□	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・サイバー攻撃に伴う大手飲料メーカーの出荷規制があつても、飲食店では思ったほど混乱が発生していない。日常の外食での飲食店利用については、まだ控える傾向が強い。
	□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
	□	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・食費や光熱費等の支出が増えて、余裕がない様子である。
	□	百貨店（総務担当）	・冬のボーナスに期待しているが、食料品を中心とした物価高で節約志向が更に強まっている。家計への電気・ガス料金支援やガソリン暫定税率廃止は、消費増加につながると想定しているが、どこまで消費に回るかはなかなか読めない。
	□	百貨店（営業担当）	・直近の環境からは影響を受けていない。インバウンド需要も元々ないため、中国との問題の影響もない。
	□	百貨店（営業担当）	・今後も客の動きが急に変わるとは考えにくく、ある程度の購買意欲は維持される見込みである。
	□	百貨店（販売促進担当）	・インバウンドが減少しても国内消費が堅調であり、それほど景気は変わらない。
	□	百貨店（販売担当）	・何らかの施策を打たないと厳しい状況からはなかなか抜け出せず、今後の物価高や価格改定などを見込むと好転するには難しい状況で、現状維持が妥当と考える。
	□	百貨店（販売担当）	・冬物の動き出しが遅かったため全体の売上はやや不振であるが、趣味の雑貨など気温と関係ない物は好調であるため、消費者には購買意欲がある。
	□	百貨店（営業企画担当）	・中国からのインバウンド減少と円安の影響による値上げなどが懸念される。
	□	スーパー（経営者）	・新年を迎え、来客数増加に期待する。
	□	スーパー（店長）	・目前の販売促進だけでは来客数は増えない。
	□	スーパー（店長）	・急激な冷え込みとセールへの集中で、前年実績を上回る可能性がある。
	□	スーパー（店員）	・2～3か月後は12月商戦や年末年始も終わり、来客数が増える見込みがなく安定する。
	□	スーパー（販売担当）	・競合先がほとんどない立地でコンビニより安い価格設定のため、ほぼ横ばいの推移を予想する。
	□	スーパー（販売担当）	・物価高への対策が打ち出されるだろうが、ここまで上がった価格が下がることは非常に想定しづらく、実現するか疑問である。客は必要な物なら購入するという状況は変わらないため、需要をうまくつかんだ売手の努力が業績に直結することは間違いない。
	□	コンビニ（店長）	・食品の値上げがあったが、それほど影響はない。酒類を扱っているため、大手飲料メーカーへのサイバー攻撃によるビールの出荷制限がお歳暮商戦に影響が出ないかを心配する。
	□	コンビニ（店長）	・来客数増加のための値引き施策を多く実施しており、引き続き来客数は微増が期待できる。
	□	コンビニ（店長）	・12月も売上、来客数が前年を下回ると、その後の景気は確実にどんどん悪くなる。
	□	コンビニ（店長）	・良くなると期待したいが、中国からのインバウンド激減がどのように響くか不透明である。当店は中国人客だけを相手に商売をしているわけではないため、直接的な影響はないともみる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	コンビニ（店長）	・厳しい状況は変わらず、主因は現在のコンビニが価格に見合った価値を提供できていないことにある。その状態が長く続いていることにより、客はふらりと店舗に立ち寄る習慣も薄れきていると危惧している。
	□	衣料品専門店（売場担当）	・景気が良くなるような要素が見当たらない。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・新型車が出ても見に来る人も少なく、販売台数も伸びていない。
	□	乗用車販売店（経営者）	・様々な物の価格がインフレ傾向であり、消費者は様子見をしている。
	□	乗用車販売店（経営者）	・株価高は一部の人に好影響を与えているが、大半の人に影響はなく、改善されない物価高が節約志向を継続させる。
	□	乗用車販売店（従業員）	・全体的に悪い流れではないものの、特に良くなる要素もないため変わらないと判断する。
	□	乗用車販売店（従業員）	・ガソリン暫定税率廃止や電気・ガス料金支援により生活に必要なコストが少しでも下がるとよい。年末年始に向けて各所でセールが行われて客の気分が少しでも高揚すれば、市場にも少し活気が出ると期待する。
	□	乗用車販売店（従業員）	・新車の発表や受注再開を控えているが、効果は一時的である。新車の振り当て台数が少ないため欲しい人全てには行き当たらず、抽選で規定台数に到達したら再び販売停止になる。車を欲しい人がいても売れない状況が続く。
	□	住関連専門店（営業担当）	・戸建て住宅、マンション共に新築物件は減少している。ただし、リフォームや中小規模の改修工事は増えており、住宅、マンション、工場や店舗などいずれの物件でも工事はある。
	□	その他専門店〔書籍〕（社員）	・年度末から新年度向けの受注量が順調に推移する。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・来年度の賃上げまで不透明感がある。
	□	高級レストラン（経営企画）	・年末年始には個人の集まりでの予約は前年を超えており、企業の宴会が厳しい。また、前年と同様に会合は少人数化の傾向にある。
	□	一般レストラン（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。特に自店は小規模であるため、年末年始の会合利用等も見込めない。
	□	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・外部要因に左右されない底堅い消費意欲がある。為替が一段と円安となり、来春以降の値上げを検討しているという声が仕入先から聞こえている。客が価格転嫁を受け入れられるかは懸念材料である。
	□	観光型ホテル（支配人）	・日中関係の影響は限定的である。宿泊部門は日本人利用で、好調を維持しているが、宴会・レストラン部門については、忘年会や新年会の予約数をみると弱含みな状況が続いている。
	□	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
	□	都市型ホテル（経営者）	・中国の渡航自粛による影響がどれほどかまだ分からないが、他の地域からの需要に置き換わることで、限定的な影響で落ち着くとみる。
	□	都市型ホテル（総支配人）	・年末から春節にかけての時期には、中国からのインバウンドがマイナス要因である。宿泊の販売価格への影響が懸念される。
	□	旅行代理店（経営者）	・現在の予約状況から推測すると前年と変わらない売上となる。
	□	旅行代理店（経営者）	・年明けからは回復することが期待できるが、足元では変わらない見込みである。
	□	旅行代理店（経営者）	・来春以降の間合せも多数あり2026年も期待したい。外交問題はすぐには収まらないため、影響がない範囲で提案していきたい。インバウンドの影響により価格が変動するため、旅行は早めに計画することを客に推奨している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	旅行代理店（経営者）	・人手不足の陰で目立っていないが、地方では駅前の店舗が徐々に減り、ロードサイドの店舗が何とか生き延びている状況であり、人口減少による需要の減少と考える。地方においても、自動車産業にも匹敵する経済的効果を生み出すためインバウンド受入れの基盤整備が必要である。
	□	タクシー運転手	・これから年末年始の忘年会や新年会を控えているため一時的に客の動きが活発になるが、正月明け以降はその動きも落ち着いて1月後半は余り期待できないため、2～3か月先は現在と変わらない見込みである。
	□	通信会社（営業担当）	・人件費と機器の値上がりが止まらない。
	□	通信会社（サービス担当）	・何を節約するかで真っ先に検討するのが余り利用されていない固定電話回線である。アナログ回線終了の報道発表により、解約が増えている。
	□	ゴルフ場（経営者）	・価格転嫁が難しい状況が続く。
	□	その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	・景気向上につながる話を聞かない。
	□	美容室（経営者）	・景気対策がされていても、末端の一般市民にまでは恩恵が届いていない。物価高も解消されず、良くなっている実感がない。
	□	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・季節要因を除けば大きく環境が変わらない見込みだが、介護事業者を支援するという首相の発言には、福祉用具サービス事業者を含んだ施策を期待したい。
	□	住宅販売会社（従業員）	・大きな変化は見込まれない。
	□	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・前年度上期にあった法改正前の駆け込み需要による反動も、そろそろ落ち着く見込みである。
	□	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・ホテルの改装工事を受注していたが、中国人旅行客の大量キャンセルにより工事が延期となった。
	□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・年明けにどれだけ客足が回復するかを期待する。
	▲	スーパー（店長）	・節約志向が強まっており、買上点数の増加が見込めない。
	▲	スーパー（店員）	・担当カテゴリーで値上げが続き、し好品を中心に苦戦が続く。
	▲	スーパー（販売担当）	・クリスマスや年末年始の時期を過ぎていろいろな行事が終わる。イベントで出費が増えた分引き締めるため厳しくなる。
	▲	コンビニ（企画担当）	・中国からのインバウンドが減少しており、今後は影響が更に大きくなる見込みである。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・例年と比べて暖かい日が多く比較的良い状態が続いているが、この先も大きくなれば変化ない。一方で、年明けは販売が鈍化する時期であり、その上、商品価格は急激に値上げされているため、例年以上に買い控えが発生する見込みである。
	▲	コンビニ（店長）	・物価高の影響もまだ続きそうで、先の見通しが立たない。
	▲	コンビニ（商品企画担当）	・繁忙期である年末年始は、長い休暇が期待できることから帰省などで人流の動きが活発になると予測されるものの、年明け以降は、閑散期になるとともに日中関係の影響によるインバウンドの減少が懸念される。
	▲	コンビニ（本部管理担当）	・中国の渡航制限が来客数にマイナスの影響を及ぼすことを強く危惧している。現時点でも小売業は来客数の減少が課題であるが、売上の構成要素として重要な来客数に直接関わる渡航制限は今後の景気を悪化させるリスクであり、問題の早期解決を望む。
	▲	家電量販店（店員）	・購買意欲の高い客が少なくなってきた。
	▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・パソコンや照明器具など買換え需要が期待できる商品もあるが、冷蔵庫やテレビなど単価の高い大物家電は買換えサイクルが長くなっている。物価高で高単価な家電商材には買い控えが発生している。
	▲	乗用車販売店（販売担当）	・以前は車検の時期が来ると客に新車の提案をしてそのまま買上につながることが多かったが、最近は車検を受ける客が大半を占めている。
	▲	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・インバウンドが下火になるため、一時的に悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向 関連 (東海)	▲	観光型ホテル（経営者）	・予約状況をみると前年より数%程度良いが、足元のような7～8%上回る状況には至らない。特に、景気浮揚の施策がなければ現在よりもやや悪くなる。ただし、当地域は中国からのインバウンドがほぼないため、日中関係の影響は少ない。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・日中関係の影響が今後は更に大きくなる見込みで、インバウンド、アウトバウンド共に販売量は減少している。旅行 자체を様子見する人が出てきており、年末年始の旅行需要に影響が出れば、確実に旅行業界の景気は後退する。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・団体旅行の取扱が10～11月をピークに推移し冬場は落ち着く見込みである。気温は平年並みとのことなので過度に旅行を控える動きもなく、例年並みの取扱とみる。
	▲	テーマパーク（職員）	・日中関係の問題が長引くようであれば、今後は悪くなる可能性がある。
	▲	テーマパーク職員（総務担当）	・来客数増加に向けた諸対策に苦心している。人件費増加や物価高騰の影響もあって財務状況が好転しないため、引き続き支出の抑制にも努める。
	▲	観光名所（案内係）	・直近の値上げによる影響は1月過ぎに出てくる。物価高は中途半端な政策では太刀打ちできないレベルに達しており、もうひと頑張りしてほしい。
	▲	パチンコ店（経営者）	・年末年始は、近隣にオープンした大型商業施設の影響がまだ残る見込みである。
	▲	パチンコ店（従業員）	・近隣に競合店が新規オープンするため、顧客の流出が予想される。
	▲	理美容室（経営者）	・客との会話で、物価上昇により生活が苦しくなっているという声を聞く。
	▲	美容室（経営者）	・賃金が上がらない一方で物価ばかりが上がり、生活が厳しくなっている。
	▲	設計事務所（職員）	・景気が良くなるというような話を耳にするが、実際には為替が円安方向にどんどん向かっており、景気は良くならない。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・例年どおり冬枯れの時期である。イベントなどの企画、実施で客との商談は進展するが、年明けに持ち越しとなる物件が今年も多い見込みである。来年度の税制改正大綱次第で、条件が悪くなるなら年内に契約し、良くなる施策であれば年明けの契約に持ち越しどとなる。
	▲	その他住宅【住宅管理】（経営者）	・物価高が落ち着くまで厳しさが続く。これから2～3か月で給料が増えるとは考えられず、まだ時間が掛かりそうだが、今後に期待している。
	×	商店街（代表者）	・政治的な動きにより日中関係が不透明となり、せっかく潤っていた旅行関係の需要にも陰りが出ていて。米国大統領の動向と併せて考えると、良い方向に向かうとは思えない。
	×	百貨店（経理担当）	・ガソリン暫定税率廃止や給付金など新政権による経済対策の効果は限定的である。物価高に対する生活防衛や買い控えが続き、日中関係の問題が長引けばインバウンド消費も落ち込み、景気は下降局面に入る。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価高で生活必需品が値上がりしている状況では、バーゲンセールだからといって衣料品を買う人はいない。
	×	設計事務所（経営者）	・良くなる要因が1つもない。以前は仕事を受注していた会社との縁も切れかけている。
	×	住宅販売会社（従業員）	・リフォーム需要も一巡した様子で、新築住宅の着工も含め、今後の工事量を期待できない。
	◎	電気機械器具製造業（企画担当）	・政府の積極的予算が期待でき、止まっていた民間投資にも再開の動きがある。
	○	食料品製造業（経営企画担当）	・年末需要期に向けて購買意欲の高まりを期待するが、長期的に飛躍的な回復は期待できない。
	○	化学工業（営業担当）	・年明け以降、半導体向けクリーン容器の需要は徐々に増加見込みである。
	○	一般機械器具製造業（営業担当）	・新工場建設の情報が多く入っており、特に東南アジアで半導体関連の設備投資が伸びそうである。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・年度末に向けて設備投資がある程度期待できるため、当社の出荷量も若干増える見込みである。
	○	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・新しい仕事の引き合いが増えている。人を採用する余裕が出てきた。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
○	○	輸送用機械器具製造業 (管理担当)	・ガソリン暫定税率廃止や電気・ガス料金支援で一時的に良くなるかもしれないが、今後の動きは読めない。
	○	輸送業 (従業員)	・ガソリン暫定税率廃止は、運輸業界に良い材料となる。
	○	輸送業 (従業員)	・運賃値上げが一巡し、出荷量についても荷主による出し控えが徐々に減ることが見込まれ、出荷量は微増となる。
	○	輸送業 (エリア担当)	・米国関税の状況が安定してきた。
	○	輸送業 (エリア担当)	・交渉していた単価は、遠方分のみ若干上がった。その他にも負担が大きな配達コースの分割を提案している。
	○	金融業 (従業員)	・新政権への期待感が経済発展や景気上昇につながっている。これまで買い控えをしていた物や旅行への消費が増えている。
	○	金融業 (従業員)	・12月はボーナス月であること、年末年始の帰省など人の動きがあることから景気は上向く。
	○	新聞販売店 [広告] (店主)	・交通機関の車内広告を出す企業が以前より増えてきている。首相交代を機に、政治改革が進み景気が回復すると期待している。
	○	会計事務所 (職員)	・ガソリン価格が少しずつ安くなっているのを実感している。ガソリン代に支払っていた金が他へ回るようになるため、少し景気が良くなると期待する。
	□	食料品製造業 (社員)	・新政権の景気対策に期待感はあるが、中国や米国との関係状況による先行きの懸念で、国内の消費は引き続き堅調になる。
	□	化学工業 (総務秘書)	・景気に悪影響をもたらすような特段のトピックがない。年末年始は新年に向けて期待が高まる時期でもあり、株価暴落でも起きない限り、余り変わらない。
	□	窯業・土石製品製造業 (社員)	・レアアースの入荷が回復しそうな雰囲気であったが、日中関係が不透明になり、回復の兆しがみえない。
	□	一般機械器具製造業 (経営管理担当)	・受注量、販売量の見込みによる。
	□	電気機械器具製造業 (経営者)	・受注量の横ばいが続く。現状で需給のバランスが取れているため、このままの数量でしばらく推移する。
	□	建設業 (役員)	・食品における消費税の廃止や児童手当の拡充などで毎月数万円単位の支出が削減できない限り、景気が変わることはないと。
	□	建設業 (経営者)	・日中関係が不透明になり、今後の政策の動向が心配である。しばらくは景気の方向性が見通せない。
	□	建設業 (営業担当)	・本年度初めに契約した案件については、これから年度末にかけて滞りなく実施できるが、物価高の影響等を受けて来年度以降の受注が先送りになっている。物価高で売上金額は大きくなってしまっても、利益はむしろ減るかせいぜい横ばいである。
	□	輸送業 (従業員)	・大口案件のあった当社は良いが、同業他社からは良い話を聞かない。荷主の話からも見通しは今一つである。年が明けても足元と同様に、全体ではなく特定の業種や企業が忙しい状況になるかもしれない。
	□	金融業 (企画担当)	・特に中小企業で、人件費をカバーできるくらいの受注金額上昇と、それに伴って大手企業ほどではなくとも相応の賃上げができるないと、個人消費も伸びてこない。当面は中小企業の賃上げにも限界があり、現状の景気が続く。
	□	不動産業 (経営者)	・今後も平年並みに晴れの日が多く、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後の売上は増加し、前年を上回る状況が続く。
	□	広告代理店 (制作担当)	・単発的な新規の企画案件は多少増えてきているが、取引先からの積極的な動きは見られない。
	□	公認会計士	・日中関係が日本経済にどのような影響を与えるかが、今後重要な焦点になる。中国は渡航自粛などの強い圧力を掛けており我が国のインバウンド需要や輸入品などに影響が出る可能性も高い。新政権への期待感もいったん落ち着くことが予想され、大幅な景気回復にはならないとみられる。年末年始は消費者の購買意欲も高まる時期であるため、経済施策が購買意欲を加速させるほどの効果があれば少し良くなると考えられるが、季節要因による一次的な回復である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (東海)	□	会計事務所（職員）	・輸送機械器具製造業において受注量が減少し経営状況も良くないという話を聞いた。主に米国向けの船外機部品は、受注量がかなり減っており苦しい状況である。リスク軽減のため輸送部品以外でも受注を図るが、実際に売上をカバーできるか懸念される。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・足元の景気はやや良い状況であるが、年末年始商戦も終わるため、今後はやや悪くなる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・取引先など業界関係者は口をそろえて、しばらく動きがないため忙しくならないと言っている。
	▲	電気機械器具製造業（営業担当）	・1月以降のプロジェクトは未定となっており、ある程度悪化が予想される。
	▲	輸送業（経営者）	・今年度の賃上げ分ですら値上げに応じてもらえないケースが多いなかで、政府は経済界に来年も同程度の賃上げを要請している。価格インシアチブを持たない物流業者にとっては、厳しい環境が続く。
	▲	通信業（法人営業担当）	・個人消費は低迷したままで落ち着き、インバウンドにも大きな期待ができない。企業の投資は新規事業開発に向けられず、AI活用による生産性向上とその先の人事費削減を見越している。企業は1人当たりの生産性向上によって労働人口減少を補おうとするが限界があり、結果として事業規模自体が縮減する負のスパイラルに陥っている。
	▲	通信業（総務担当）	・実質所得が減少し、かつ所得の絶対額も少ないため節約ばかりの日々である。
	×	食料品製造業（営業担当）	・商品値上げの影響もあり消費量が減っている。
	×	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・賃金は上がらず、多少上がっても物価上昇がそれ以上のスピードのため追いつかない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・この先の案件について見積依頼も予定受注もない。
	×	金属製品製造業（経営者）	・引き合いが減少しており、数量の回復もなかなか見込めない状況が続く。
雇用 関連 (東海)	◎	*	*
	○	人材派遣業（営業担当）	・経済政策による生活費補助の効果で消費の伸びが想定される。また、中国からのインバウンドは減少するものの、他国からは増加する効果もあり、さほど影響はない見込んでいる。
	○	民間職業紹介機関（窓口担当）	・人の動きが1番多い時期を迎える。求人数に加えて年度末に向けた求職者数も増加が予測される。直接雇用を優先する傾向は変わらず強いものの、派遣での有期の働き方を希望する層もある。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・利益確保のため中途採用の抑制や厳選採用に転じる企業も出ているが、引き続きマンパワー不足が課題となる中小企業での採用熱は高く推移している。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・大手企業の人員削減が多く、今年度末に向けて中高年層の求職者は増加が見込まれ、一時的に退職者数と採用数が増加する可能性がある。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・今年度はこのまま変わらず、変化があるとすれば来年度以降になる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・消費税減税か社会保険料の負担軽減をしない限り、景気は回復しない。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・製造業の労働者派遣は、派遣先に営業すれば契約を取れる状況だが、派遣する人材が採用できず、既存の派遣先管理を行って現状を維持している。今後も人材採用が大きな課題になる。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・政府における残業時間の上限撤廃などの検討が進むであろうが、すぐに人材の動きへ影響があるとは考えられない。春の新学期や異動時期に向けた動きは見込めるが、それ以外に特に大きな要素やトピックスがない。
	□	職業安定所（職員）	・最低賃金の引上げが中小企業に与える影響が懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・長期的には、最低賃金の引上げによる人件費の増加や原材料価格高騰などの影響により企業活動が停滞する可能性はある。しかし、企業の採用意欲の高さから判断すると、今後2～3ヶ月で急激に悪化する印象は受けない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数、新規求職者数共に前月より増加しているが、大きな動きは見られない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	職業安定所（職員）	・中小企業では、長期にわたる原材料費、人件費など諸経費の増加が事業活動への負担となっており依然厳しい状況にある一方で、受注が堅調な企業もある。人手不足が深刻な産業も見受けられるが、最低賃金の引上げ、物価高騰に伴う消費停滞や予測困難な経済状況への懸念等から、新たな求人提出を控え様子を見ている企業も少なくない。ただし、現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、当面は、景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
	□	職業安定所（職員）	・求人数に大きな変動はなく、景気は変わらないとみている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用の求人は安定的に推移しており、今後2～3か月で状況が大きく変化することは想定されない。
	▲	人材派遣会社（社員）	・中国からのインバウンドの動き次第で変化する。
	▲	人材派遣会社（社員）	・例年、年末年始から1月の終わりにかけては、求職者、求人者共に動きが低調になる。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・自動車関連では、米国市場の動向が不透明なため人材予算を増やす可能性が低そうな話も出てきており、派遣業各社に波及する可能性もある。
	▲	職業安定所（職員）	・新規求人数が減少傾向にある。企業からは人手不足という声がある一方、物価高の影響により様々なコスト削減を行っているという声がある。
	▲	職業安定所（職員）	・物価高や最低賃金引上げに伴う経費負担に工賃の引上げが追い付かない状況の企業が多くなっているようで、廃業等を選択せざるを得ないとの話も、複数の事業所からある。
	×	—	—

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

(ー：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)	◎	—	—
	○	商店街（代表者）	・中国人観光客による売上の回復は見込めないものの、欧米からのインバウンド需要は底堅い。クリスマス休暇やスキーシーズンなどで北陸を訪れる欧米人観光客は引き続き多いとみており、好調な推移が続くと考える。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・需要期になり購買が増えることに期待している。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・物価対策が進みそうであるため、少し経済が回っていくとみている。
	○	スーパー（店長）	・ガソリンの暫定税率廃止など、政策が良い方向に進むと期待している。
	○	スーパー（役員）	・節約志向は続くとみているが、新政権の経済対策により一般家庭の負担は一時的だが緩和されるため、食品の買い控えなどは起こらないと考える。
	○	コンビニ（店長）	・ガソリンの暫定税率廃止を受け家計に余裕が生まれ、客足が戻ることが期待できる。年末商戦の予約に力を入れて、客単価の底上げを狙いたい。
	○	コンビニ（店舗管理）	・新政権への期待感から閉塞感が薄まるとみている。
	○	衣料品専門店（経営者）	・気候や社会情勢に影響されやすい業種ではあるが、客は賢くメリハリ消費をしていくと考える。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・前年は政府が観光支援策として北陸応援割を実施していたため、支援のない今年は厳しい状況が続いている。しかし、県が団体旅行客に1人当たり4000円の地域共通クーポンを付与する観光需要喚起策を検討しているため、その予算が年内に通れば少し風向きが変わるとみている。
	○	タクシー運転手	・この先、酒を飲む機会が増えることや冬を楽しむ観光客が多くなることから、景気はやや良くなるとみている。
	○	美容室（経営者）	・美容小物の売上が良くなってきた。目先の変わった5000円程度の商品に客は財布のひもを緩めている。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・生鮮食品が良くない状態はしばらく続くとみている。生鮮食品は何でも高いという客の意識があり、コストパフォーマンスの観点から総菜が動いていると考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（販売促進担当）	・物価高に対する市場の反応が強い。衣食住のうち、特に食については毎日欠かせないため購入せざるを得ないが、我慢できる衣料品にまで手が伸びていない。政府によって物価高対策という言葉は広がっているが、生活者の感覚にまでは届いていない。
	□	スーパー（仕入担当）	・年末に向けて現状の販売数を維持できれば、ある程度売上増加が見込める。ただし、年末商材は単価が高いため、通常の商品と同様に販売数が推移するとは限らない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・客の節約志向が強く、当面、売上回復の見通しが立たない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・価格上昇に客が慣れてきたのか、客単価がやや上向いている。
	□	家電量販店（本部）	・パソコン特需の動きが弱まり、今後は反動減も想定している。一方で、厳冬の気配があるため、季節商材には好影響が出るとみている。全体として景気は変わらないと考える。
	□	乗用車販売店（経営者）	・今の状況が変わる要素があるとは考えられない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・特に大きな変化はないとみている。
	□	乗用車販売店（経理）	・以前は決算期に向けて動きがあったが、新車納期の長期化等の影響により、これまでのような盛り上がりがなくなっている。法改正により、車検の受検期間が前倒しされて初めての決算期を迎えるが、どのような影響が出るかは不明である。
	□	住関連専門店（役員）	・物価高が問題視されるようになってから、市場では食料品を中心に3割前後販売価格が高騰している。当社においても今後仕入商品の更なる値上げが控えているため、ますます客が買えない、買わない要素が増える。
	□	その他専門店【酒】（経営者）	・来年1年間は頑張るが、状況が良くならなければ廃業するつもりである。
	□	一般レストラン（店長）	・天候やインバウンドなど気になる要素はあるが、影響は少ないとみている。
	□	一般レストラン（統括）	・現在みられる来客数の好調は、年明け1月まで続くと考える。例年2月は雪の影響により来客数が減少するため、今年度も例年同様に推移するとみている。
	□	スナック（経営者）	・先行きが不透明であり、豪雪の予報も伝えられているため、余り期待ができない。
	□	観光型旅館（経営者）	・年内の予約は前年並みに推移しているが、正月明け以降の予約が低迷しており先行きが不安である。
	□	観光型旅館（経理）	・前年1月1日に発生した能登半島地震により休業状態が続いているため、再開までにまだ1年以上の期間を要する見込みである。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・国内観光客の動きが弱い。
	□	通信会社（職員）	・景気が変わる要素は特にない。
	□	通信会社（営業担当）	・客の様子や前年と比べた販売量に大きな変化がない。
	□	通信会社（役員）	・前年同期と比べて、新規契約獲得数が同レベルか若干下回る形で推移すると考える。
	□	通信会社（役員）	・当社の扱っている商品やサービスは生活インフラであるため、競合他社が存在するものの大きな変化はないとみている。
	□	パチンコ店（経理）	・大きな政策がなく、景気回復は望めない。
	□	競輪場（職員）	・売上水準が高くなる一方で、委託や物品購入に係る費用が増加しており、今後の景気については楽観視できない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・優良企業数の違いという地域の経済的格差によって、契約件数が異なるとみている。今後もこの傾向が続くかどうか注視したい。
	□	住宅販売会社（従業員）	・人手不足や原材料費高騰などの影響を受け、売上の増加は見込めない状況である。
	□	住宅販売会社（従業員）	・建築資材の価格が安定しない上、人手不足となっている。
	□	住宅販売会社（営業）	・良くなる要素が全く見当たらない。悪くなることはあっても良くなることはないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連 (北陸)	▲	商店街（代表者）	・年末年始の来街者数は天候に左右されるため予想ができない。また、客の購買意欲が盛り上がる要素が見当たらない。
	▲	百貨店（売場主任）	・中国人観光客の渡航自粛の状況がいつまで続くのか見通せない。春節期間まで長引く可能性が高く、そうなった場合はしばらく前年割れの状況が続く見込みである。
	▲	百貨店（販売担当）	・今後のガソリン価格引下げにより、郊外に住む30～50代の客はより遠くの低価格帯の店舗や商品が多い都会の商業施設に流れるとみている。ボリューム層の客を単店で訴求するには非常に厳しい状況である。一方、絵画や金などの高級雑貨商材は比較的堅調である。富裕層にシフトしたり、限定商材を拡大したりするなどの特色を打ち出していくことがより必要になってくるが、数か月で改善できる内容ではなく、しばらく景気はやや悪化するとみている。
	▲	コンビニ（店長）	・来客数の減少から景気は悪くなるとみている。店舗のサービスレベルを上げたくても、赤字を防ぐために仕方なく人員削減をし、営業力が低下していることから、現時点の質を下げないようにするので精一杯である。利益の減少と経費の増加を抑えなくてはならない状況がこれからも続く。
	▲	家電量販店（店長）	・物価高がおさまらず、強力な買い控えが続いている。
	▲	家電量販店（店長）	・水道光熱費の高騰により節水、節電の意識が高まって、商品の買換えを検討する客が増えている。しかし、付加機能による利便性を求める客が減っており、単価が下がっている。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	・新車注文できない車種があることが影響し、新車、中古車共に受注が弱く目標を割り込んでいる。物価高の影響により節約志向が進むなか、自動車のような高額品に対する消費者心理の冷え込みが進むとみている。
	▲	都市型ホテル（役員）	・販売価格を上げてコスト上昇分を補ってきたが、前年と比べて稼働率が低下しており、価格転嫁が難しくなっている。
	▲	旅行代理店（従業員）	・貸切バスの料金改定などを含めて物価高騰が止まらないため、客が旅行を控えるようになる心配がある。
	▲	タクシー運転手	・インフルエンザの感染拡大とインバウンド激減による影響のため、外を出歩く人が減って景気も悪くなるとみている。
	×	商店街（代表者）	・景気対策が打ち出されているが、具体的な方法や時期が不明であるため、現在の悪い状況がまだ続くとみている。
	×	テーマパーク（役員）	・物価高などの影響もあるのか、先行きの予約状況が全体として悪くなっている。
企業動向関連 (北陸)	◎	—	—
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・依然として欧州向けの二輪車関連製品の需要が旺盛で、生産が追いつかない状況が続いている。しかし、ASEAN向けの二輪車関連製品については、タイを中心に厳しい状況となっている。ベトナムでは来年、都市部を中心に排ガス規制が導入予定で、完成車メーカーの生産が低調となっている。
	○	輸送業（経理）	・軽油の暫定税率廃止が実現すれば、その分利益が上振れるため景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業（経営企画）	・年末年始の最需要期を迎える一時に数字は上向くとみているが、もとより経営環境は逆風ばかりである。さらに、中国による再度の日本産水産物輸入禁止措置の影響を受けることは確実で、プラス材料がほとんど見当たらない。
	□	プラスチック製品製造業（広報）	・受注量、販売量の見込みに特段の変化がみられない。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から、景気は変わらないとみている。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・コロナ禍明け以降、新規案件の引き合いから金型、設備着工までの期間が2～3か月から半年～1年程度に延びる傾向がある。ここ数年の実績を踏まえると、目先2～3か月で販売量が伸びる要素がほぼなく、車載関連製品を中心に横ばいが続くとみている。ただし、産業機器関連製品の受注が若干回復基調になってきていている。
	□	精密機械器具製造業（財務担当）	・客先からの受注が堅調に推移している。
	□	建設業（役員）	・年明け以降の先行きにまだ不透明感があり、何ともいえない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(北陸)	□	金融業（融資担当）	・日中関係がどの程度まで影響を及ぼすか不透明な状況である。中国による人流制限により観光関連は下振れを見込むが、素材や部品等にまで制限の範囲が及べば更なる下振れのおそれがある。
	□	不動産業（経営者）	・個人客からの問合せが少ない。
	□	司法書士	・12月以降、企業の利益面においても消費者の動向においても、最低賃金引上げの影響が出るとみている。
	□	税理士（所長）	・飲食業については忘年会シーズンに向けて更なる売上増加を期待できるが、台湾をめぐる問題に対する中国の動きが、観光業だけでなく小売業などの他業種にも悪影響をもたらす可能性がある。
	▲	繊維工業（総括）	・最低賃金の大幅な引上げに加え、今後は米国の関税引上げの影響が顕在化することを懸念している。
	▲	通信業（営業）	・円安が続くなか、輸出関連企業からの受注は停滞するとみている。一方でその他の業種は現状どおり推移するとみられる。
	▲	金融業（融資担当）	・物価高と賃上げが企業収益を圧迫するなか、今後中国との外交問題による影響が出てくると考えられ、厳しい環境が続く。
	×	—	—
	○	—	—
(近畿)	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の申込件数が増加している。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	・住宅業界において需要に供給が追いついていないように、人手不足と原材料価格の高騰が景気の足かせとなる状態が続いている。
	□	職業安定所（職員）	・原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などにより企業環境が厳しくなっており、前年同月で比較すると有効求人倍率も徐々に下がっている。さらに、10月からの最低賃金の大幅な引上げで先行きを不安視する事業所も少なくなく、廃業したり事業を縮小したりする企業が増加している。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・最低賃金引上げと物価高騰によるコスト増加の影響から、大幅な景気改善は期待できない。今後も企業の人手不足は続くとみられることから、当面このままの状況が続くと考える。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇や円安、前年の能登半島地震と豪雨災害の影響に加え、米国の関税問題や少数政権政党による運営であることの影響が懸念され、状況が好転する要素や気配がみられない。
	▲	人材派遣会社（役員）	・求人数が微減しているにもかかわらず求職者数も減っており、人材派遣業としては厳しい状況となっている。また、求職者数は高齢者の割合が高く、雇用につながらないケースが多い。こうした傾向が改善する兆しがまだない。
	▲	職業安定所（職員）	・運送業を中心に、ガソリンの暫定税率が廃止されることを理由に値下げ圧力が強まるという声を聞く。
	▲	職業安定所（職員）	・人手不足の状況は変わっていない。採用はしたいが、業績が良くないためにやむを得ず募集を中止する事業所が出てきている。
	×	—	—

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

(ー：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(近畿)	◎	百貨店（サービス担当）	・今の傾向に変化はなく、大阪・関西万博の関連店舗が年末まで営業を続けるほか、順調な気温の低下も予想されるため、食料品を中心に売上は好調な推移が期待される。
	◎	乗用車販売店（支店長）	・これから年末にかけて、更に景気が上向くと予想される。
	◎	通信会社（社員）	・新生活関連の最需要期であり、繁忙期となる。キャリアの施策にも左右されるが、中古品の端末を含めて、販売量は増える見込みである。
	○	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・年末に近づき、販売量の動きが良くなることが期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	百貨店（売場主任）	・当店独自の事情に加え、ガソリン減税や政府の積極財政により景気が上向くと予想される。
	○	スーパー（企画担当）	・12月は2つの自治体によるキャッシュレス決済のキャンペーンがあり、4店舗が該当するため、米を始め、年末年始関連の主要商材の動きが伸びると予想される。キャンペーンによる還元額が上限に達すれば、早期終了となるケースもあるため、期間中は最大限の売上につながるような売場作りを進める。
	○	スーパー（企画）	・都心の店舗では、インバウンド需要の減少による影響を受けそうであるが、ガソリン減税などの物価高対策の効果が期待されるため、やや良くなると予想される。
	○	コンビニ（経営者）	・年末にかけて客足や販売量が増えるため、景気の回復が期待できる。
	○	コンビニ（店員）	・12月はイベントが多く、予約商品なども増えるため、今まで以上に忙しくなりそうである。
	○	衣料品専門店（経営者）	・本格的に冬が到来し、コートやダウンジャケットなどの重衣料のニーズが増えてくるため、売上の増加が見込まれる。
	○	衣料品専門店（店長）	・大阪・関西万博は閉幕したが、インバウンドは多く、購買の増加につながっている。ただし、物価の上昇問題や中国との外交問題といった懸念材料は多く、手放しでは喜べない状況が続くと予想される。
	○	家電量販店（店員）	・年末商戦から正月商戦を経て、新生活需要にシフトするのに伴い、来客数の伸びが予想される。
	○	家電量販店（企画担当）	・新首相が就任し、様々な課題解決のために野党と連携して対応の強化を進めている。時間は掛かるかもしれないが、1つずつ前進していくことが求められる。そのなかで、暫定税率の廃止は、物流コストの削減効果がすぐに現れると予想される。
	○	乗用車販売店（経営者）	・スタッフレスイヤの売行き好調が今後も続く。
	○	自動車備品販売店（営業担当）	・外国人客の購買意欲が高い。
	○	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・来月はボーナス商戦の時期であり、来客数が増えるほか、1人当たりの購入額も間違いなく増える。足元でもインフルエンザの流行により、関連商品の売上が伸びている。
	○	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・感染症が流行する季節になるため、マスクやパルスオキシメーターなどの売上が増える。
	○	一般レストラン（企画）	・ガソリン価格が明らかに下がっており、今後も政府の物価高対策に期待したい。一方、最低賃金引上げの影響でパート賃金が更に上昇し、人件費の負担が大きくなっている。
	○	その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・インバウンドによる来店の増加が続いているため、景気は良くなる。
	○	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・クリスマスや年末年始などの大型イベントによる需要増に期待している。
	○	都市型ホテル（管理担当）	・新政権への期待もあり、購買意欲が増している。
	○	都市型ホテル（販売促進担当）	・客室の先行予約の動きは不透明であるが、元々当ホテルでは中国からのインバウンドの利用はないほか、円安の影響もあって欧米からのインバウンドの動きが良くなっている。また、宴会の開催の問合せも増えており、コロナ禍の収束以降も減少が続いていたものの、11～12月は会場が埋まるなど問合せが増えている。同窓会での利用というよりも、企業による催しが増加している。
	○	タクシー運転手	・気候も寒くなり、飲み会の増える時期となるため、少しは動きが出てくる。
	○	タクシー運転手	・忘年会シーズンに向けた期待は大きいが、景気を押し上げる減税などの施策も望まれる。タクシー料金も11月5日から更に上がったため、消費者がお金を使いやすいよう、将来への不安を少なくしてほしい。
	○	通信会社〔貴金属オーナークション〕（経営者）	・金相場は上昇トレンドが続くと予想されるほか、取引先にも良い動きが目立っている。
	○	遊園地（経営者）	・大阪・関西万博に流れていたレジャー需要が、今後は戻ってくると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	住宅販売会社（経営者）	・価格転嫁の動きが落ち着いてくれれば、良くなってくる。
	□	商店街（代表者）	・特に高齢者の人出が少なくなっている。
	□	一般小売店〔花〕（経営者）	・クリスマスや正月などの季節商材により、売上は少し増えるが、通常商品の販売がなくなるため、大幅な売上増とはならない。一方、仕入価格の上昇で販売単価が上がり、例年以上の買い控えの動きもみられる。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・12月の受注は入っているものの、先行きは不透明である。
	□	一般小売店〔手ぬぐい〕（経営者）	・値上げラッシュにより、客の購買意欲が今一つ上がってこない。
	□	一般小売店〔野菜〕（店長）	・現時点で変化する要素はなく、変わるとしても半年程度を要する。
	□	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・現段階では先行きが不透明で、将来が見通せない。
	□	一般小売店〔呉服〕（店員）	・新しい着物を購入しない傾向にあり、振り袖なども売れず、景気が良いとはいえないが、徐々にお金を使う動きがみられる。
	□	百貨店（広報担当）	・国内売上には大きな増加が期待しにくく、堅調な推移を予想している。その一方、インバウンド売上には不透明さが残る。
	□	百貨店（販促担当）	・1番の懸念材料はインバウンド需要の減退であり、影響も長引きそうであるが、円安傾向がインバウンド需要にプラスとなる期待もある。また、スタートダッシュを狙った政府の積極的な景気対策が消費にプラスとなるなど、プラス材料とマイナス材料が混在している。今後の予想は難しいが、国内客向けの対応を強化し、安定した売上を目指す。
	□	百貨店（外商担当）	・株高や円安の動きが続くと予想され、インバウンド売上の好調の継続や、高額品売上の増加が見込まれる。
	□	百貨店（販売推進担当）	・日中関係などの懸案事項はあるが、郊外店の売上に占めるインバウンドの比率は高くないため、余り影響を受けることはない。株価がある程度現状の動きを維持できれば、落ち込みは少ないと予想される。
	□	百貨店（マネージャー）	・現時点では日中関係の問題による影響ではなく、地域全体でも当面はインバウンドの増加による恩恵が続く。クリスマス商戦や年末年始商戦では、限定商材の予約なども順調であり、ハレの日需要として一定の動きが期待できそうだ。食品価格の高騰による節約志向で、客单価の低下が懸念されるものの、全体的な流れは変わらないと予想される。
	□	百貨店（売場マネージャー）	・国内景気に大きな変化はないと予想される。様々な経済対策が控えているが、個人消費が活性化するまでには至らない。インバウンドの消費も先行き不透明であり、景況感が良くなる要素はないと予想される。
	□	百貨店（マネージャー）	・今後の政府の景気対策で好転することが期待できるが、物価の上昇による買上額や買上率の悪化は、当面続くと予想される。
	□	百貨店（営業推進担当）	・来客数は前年を上回っているが、売上単価が低下している。
	□	百貨店（商品担当）	・日中関係の冷え込みの影響が見通せない。現時点では中国人客の著しい減少はみられないが、今後は徐々に影響が出てくる可能性がある。
	□	スーパー（店長）	・新政権への期待は大きいが、まだガソリン減税に着手したところであり、結果が出るのはまだ先である。
	□	スーパー（店長）	・食品価格の上昇は続いているが、中国との関係についての懸念も拭えないため、消費が上向くことはない。
	□	スーパー（店員）	・年末年始は価格が高くても売れる傾向にあるが、例年に値上がりが進めば、どうなるかは見通せない。
	□	スーパー（企画担当）	・競合店の出店もなく、来客数は現状維持の予想である。
	□	スーパー（経理担当）	・物価の上昇による消費マインドの冷え込みは厳しいが、クリスマスから年末年始にかけてのハレの日需要には一定の盛り上がりが期待できる。ただし、日常の消費については引締めが続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	スーパー（販売促進担当）	・しばらくは前年並みの来客数で推移し、単価の上昇による売上の増加傾向が続くと予想される。ただし、円安傾向が進めば、原材料価格の上昇により、買い控えが増えるリスクはある。
	□	スーパー（企画）	・食品スーパーという業種上、大阪・関西万博の閉幕による影響はない。中国による渡航自粛の影響も特になく、ガソリン減税の影響も物流コストの改善で原価が下がるほどではないため、全体的に大きな変化はない。
	□	スーパー（社員）	・長引く物価の上昇により、客の節約志向が続いているなか、新政権による消費喚起策の実施などが期待される。ただし、実施されるまでに時間が掛かるため、当面は厳しい状況が続く。
	□	コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博の効果がなくなり、来客数の減少は免れないが、まだ商品価格の改定が続いている。今後も客単価の上昇が期待されるため、売上は今の水準を維持できそうである。
	□	コンビニ（経営者）	・現時点では大きな変化はないと予想される。
	□	コンビニ（店員）	・決まった客が決まった物を買うという、常連客で回っている店であるため、大きな動きがない限り変わらない。その限界を超えるような打開策を検討している。
	□	コンビニ（店員）	・気温の変化や人流の変化により、季節商材の売上が左右される。
	□	衣料品専門店（経営者）	・インバウンドの変動次第である。
	□	家電量販店（店員）	・ボーナスの支給時期であるが、物価の上昇が続いている。家電価格も上昇している一方、収入が増える見込みはないため、購入に慎重となるのは当然である。必要な物であると判断して、高額品を購入するケースも少なくないが、販売量が多くないため、全体としては変わらない。
	□	乗用車販売店（経営者）	・年末に向けて期限を迎える業務が増えているが、年明け以降の注文は少なくなる。
	□	乗用車販売店（役員）	・自動車業界は100年に1度の変革期といわれるが、電気自動車へのシフトは進んでいない。米国の関税問題もあり、国内の自動車業界は一部を除いて苦戦するなど、業界として元気がない。さらに、経済的な要因もあって、客の自動車購入意欲が減退している。この状況が改善するには時間が掛かると予想される。
	□	乗用車販売店（販売担当）	・環境の大きな変化がなければ、売上が大きく伸びることはない。
	□	乗用車販売店（販売担当）	・新総裁の下で、積極財政などにより景気が上向くことが期待されたが、円安が進むなか、金利は上げられず、景気の不透明感も払拭できていない。客の間でも不安の声が上がっていいる。
	□	その他専門店〔食品〕（経営者）	・所得の増加がまだインフレに追い付いていない状況を考えると、景気の回復には時間が掛かると予想される。
	□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・人件費の上昇や人手不足により、建築費は高騰したまま高止まりとなっている。大阪・関西万博の閉幕後は落ち着く見通しもあったが、インフレは続くとの予想から、景況感に変化はない。
	□	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・ボーナスなどへの期待は低く、物価の上昇も続いているため、イベントなどをきっかけとした購入は増えそうにない。
	□	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・気温の低下により、風邪薬や衛生用品の需要は緩やかに上向いており、カイロなどの冬物商材も動き出すと予想される。食品や生活必需品も順調に推移しており、化粧品やスキンケア商材の動きにも大きな変化はない。一方、大阪・関西万博の閉幕や世界情勢の変化による影響は全くないが、季節商材を除いたプラス材料も見当たらない。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・来月は忙しくなるが、年が明けると落ち着くため、トータルでは変わらないと予想される。
	□	高級レストラン（企画）	・国内旅行の需要が弱く、それをカバーしていたインバウンド需要も中国からの動きが減少しているため、今後は悪影響が出そうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	一般レストラン（経営者）	・年末に向けて、団体客によるある程度の利用が見込まれるもの、それ以外では不安が尽きない。更なる中国との関係問題があれば、飲食業界にも大きな影響が避けられないため、来客数や仕入れなどの面で、先の読めない状況が続く。
	□	一般レストラン（店員）	・年末年始にかけての予約が前年比で落ち込んでいるが、これ以上下がる要素はない。
	□	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・来月の年末調整では、会社員は基礎控除などの引上げで手取りがやや増えるが、これを実感できる人がどれくらいいるかは不透明である。仕組みがややこしく、気づかない人も多いとみられる。
	□	観光型ホテル（経営者）	・来年1月は先行予約の状況が芳しくないものの、1月以外は順調に予約が入っている。中国からの団体客の旅行はそもそも扱っていないため、中国の渡航自粛による影響はほとんどないと予想している。
	□	観光型旅館（経営者）	・中国からのインバウンドの減少が報じられているが、大騒ぎするほどではない。その分、国内の旅行者が増えるほか、中国人の経営による民泊が大きな打撃を受ける。こうした民泊での消費は中国の電子マネーで支払われており、日本の経済成長にはつながりにくいのが実情である。
	□	観光型旅館（経営者）	・現状は人の流れに変化がなく、今後も人が動く時期となるが、例年と大きな変化はないと予想される。
	□	都市型ホテル（客室担当）	・長期的には中国問題も解決すると予想される。直近はキャンセルが多いが、実際に新規の予約も増えている。
	□	旅行代理店（支店長）	・年末年始の日並びをみると休暇が比較的取りやすいが、旅行の申込状況は芳しくない。ここに中国の渡航自粛の影響が出てくれば、状況が更に悪くなる。
	□	通信会社（社員）	・ブロードバンド需要についても、大きな伸びがみられない。
	□	通信会社（役員）	・厳しい競争環境下にあるが、一定の需要が継続しているため、事業環境自体に大きな変化はない。
	□	観光名所（企画担当）	・大阪・関西万博の閉幕後も、来場者の数はそれほど戻っていない。今後はインバウンドの回復が期待されるが、今回の中国問題で厳しくなると考えている。
	□	競艇場（職員）	・賃上げの動きや物価の上昇、大阪・関西万博の閉幕、海外情勢の変化など、様々な要因がどのように作用するか、見極めるのは難しい。
	□	その他レジャー施設（管理担当）	・例年どおり、合宿での利用による予約が入っている。
	□	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・12月～2月にはコンサートが約30日間開催されるほか、子ども向けのイベントや企業イベントも開催されるため、前年並みの集客を見込んでいます。
	□	住宅販売会社（経営者）	・市内中心部の地価はやや上昇傾向にあるが、周辺地域の地価の上昇は落ち着いてきた。実需はそれほど増えておらず、高止まりの状況にあることから、今しばらくは現状の水準で推移しそうである。
	□	住宅販売会社（企画担当）	・極端に悪化する兆候はみられないが、良くなる材料もない。営業サイドからは、厳しくなってきたという声が出ていている。
	□	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・中国の渡航自粛により、取引先のホテルや民泊業者は新規出店を見送る可能性がある。中国人観光客だけに依存しているわけではないが、少し厳しい状況が続きそうである。
	□	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・中国との関係問題によるインバウンドへの悪影響について、その規模や期間がどの程度になるかで、住宅市況にも悪影響が出る可能性がある。
	▲	一般小売店〔時計〕（経営者）	・日々の普通の生活に必要な費用が少しずつ増えており、なかなか余裕がもてない。年代によって少し違いはあるが、余裕のある人とない人がはっきりと分かれている。収入面の余裕だけでなく、精神面での余裕がない人も増えているため、景気の改善は難しい。
	▲	一般小売店〔衣服〕（絏営者）	・物価の上昇が続くなか、消費者の買い控え傾向は更に強まる。政治経済の先行きが不透明ななかで、生活の実感としての景気が良くなることはない。
	▲	一般小売店〔花〕（店員）	・日用品価格の上昇で、購買意欲が下がっている。この傾向は今後も続くと予想され、良くなる兆しがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	百貨店（マネージャー）	・直近の変化のポイントはインバウンドであり、ここ3～4か月は好調に推移している。前年比で10～30%増であった増加ペースが、この数か月は30～70%増となった。ただし、急にこの数日は微増にとどまっている。その原因は日中関係の問題による影響が大きく、大規模な旅行企画の中止なども聞いており、今後は更なる影響が考えられる。
	▲	百貨店（外商担当）	・日中関係の問題により、小売業や百貨店業界にも確実に悪影響が出るが、富裕層を中心とした国内客の売上回復が、その穴を埋める可能性はある。
	▲	百貨店（売場統括）	・日中関係の回復に向けた兆しがみられないなか、現時点の中国による措置が今後も続くことになれば、厳しい状況となる。現状は大きな問題がみられないものの、春節に向けて、更なる訪日の抑制に踏み切るおそれがある。
	▲	百貨店（商品担当）	・夏以降は增收基調であったインバウンド売上が、中国の渡航自粛によって急減しており、2月の春節時期も大きな打撃が見込まれる。ただし、東南アジアや欧州からのインバウンドによる来店は増えており、どこまで影響を抑えられるかが注目される。
	▲	百貨店（宣伝担当）	・大阪・関西万博の閉幕による来客数の減少に加え、日中関係により、更なるインバウンド売上の減少が予想される。特に、大阪は客に占める中国の比率が非常に高いため、年明けから春節にかけての懸念が大きい。
	▲	コンビニ（経営者）	・今後は寒くなっていくため、ホットコーヒーの品質を上げるほか、おでんや温かいお茶などを充実させる。また、パック総菜やサラダなどのプラスワン商材も用意して、売上をカバーしていく。ただし、来客数の減少による影響は楽観できない。
	▲	コンビニ（経営者）	・祭りなどが終わり、年末年始までは動きが悪くなる。ただし、忘年会シーズンがどうなるかは楽しみにしている。
	▲	コンビニ（店員）	・例年の動きとして、寒くなると来客数が減る。
	▲	衣料品専門店（店員）	・市場が閑散期に入るため、売上の悪化が予想される。
	▲	家電量販店（経営者）	・補助金の終了後は問合せが減るため、売上の減少が予想される。
	▲	家電量販店（店員）	・全体的な物価の上昇により、客の購入意欲も低下するなど厳しい状況が続く。政府の減税や補助策などで、購入意欲を押し上げていかなければ、徐々に悪くなっていく。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・需要の先取りによる影響で、徐々に厳しくなっている。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	・中古車のオークションでの流通価格が下降気味で、価格競争も激化している。少しでも安い物を探すため、仕入れも難しくなっている。
	▲	一般レストラン（経営者）	・物価の上昇が続く限り、家族での外食や行楽の回数は減少する。近隣に新店舗が何店かオープンしたが、夜の営業は厳しそうであり、長年続けてきた店による閉店の話も増えている。
	▲	一般レストラン（経営者）	・中国からのインバウンドの来客数が顕著に減少している。
	▲	観光型旅館（団体役員）	・当地域では中国からのインバウンドが全体の約5割を占めていたが、日本への渡航自粛による減少が予想されるため、他の国からの誘致を進める必要がある。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・中国の渡航自粛がいつまで続くかが不透明であるが、旧正月に伴う利用は減ると予想される。ただし、国内客やインバウンドの団体客の予約が入っており、その穴はカバーできそうである。レストランや宴会についても、例年並みの予約を確保できている。
	▲	都市型ホテル（フロント）	・中国からの受注の比率が低いため、影響は全くない。ただし、中国からの団体客が多い高ランクのホテルが料金を下げ始めると、影響が出そうである。
	▲	都市型ホテル（客室担当）	・中国の渡航自粛問題以降、先行予約の受注ペースは落ち込んでいる。
	▲	旅行代理店（役員）	・長引く物価上昇により、徐々に消費行動への悪影響が出始めている。今後は旅行に行く余裕のある客層と、そうでない客層との2極化が更に進むと予想される。
	▲	通信会社（経営者）	・円安の継続による原材料価格の上昇が止まらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連(近畿)	▲	通信会社（営業担当）	・1～2月は閑散期であり、引っ越しや他社への移行の動きも鈍化する。現在の契約額よりも10～20%ほど減ることが予想される。
	▲	観光名所（経理担当）	・今月が景気対策で良くなっている分、今後はその反動での悪化が予想される。
	▲	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・今後は中国からのインバウンドの減少が見込まれる。冬のスキー場への団体予約は今のところ入っていない。個人客の動きは正確な数値が把握できないが、影響は出てくることが予想される。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・分譲マンション、賃貸マンション共に、分譲価格や賃料をこれまで以上に高額に設定しているため、需要が不調となる割合が高まる。
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・物価や金利の上昇により、消費は減速傾向となる。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・今後の住宅ローン金利は先行きが不透明であり、それに伴い消費マイナスも低下する。
	×	一般小売店〔化粧品〕（経営者）	・12月前半ではクリスマスコフレの動きが続く見込みで、この傾向は変わらないと予想される。また、スキンケア商材の低単価化も更に進むほか、インバウンドを含む商業施設への来客数も前年比で90%台の動きが続く。一方、値上げ要因による客離れも続いており、価格の2極化が進むなか、高額商材の動きも悪くなると予想される。
	×	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・大阪・関西万博の閉幕による影響で、更に悪化が進むと予想される。
	×	百貨店（企画担当）	・中国からの旅行のキャンセルによる影響は、今後3か月程度は続くと予想される。
	×	スーパー（開発担当）	・政府の景気対策が実行されているものの、物価の上昇は止まらない。これでは景気対策をどれだけ実施しても、状況は良くならない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・今後は景気が悪くなると予想される。女性が服を購入しない習慣が定着し、新たな商品が売れなくなっている。
	×	家電量販店（店員）	・リフォーム関連では補助制度が数年間続いているが、基本的な商品が変わらないため、大きな変化はない。一定の購買層がターゲットとなるなか、購入の優先順位は後回しとなることが予想される。
	×	住関連専門店（店長）	・客が商品を選ぶとき、ほぼ100%の確率で価格の安い方で決まる。
	◎	木材木製品製造業（経営者）	・円安傾向が一向に収まらず、輸入販売会社としてはこれからが心配である。今まで10年以上続けてきた燃料関連の事業の売上は、以前の半分にも満たない水準となっている。ただし、その他の事業でカバーすることで、全体としては改善が見込まれる。
	◎	電気機械器具製造業（経理担当）	・来春までは好調が続く見込みである。ただし、当社の取扱品では、自動車関連には全く動きがみられない。
	○	食料品製造業（営業担当）	・今冬は前年よりも天候が暖かくなるため、飲料の売上も少し良くなる。特にクリスマスや年末年始は、一時的に売上が伸びると予想される。
	○	化学工業（管理担当）	・新政権への期待感が大きい。
	○	金属製品製造業（経営者）	・受注の内示状況からみて、年明け以降は動きが出てくると予想される。
	○	建設業（経営者）	・現状と同じく、今後も引き合いの増加が予想される。
	○	通信業（管理担当）	・年末商戦でやや活気が出るため、先行きは良くなる。
	○	金融業（営業担当）	・新政権が発足し、旧態依然とした取組が見直されることで、より良い社会となることが期待される。
	○	金融業〔投資運用業〕（代表）	・中国の渡航自粛により、観光地では中国人が減って国内客が観光しやすくなるなど、経済的な打撃を受けているのは中国の方だとみられる。国内客の需要がうまく循環することで、日本経済が復活する1つのきっかけになるため、その意味でも将来に期待を持つようである。
	□	食料品製造業（従業員）	・製品への新規の需要はみられるが、中国向けの落ち込み分をカバーする程度にとどまる。年末年始は在庫を豊富に持つておきたいが、一部で中国からの原料の到着が遅れているため、今後への不安がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	食料品製造業（管理担当）	・売上の変化につながる要素は特にないため、大きくは変わらない。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・実感として消費が伸びていない。
	□	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・今後は大型イベントもないため、一時的な動きとはみられるが、やや発注を控える動きが続きそうである。
	□	化学工業（経営者）	・新政権の打ち出した経済政策には期待しているが、2～3か月先ではまだ結果が出ない。
	□	化学工業（企画担当）	・食品業界は比較的好調であるが、当社の業績は悪化が続いている、前年度を大きく下回っている。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	・従来の製品と新製品の入れ替わりの動きが遅い。客の間には、全体的に様子見の雰囲気が漂っている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・最近の取引先の投資計画は余り芳しくなく、今後もこの状態が続く。
	□	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・新政権への期待感はあるものの、まだ具体的な成果を実感することはできないため、景気への影響はまだ小さい。
	□	輸送用機械器具製造業（役員）	・設備の納入時期が、受注から1年～1年半というリードタイムが改善されない。
	□	建設業（経営者）	・監理技術者不足や技能労務者不足で、受注の厳しい状況が続いている。人件費や建設資材価格の高騰もあり、計画段階と現状で予算のかい離が生まれている。今後は取引先による予算の見直しも検討してほしい。
	□	輸送業（経営者）	・大きな転機とみられる情報があり、先行投資を進めていたが、取引業者の予想外の事故で延期になっている。
	□	広告代理店（営業担当）	・年明けの受注もそろそろ入り始めており、3月までは好調が続きそうである。
	□	司法書士	・物価の上昇が続くなか、当分の間は現状の動きが続く。
	□	経営コンサルタント	・インバウンドが多い商店街では、中国人観光客の減少が実感されるが、近年はかつてのような爆買いもなくなっているため、影響は小さい。むしろオーバーツーリズムが緩和されるという声もある。
	□	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・今年もあと少しであるが、このまま大きな変化がなく終りそうである。
	□	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・物価上昇の影響を受けつつも、前年の年末と同様に、イベントでの消費が増えると予想される。日常生活の消費は切り詰めて、特別な時期でお金を使う傾向が今後も続く。
	□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・為替が1ドル130円前後になれば、国内市場の動きが良くなる。
▲		繊維工業（総務担当）	・催事での集客は新規客が少なく、固定客が中心であるが、既に購入した客からは追加購入が期待できない。消費者は疲弊しており、売上が伸びない要因となっている。
▲		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・中国問題はすぐに収まることはなく、長期化が予想されるため、インバウンドの動きにも悪影響が出る。直接的な影響ではないものの、売上の減少が予想されるため、様々な物価高対策は実施されるが、身の回りの景気はやや悪くなる。
▲		金属製品製造業（製造担当）	・建築業界の景気が急に良くなるとは考えにくい。
▲		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取扱製品の販売量が気温に左右されるため、今後は業況が悪化に向かう。
▲		建設業（経営者）	・収入の増加が物価の上昇に追い付くまでには、相当な時間が必要であるため、住宅の購入に対する公的な助成が必要とみられる。
▲		輸送業（営業担当）	・中国からの輸入が止まれば、納期の遅れにつながる懸念がある。
▲		輸送業（商品管理担当）	・酒類の需要は、例年12月と1月は低迷するほか、大手飲料メーカーへのサイバー攻撃で更に低迷している。
▲		金融業〔保険〕（経営者）	・中国との関係問題により、インバウンドが減っている。地域によっては影響がないものの、観光客相手の業種への影響は大きく、今後を不安視する声が多い。
▲		金融業（営業担当）	・中国の渡航自粛によるインバウンドの減少で、消費の減退が予想される。
▲		不動産業（営業担当）	・インターネット経由での販売が増えており、実店舗の営業が苦しくなっている。今後も空室率の上昇と賃料の低下が進むことで、景気は悪くなると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (近畿)	▲	その他サービス業〔受託調査〕(調査担当)	・物価の上昇による原材料価格の高騰が続くなか、取引先がいつまで価格転嫁に応じてくれるのか、不安になってきた。また、人手不足が解消される兆しもみられない。
	×	その他製造業〔履物〕(団体職員)	・円安や物価上昇、消費者の買い控え、人口の減少など、何1つプラス材料がない。
	×	輸送業(営業担当)	・通販関係の荷物の増加で売上は伸びたが、増えた仕事量に業界が対応できおらず、ますます人手不足になりそうである。
	×	その他非製造業〔電気業〕(営業担当)	・当面は物価高対策が求められるほか、長期的に国の成長力が高まるような対策が求められる。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—
	○	人材派遣会社(役員)	・冬に向けて、求人や求職者の動きが活発になっている。
	○	人材派遣会社(支店長)	・年度末に向けた、駆け込み受注が増えそうである。
	○	民間職業紹介機関(職員)	・年度末に近づくと、建設現場では駆け込み受注が増えると予想される。
	○	学校〔大学〕(就職担当)	・物価高対策の実施が予想される。
	□	人材派遣会社(営業担当)	・特に求人数が増える要素はなく、求人条件の改善も余り期待できないため、求職者と求人企業のマッチングは厳しい状況が続く。
	□	新聞社〔求人広告〕(営業担当)	・物価の上昇と給与の増加が比例していないため、状況は変わらない。
	□	新聞社〔求人広告〕(担当者)	・関西企業の販売促進予算の使い方は、今月と大きく変わらない見込みである。
	□	職業安定所(職員)	・中国の渡航自粛などによる影響は不透明であり、今後は様子見の動きが出てくる。
	□	職業安定所(職員)	・最低賃金の大幅な引上げによる、中小企業の経営への負担が大きいという声はあるが、人手不足を背景に新たな求人を出す動きもあるため、雇用情勢に大きな変化はない。
	□	職業安定所(職員)	・時期的な動きとして、1月以降は求人数が増えるものの、それ以外の増加要因は見当たらない。一方、今年は最低賃金の引上げ時期が都道府県ごとにずれており、求人を阻害する動きは続くものの、求人数でみた景気の動きに大きな変化はない。
	□	職業安定所(職員)	・人手不足による求人の募集が継続しており、求人企業からは業況の改善や悪化の話がないことから、現状のまま推移すると予想される。
	□	民間職業紹介機関(営業担当)	・2月開催の合同企業説明会の出足は鈍いが、新卒採用での人材不足を考えると、恐らくここから出展希望が増えるため、最終的には前年並みかそれ以上の出展が見込まれる。一方、求職者である学生の動きは早く、参加学生の中には2027年卒だけでなく2028年卒も含まれるため、それを見越した合同企業説明会のイベント設計や、出展企業へのアプローチが必要とみられる。
	□	学校〔大学〕(就職担当)	・新政権による投資支援や物価高対策への期待は大きいが、医療業界では、医療費を上げるような施策がなければ、生産性の向上や職員の所得向上にはつながらない。初任給の上昇という面でも、企業間の格差があるとはいえ、他業界と比べて赤字の施設が多い医療業界の動きはまだ限定的であり、物価の上昇を加味すると景気の浮揚感はない。生産性の向上を図るために、医療費の引上げに対する施策が求められる。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・円安により想定以上の利益が出ている企業からは、情勢が一気に変わるおそれがあるという声がある。また、輸入商品を扱う企業からは、円安による業績の悪化など、為替の影響を懸念する声がある。
	▲	人材派遣会社(営業担当)	・就業が決まらない求職者が増えるなど、景気は良くならない。
	▲	人材派遣会社(管理担当)	・中国との関係問題で、観光業に徐々に影響が出ている。この状況が長引けば、観光業からの求人の減少も避けられない。
	▲	学校〔大学〕(就職担当)	・物価の上昇に応じた待遇の改善は進んでいない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	-	-

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (中国)	◎	通信会社（運用担当）	・物価高政策により、景気は良くなる。
	○	一般小売店〔印章〕 (経営者)	・年末が近づき多少動きが良くなってくる。新年度前には例年同様の傾向がみられる。
	○	一般小売店〔洋裁附属品〕 (経営者)	・イベントが多くなり、来客数も増え、売上増加につながることが期待できる。
	○	百貨店（営業担当）	・インバウンドと購買率が急速に伸びている。この傾向が続ければ、他地域より遅れてではあるが、全体的なプラス効果につながる可能性がある。
	○	スーパー（店長）	・お歳暮やクリスマス、年末需要を背景に、景気が良くなることを期待したい。
	○	コンビニ（店長）	・寒さの到来で人出は鈍化傾向にあるものの、インバウンドが好調を維持している。来客の大半は欧米からであり、中国懸念の影響は大きくないと考えられる。
	○	コンビニ（副地域ブロック長）	・単価上昇が続いている、売上は必然的に伸びる。年度末に向けて公共工事も増えており、来客数の増加も期待できる。
	○	衣料品専門店（代表）	・ガソリン暫定税率廃止や物価高対策の効果が徐々に現れてくるとみられる。
	○	家電量販店（企画担当）	・経済政策が少しずつみえてくると考えられ、それに伴って景気が良くなると期待できる。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・今月は来客数が激減した。年末商戦や今後の商品需要に期待したい。
	○	乗用車販売店（業務担当）	・物価の上昇は避けられないが、新型車種が発売されるため、多少は良くなっていく。
	○	乗用車販売店（店長）	・新型車の発売予定も控えており、市場が活性化するとみられる。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・新規客の来店や問合せが増え始めている。年末のボーナス商戦から初売り、決算期にかけて販売台数も増える見込みである。ガソリン暫定税率廃止や生活費補助など、消費促進施策の効果に期待する。
	○	乗用車販売店（統括）	・新型車の効果が見込まれる。
	○	その他専門店〔時計〕 (経営者)	・物価上昇に連動していないが、賃金は上昇傾向にあるため、個人消費は徐々に上向くと考えられる。
	○	その他専門店〔宝石店〕 (店員)	・物価上昇の影響で消費意欲は落ち込んでいるものの、金価格の上昇を背景に、金の購入を考える人が増加している。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕 (支配人)	・今年の冬は気温低下が予想されており、衣料や寝具関連、ホットメニューを中心とした食材や飲食メニューの拡大が見込まれる。
	○	一般レストラン（経営者）	・年末に向けては、ボーナス支給や忘年会などのイベントをきっかけに、人の動きが良くなるとみられる。
	○	バー（経営者）	・12月は改善が期待されるものの、その後の動向は不透明である。
	○	都市型ホテル（総支配人）	・12月及び1月の宿泊予約ペースは、前年と比べて10%以上良くなっている。
	○	旅行代理店（支店長）	・年末年始の需要は堅調で、国内外共に前年超えの見込みである。更なる地方創生対策で旅行需要喚起に期待する。
	○	競艇場（企画営業担当）	・2～3か月後の1月と2月の1日平均売上は、若干増加するとみられる。
	□	商店街（代表者）	・新規開店の店があり、新たな客層の取り込みを期待できるが、気候の影響により人通りは減少傾向になることが予想される。客は余計な物を購入しないなど、財布のひもは相変わらず固い。
	□	商店街（理事）	・希望的観測を含め、今以上に悪くなつてほしくない。
	□	一般小売店〔食品〕	・商品単価の上昇により販売量の増加は見込めず、売上に変化はないとみられる。
	□	一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	・商品価格の上昇が落ち着いてきた。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（広報担当）	・新政権による経済対策等は発表されたが、物価高が続いていること、賃上げによる可処分所得の大幅な増加は見込めない。特に中間層の消費に大幅な変動はないと考えられる。
	□	百貨店（営業担当）	・足元の商圏はやや改善傾向だが、中国の動向が不透明である。
	□	百貨店（営業担当）	・購入する客は高額商品に集中する一方で、購入しない客は少額品でも手が出せず、中間層の購買がほとんどない。その結果、客層は2極化し、格差が更に拡大しており、この傾向は当面続くとみられる。
	□	百貨店（営業担当）	・景気が変わる兆しがない。
	□	百貨店（売場担当）	・今後の動向は、気温の状況で大きく左右されるが、おおむね安定しているとみる。春先以降の状況は全く読めない。
	□	百貨店（外商担当）	・株価は上昇し続けているものの、物価の上昇により中間層の購買意欲は伸び悩んでいる。
	□	スーパー（店長）	・現状は変わらないとみられる。年末年始に向けても消費を刺激する好材料は見当たらない。物価高騰が続く限り、消費行動は厳しいと予測する。逆に、現状よりも悪化する可能性も低く、現状維持とみられる。食品分野では、より低価格帯の商品構成が拡大するとみられる。
	□	スーパー（店長）	・客の節約志向は続いているが、必要な物の購買は、特売やチラシ掲載商品、割引セールス日に集中する傾向がみられる。
	□	スーパー（店長）	・値上げが続いている一方で、賃金のベースアップは物価上昇に追い付いていない。今後も来客数と販売点数は減少するが、値上げにより売上が維持できる状況が続く。ただし、利益は縮小していく傾向に陥る。
	□	スーパー（販売担当）	・政府の21兆円規模の経済対策が、どれほどの効果があるか不透明である。
	□	スーパー（業務開発担当）	・最低賃金引上げやボーナス効果は、年末から新年にかけて現れる。
	□	スーパー（営業システム担当）	・クリスマスや年末年始の予約販売が平年並みに推移している。一方で、特売日にまとめ買いをする傾向があり、来客数は特売日に跳ね上がっている。寒さの到来による光熱費の上昇で、節約志向は続くとみられる。
	□	スーパー（販売担当）	・全体的に物価の上昇が続くなかで所得は変わらず、閉塞感がある。景気対策に期待したい。
	□	スーパー（財務担当）	・今後も商品単価の上昇は続くものとみられ、物価高騰による節約はあるものの、来客数が維持できれば現状の景気は続く。
	□	コンビニ（支店長）	・円安や賃金上昇が中小企業に大きなダメージを与えており、ここへの政策効果がない限り、経済の好循環は期待できない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・不安要素はあるが、これ以上は悪くならない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・余り景気の良くなる要素がみてこない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・着物や帯に限らず、裏地や掛け地、半襟等の仕入価格も上昇しており、大変な状況となっている。
	□	家電量販店（店長）	・特別な景気対策はなく、商売は低調なまま推移するとみられる。
	□	家電量販店（副店長）	・商品によって浮き沈みはあるが、全体的な進捗は横ばいで推移するとみられる。ただし、パソコンのOSアップグレードに伴う需要が一段落したので、販売は低迷する。
	□	乗用車販売店（経営者）	・車両の買換え時期を迎えているにもかかわらず、客が購入を先延ばしする傾向があり、販売が低迷している。
	□	乗用車販売店（リース担当）	・今のところ景気が良くなる状況ではないが、首相交代によって流れが変われば、多少は好転する可能性もある。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・今年最後の月を迎えるにあたり期待はあるが、先行きは不透明である。稼働日数が限られるため、早めに手を打って改善に取り組み、良い形で年を締めくくりたい。
	□	住関連専門店（営業担当）	・来場者数が増えない。
	□	その他専門店〔土産物〕（経営者）	・商品の値上げは続いているが、収入は伸び悩んでおり、出費を控える傾向はこれからも続くとみられる。米券の配布では、消費者の反応はないと予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他専門店〔革製品〕(店主)	・国の政策が軍事産業などに偏っているため、プラス面とマイナス面が両極端に現れる可能性があると考えられる。
	□	高級レストラン(事業戦略担当)	・景気を左右する大きな要因はない。
	□	一般レストラン(経営者)	・忘年会の予約は前年を上回り、売上も現状の水準を維持している。しかし、食材価格の上昇に対して、この時期に値上げを実施することは難しく、粗利益の確保が困難になっている。また、人件費を始めとする経費の増加が重なり、経営的に苦しい状況になるとみられる。
	□	一般レストラン(店長)	・しばらく来客数の減少は続くとみられる。物価高騰による家計へのダメージは大きく、外食は真っ先に削減対象となると考えられる。
	□	観光型ホテル(副支配人)	・年末年始は曜日の並びが良く、前年より宿泊予約は増えているが、正月を過ぎれば前年と余り変わりがない。
	□	都市型ホテル(宿泊担当)	・冬季のオフシーズンとなるが、当県を舞台としたテレビドラマの放送により露出が増加しており、引き続き需要拡大が期待される。
	□	タクシー運転手	・11月末から繁忙期に入るが、余り期待できない。前年の12月も好調ではなかったため、今年も厳しいとみられる。
	□	タクシー運転手	・忘年会シーズンを迎えるが、多少は忙しくなるが、余り期待はできない。インバウンドについては、元々少なく、中国との関係による影響はないとみられる。
	□	タクシー会社(営業所長)	・特にイベントではなく、企業が忘年会を開催しない傾向にある。観光シーズンが終了し、関連業務も減少する見込みであり、全体的な見通しは良くない。
	□	通信会社(総務担当)	・物価高が続き、効果的な施策も出てこないため、今月よりも良くなることはない。
	□	通信会社(企画・総務担当)	・競合が強まり、顧客の取り合いが続く。
	□	通信会社(企画担当)	・広く一般の中小企業ではボーナスの改定幅は小さく、節約志向は年初以降も続く見込みである。
	□	通信会社(営業担当)	・節約状況に変化なく、好転の兆しはない。
	□	テーマパーク(営業担当)	・イルミネーション期間中の1月中旬までは集客効果が期待できるが、その後は閑散期になる。
	□	美容室(経営者)	・客は物価高に対応して節約をしながら生活しており、現状を維持している。この状況が急に崩れることはないとみられるため、当面大きな変化はない。
	□	美容室(経営者)	・景気が好転してほしいが、いろいろな物の値上がりで節約志向が強くなり、先行きに不安を感じている。
	□	設計事務所	・案件はコンスタントに続ける必要があるものと、余力に応じて進める追加投資案件に分類される。追加投資案件については時期が不明であるが、コンスタントに続ける案件は予定どおり進捗する。
	□	設計事務所(経営者)	・建築コストが高騰し続けているため、引き合い物件の成約が見通せない。
	□	設計事務所(経営者)	・購入希望客は一定数いるが、多くはないため販売の伸びがみられない。
	□	住宅販売会社(事業推進担当)	・完成物件は足場が外れ外観が見えるようになり、購入意欲の高まりが期待される。しかし、依然として工事費高騰が続き、ゼネコンとのコスト決定にも時間を要しているため、販売価格が下がる可能性は低い。
▲	商店街(代表者)	・冬場に入り、国内外の観光客が減少する。	
▲	商店街(代表者)	・購買に慎重な客の姿勢に変化はない。	
▲	スーパー(店長)	・来客数の割に販売数量は減少している。また、果物や牛肉といった高単価及び了好性の高い商品の動きは鈍い。	
▲	自動車備品販売店(経営者)	・来年初めにメーカーの値上げが予定されており、物価高と賃金安の差が広がることで、商品の販売が一層厳しくなる懸念がある。	
▲	その他専門店〔和菓子〕(経営者)	・インバウンド減少の影響があるとみられる。	
▲	都市型ホテル(企画担当)	・業界的に閑散期に入る。	
▲	都市型ホテル(宿泊担当)	・先行受注は前年を下回っており、インバウンド及び国内レジャーの需要が落ち込むと予測している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連(中国)	▲	放送通信サービス（総務経理担当）	・今後の政府の家計に対する補助施策によるが、物価上昇と賃上げの格差拡大が懸念される。
	▲	通信会社（広報担当）	・物価上昇に対して客の感覚が追い付いていない。このままでは、景気回復は期待できない。
	▲	テーマパーク（業務担当）	・12月以降は、雪の心配などで事前予約が少なく、前年度の60~70%の状態である。
	▲	ゴルフ場（営業担当）	・単価引上げの影響と考えられるが、今年は予約の入りが遅い傾向にある。
	▲	美容室（経営者）	・物価高騰に伴い、消費者の財布のひもが固くなっている。まだ様子をうかがっている状況とみられる。
	▲	住宅販売会社（住宅設計担当）	・戸建て住宅の着工戸数は年々減少傾向にあり、運搬費や物価の上昇の影響により、戸数減少が続く見通しである。
	×	商店街（代表者）	・米国の関税の影響により、県内大手自動車メーカーの業績が低迷し、更にカキの不作も重なって、地域の消費が落ち込み、消費者マインドも非常に低い。
	×	コンビニ（エリア担当）	・来週からおむすびが値上がりする。3年前には120円、130円で購入できたものが、200円と大幅に高騰している。その影響により、最近はおむすびより安価なパンへと消費が移る傾向にある。これまで値上げによって購入点数が減っても売上は伸びていたが、今後はそうした効果が期待できず、状況は一層厳しくなる。
	×	一般レストラン（経営者）	・日中関係の問題で、低価格商品の供給が難しくなり、インバウンドも減少する可能性がある。
	×	観光型ホテル（予約担当）	・例年12月からは閑散期になり、現時点で予約がほぼない。また、インフルエンザによるキャンセルが出ており、今後も増えると予想する。
企業動向関連(日本)	◎	輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車の立ち上がりがあり、忙しい状況が続く。
	○	化学工業（総務担当）	・米国の関税、中国問題、円安等、様々な要因で様子見となっている取引先が見受けられる。こういった局面においても、対策と改善が図れれば、景気は徐々に良くなっていくものとみられる。
	○	一般機械器具製造業（管理担当）	・円安の影響で原材料費は上昇しているものの、売上を押し上げる効果の方が大きい。新規事業の立ち上げを計画しており、生産も向上く予定がある。
	○	輸送業	・受注が増えている。
	○	通信業（営業担当）	・DX投資等の増加により、当社取引額も増加する可能性がある。
	○	金融業（経済産業調査担当）	・足元の急激な円安が輸出企業の収益を下支えすると見込む。
	○	不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の本格的な需要時期は年明けであるが、近年は年内から探す傾向が強まっており、需要は改善する。
	□	食料品製造業（経営者）	・物価高騰の影響により買い控えや節約傾向が高まっているが、年末年始の特別な需要に期待したい。
	□	繊維工業（財務担当）	・年末年始にかけて購買活動は活発化するものの、購入を見合わせる場合もあり、適時購入の傾向が続いている。
	□	鉄鋼業（総務担当）	・人手不足が解消されていないため、現状のまま推移する。
	□	非鉄金属製造業（業務担当）	・スマートフォン向け材料の出荷は堅調を維持しているが、それ以外の景気に対する動きはみられない。
	□	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・取引先からの長期内示情報より、景気に変化はない。
	□	建設業	・今後も材料や資機材等の価格高騰が続く。
	□	建設業（経営者）	・企業の建設投資が慎重で、進捗しないプロジェクトが多々ある。一方で、小規模案件は着工延期があるものの、仕事量は変わらない。
	□	建設業（総務担当）	・大型案件では、中止や延期が発生した場合、技術者の空きを埋める対応が必要となるリスクがある。
	□	輸送業（企画担当）	・中国との関係が問題となっているが、当面はそれほどの影響がないものとみられる。
	□	輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス要素やマイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
	□	輸送業（営業担当）	・各企業担当者からのヒアリングによると、大きな変化はみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	通信業（企画担当）	・地政学的な動きがない限り、状況に変動はないとみられる。
	□	広告代理店（営業担当）	・前月と比べて大きな変化はないが、年度末の予算消化による受注増加を期待したい。
	□	会計事務所（経営者）	・賃金上昇によるコスト負担が重く、投資意欲を阻害する。人手不足の影響も大きい。
	▲	農林水産業（従業員）	・水産物は良好な状態のものがほとんどない。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・中国との関係により、輸出、インバウンド需要の低下が見込まれる。
	▲	化学工業（総務担当）	・為替と物価上昇の動きが続くことで、景気は悪化する。
	▲	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向け大口案件の生産が終了し、生産量が低下する。
	▲	金属製品製造業（総務担当）	・今年1年間続いた客先からの特需は11月で終了し、円安による電力費上昇も見込まれることから、採算は厳しくなると予測される。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・海外事業は中国向けが多いが、今後の日中関係次第では渡航そのものに影響が出る可能性がある。
	▲	金融業（副支店長）	・為替の円安影響により仕入原価が増加しているものの、売価への転嫁が進まず、景気は悪化傾向にある。
雇用 関連 (中国)	×	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きから、景気は悪くなる。
	◎	—	—
	○	人材派遣会社（支店長）	・例年、この時期は求職者数と求人数が最も増加するため、これまでより動きはあるとみているが、大きな変化の要因はないため、微増とみられる。
	○	人材派遣会社（事業部長）	・季節繁忙期における求人数は、前年を上回る勢いで年度末まで継続する見込みである。
	□	人材派遣会社（経営企画担当）	・人材派遣サービスの市場成長率の伸びが鈍化しており、地方においてはその影響が大きいとみられる。
	□	人材派遣会社（求職者対応）	・例年3月までは求職者数の大幅な増加は見込めない。
	□	求人情報誌製作会社（総務担当）	・忘年会の予約状況は件数、人数共に前年同期を超えており、諸物価の上昇が収益を圧迫しており、事業主は景気回復を実感できていない。
	□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・採用者数は景気に連動することが多いが、2027年4月入社向けの採用者数に関しては変わらない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・首相の台湾発言の影響がいつまで続くかは不透明で、当面改善は見込めない。県内の観光業者を中心に危惧する声が多い。
	□	職業安定所（職員）	・ガソリン暫定税率廃止等、家計にはプラスの影響はあるものの、物価上昇に賃金が追い付かず、景気は変わらないと判断する。
	□	職業安定所（事業所部門）	・最低賃金の引上げによる個人消費の増加が見込まれる反面、中小企業の事業縮小や廃止が増加傾向にある。
	□	職業安定所（事業所担当）	・管内の状況をみると、企業の採用意欲に大きな変化はみられず、また、景気が大きく変動する要因は今のところ見当たらない。
	□	民間職業紹介機関（職員）	・国内の大手企業の子会社でさえ採用に苦戦しており、従来は新卒採用のみであったが、この3年で中途採用を開始し、現在では新卒と中途の採用比率が五分五分となっている。大手企業が中途市場に参入したこと、中堅企業は採用で苦戦を強いられることとなり、中小企業では応募確保さえままならない状況となる。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・景気の良し悪しに影響する材料が身の回りでは特に見当たらない。
	▲	職業安定所（職員）	・求人件数の減少傾向は一朝一夕に改善する様子がないなか、日中関係の問題によるインバウンド減少が追い打ちとなり、さらなる減少につながる恐れがある。
	▲	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・年末年始で求職者からの登録数は減少傾向になるが、潜在層が顕在化していく時期もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	—	—

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

(－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)	◎	商店街（代表者）	・資源のない我が国において、南鳥島海底でのレアアース試掘が成功すれば大きな話題となる。
	○	商店街（代表者）	・首相が代わり経済対策に力を入れており、年末に向けて景気が上向くとみられる。
	○	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・客から年度末にかけての見積り依頼がある。
	○	スーパー（店長）	・我が国の物価高対策及び景気対策の効果により、景気が上向いてくるとみられる。
	○	スーパー（企画担当）	・単価の上昇が続き、売上は増加するとみられる。客の店選びが更に厳しくなり、売上に影響する店舗が出てくるとみられる。
	○	スーパー（財務担当）	・ガソリン暫定税率の廃止や電気・ガス料金の補助に期待している。
	○	スーパー（人事）	・最低賃金の見直しが12月にあること、政策の実現などにより、生活がこれまでよりも良くなるとみられる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・12月は衣料品の販売が好調な時期でありボーナスの支給時期でもあることから、気温が下がることで売上は確保できるとみられる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・地方の中小企業は大変ではあるが、財政施策により景気は良くなるとみられる。
	○	家電量販店（店員）	・ボーナス商戦、季節商品の販売量増加、新生活準備により、景気は良くなるとみられる。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	・年末年始は売上が増加するとみられる。ビールが品薄であり、影響が気になる。
	○	旅行代理店（部長）	・経済対策による経済効果に期待する。
	○	通信会社（営業部長）	・年末年始商戦は、販売が伸びると捉えている。
	○	美容室（経営者）	・以前ほどの活気はないが、12月には少しづつ客も動き出すとみられる。1月は成人式もあるため忙しくなるとみられる。
	□	商店街（代表者）	・イベントへの来客数は多いが、年末年始やクリスマス商戦の人出を懸念している。客は財布のひもを締めている。
	□	商店街（常務理事）	・為替が変動しており、原材料価格、光熱費等の高騰が続き、製品の値上げは避けないとみられる。物価高対策が遅れており、しばらくは客の財布のひもが緩むことはないとみられる。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・比較的安価な商品は若い人を中心に需要がある。しかし、年配者は節約傾向にある。
	□	百貨店（マネージャー）	・米国の関税政策による影響や中国との不安定な関係により、好転することはないとみられる。
	□	スーパー（企画担当）	・ガソリン暫定税率の廃止や賃上げの気運による実質賃金上昇の影響はあるが、先行きは不透明である。
	□	コンビニ（店長）	・年末商戦で来客数の改善を図りたいところだが、特に改善につながるイベントや予定がなく、現状の来客数微減の状態で推移するとみられる。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	・物価の上昇が顕著で、仕入価格が前年比で大幅に上昇している。景気は良くならないとみられる。
	□	家電量販店（副店長）	・物価高の影響により節約志向が強いため、今後も横ばいが続くとみられる。
	□	乗用車販売業（営業担当）	・車種によっては販売停止が続いている。
	□	乗用車販売店（従業員）	・受注制限や納期の長期化など、良くなる要素がない。
	□	乗用車販売店（役員）	・物価は上昇しているが会社業況は安定しており、また、株価も上がっており、大きな変化はないとみられる。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・インバウンドは堅調に推移しており、大きく落ち込む要因はない。現在と同様に好調に推移するとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連 (四国)	□	一般レストラン（経営者）	・年明けから2月までは来客数が減少する期間であり、3月から人の移動が増えるにつれて来店機会が増えるとみられる。
	□	タクシー運転手	・客からは小遣いが減っている話もあるが、繁華街の利用者はこれまでから大きく変化しないとみられる。
	□	通信会社（営業担当）	・来客数や販売量は安定している。春先に向けて大きな変動はなく、例年どおりに推移するとみられる。
	□	観光遊園地（主幹）	・閑散期にはなるが、前年同様の来客数を見込む。
	□	設計事務所（所長）	・合併等により規模の小さな事業者が集約されている。
	▲	スーパー（店長）	・来客数が減少傾向である。
	▲	スーパー（統括担当）	・物価高による買い控えは深刻である。
	▲	コンビニ（店長）	・今後も来客数減少が続くとみられる。
	▲	コンビニ（商品担当）	・農業、酪農の1次産業への対策を政府が緊急で行わない限り、景気は改善しないとみられる。
	▲	コンビニ（総務）	・芸術祭が終了し、来県者数が減少するとみられる。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・物価高の影響が続くとみられる。
	▲	観光型旅館（経営者）	・冬場になり燃料等の生活必需品が家計を圧迫することから、旅行に使う金が減少することを危惧している。
	▲	都市型ホテル（経営者）	・予約数が減少傾向にある。
	▲	タクシー運転手	・四国遍路に関連した仕事が減ることから、売上は減少するとみられる。
	▲	競艇場（マネージャー）	・物価が急激に上昇し続けており、緩やかな物価上昇に安定するまで遊興費の捻出は厳しいとみられる。
	▲	美容室（経営者）	・周囲の同業者や異業種からは良い話は余りなく、景気は悪くなっていくとみられる。
	×	一般小売店〔酒〕（経営者）	・物価高が続き、消費者の財布のひもは固い。
	◎	食料品製造業（商品統括）	・企業が得意分野への事業集約を着実に進めており、内部留保が増えている。ベースアップは、十分な資金力により、実施されるとみられる。
	○	化学工業（所長）	・政治の刷新により景気は上向くとみられる。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・身近な事業者から、次の事業展開に向けた前向きの話が聞こえてくる。
	○	電気機械器具製造業（経理）	・政治への期待感により市場や社会情勢が上向いており、為替変動や物価高の不安を和らげているとみられる。
	○	輸送業（経営者）	・マスコミ報道に市民が左右されなければ問題ないとみられる。
	□	鉄鋼業（総務部長）	・短期間で景気が好転する要素はないとみられる。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	・米国の関税政策による今後の影響や地政学的リスクの高まり等により、先行きの不透明感が増しており世界経済の下振れが懸念される。
	□	建設業（経営者）	・大きく変わる状況ではないとみられる。
	□	建設業（経営者）	・数か月では大きな変化はないとみられる。
	□	通信会社（総務担当）	・年末、年度末へ向け、受注見込み案件が想定を大幅に超えることはないとみられる。
	□	通信業（企画・売上管理）	・前年と同様に推移するとみられる。
	□	不動産業（経営者）	・建築業者から、物価に大きな変化がないと聞いている。
	□	広告代理店（経営者）	・人手不足の影響から、製造業やホテルなど観光関連業者からの仕事は増加するとみられる。その他の多くの多くは販売促進広告に慎重であり、全体としては余り変わらないとみられる。
	□	税理士事務所	・好転する要因がみられない。
	▲	食料品製造業（経営者）	・為替変動の影響により海外からの原材料価格が高値で推移し、その高騰分を製品価格に転嫁できず利益が圧迫されるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(四国)	▲	繊維工業（経営者）	・主力商品の値上げに備えて在庫を抱えている小売店が多く、しばらくは受注が減少するとみられる。また、首相の台湾有事をめぐる発言により中国からのインバウンドが減少し始めており、中国からのインバウンドが多い観光地の先行きが不安である。ただ、現在の為替変動は、インバウンドにメリットがある反面、我が国への影響は多くあることから政府による対策が必要であるとみられる。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	・ハウスメーカーからの受注数が減少している。各メーカーとも1棟あたりの受注金額が上昇していることから売上は増加しているが、着工件数は減少している。また、平屋の着工件数の増加により1棟あたりの部材数が減小している。今後もこの傾向が継続するとみられており、価格転嫁と仕様変更の両面で利益改善をする対策が必要である。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・掃除用のウェットクリーナーは年末の掃除に向けて11月、12月の売上が大幅に上がる。しかし、その反動で1月、2月の売上が減少する。キッチンペーパーの需要は引き続きあり、品質の良さを理解している客がリピーターとなっており需要が安定している。
	▲	金融業（副支店長）	・物価の上昇が止まらないなかで取引先の給与は上昇しておらず、実質的な可処分所得が減少するとみられる。
	×	—	—
	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（経営者）	・新しい年になり求人人数が増加するとみられる。
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	・特に状況が変わらぬきっかけはないとみられる。
	□	求人情報誌（営業）	・アルバイトやパートの募集において、最低賃金の急激な上昇により制約が続くとみられる。一方で、既存従業員の時給も上昇させる必要があり、人件費の高騰が企業の利益を少しづつ圧迫している。
	□	職業安定所（求人開発）	・長引く人手不足の影響から求人人数の大幅な減少はみられないが、最低賃金の大幅な引上げの影響などから景気の先行きを不安視する声を聞く。また、最低賃金引上げによりパートの働き方が、社会保険の加入の可否で二分されることとなり働き方が変わりつつある。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・新卒求人の動きに大きな変化はなく、今後数か月で状況が変化する可能性は低いとみられる。2027年卒の採用動向が活発になる年明け以降の求人の動きに注目する。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足の影響から、中途採用の求人件数は多い状態が続くとみられる。
	▲	人材派遣会社（総務部長）	・最低賃金の引上げが、将来的には人材に関連するビジネスに暗い影を落とすのではないかとみている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・民間事業者に良い影響のある施策を実施してほしい。
	▲	職業安定所（職員）	・最低賃金引上げが中小企業に与える影響に注視が必要である。
	×	—	—

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

(－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(九州)	◎	—	—
	○	商店街（代表者）	・歳末から年始にかけて、人の移動もあり商品が売れる期待している。
	○	商店街（代表者）	・気候は例年並みに落ち着き、歳末に向けて売上増加及び政府の経済対策効果にも期待をしている。
	○	商店街（代表者）	・景気そのものは物価が上がり、動きは悪いが、今までの買い控えの反動で景気が良くなる。また、今後は業種にもよるが、季節要因も加わり状況は良くなってくると判断している。
	○	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
○	○	商店街（代表者）	・株価は予想以上に上がっているが、小規模な小売業種が集まっている商店街の売上は悪くなってきてている。インバウンドの消費は業種に偏りがあり、レストラン等飲食業の消費は若干良い状況である。物販業では一段と厳しい状況を予想しており、12月のボーナスにより年末年始の商材等の売上は少し良くなることが期待できる。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	・12月に入るとギフトシーズンになり、当県産のポンカン、デコポンなどは台風などの影響も少なく味も良く量も多いため、かなり期待している。野菜については、トマト以外は通常の相場に戻っているが、トマトは夏の猛暑の影響によりかなり相場が高騰しており若干下がっている程度である。これから急激な冷え込みがない限り相場も落ち着き、商売がしやすくなると期待している。
	○	一般小売店〔精肉〕（店員）	・販売価格改定の影響が限定的になると予想している。
	○	百貨店（営業担当）	・催事場の見直しを実施したため、新たな集客が期待できる。し好性の高いブランド品や舶来雑貨の関心や購入意欲は客単価上昇で継続し、年末年始に向け食品に加え、リビング・紳士・婦人・自家需要商材の需要が見込める。また、クレジット・友の会・プレミアム付商品券・コード決済の利用やポイント獲得等堅実な決済手段利用や年末年始の国内外の観光客増加で商戦の活性化が見込める。
	○	スーパー（店長）	・新政権の物価高騰対策が施行されると世帯の手取りが増加するため、支出額が必然的に増加すると予測している。食品以外への支出が期待できるため、今後は若干ではあるが景気は上向きになると予想している。
	○	スーパー（総務担当）	・気温の低下とともに鍋物商材、生鮮関係の売行きが良くなる傾向がある。さらに、年末年始の人の集まりや新しい年への期待感などから、この時期特有の消費マインドの高まりが期待できる。
	○	スーパー（企画担当）	・10～11月と販売量が回復しており、更に年末にかけて高価格商品の売行き回復が見込まれることから、景気がやや良くなると予想している。
	○	スーパー（経理担当）	・12月は繁忙期のため景況感は続く見込みである。しかし、1月以降の動向が心配である。
	○	コンビニ（店長）	・新内閣による積極財政、景気浮揚策に期待している。
	○	乗用車販売店（従業員）	・年末年始の特需で来客数が増えると予想している。
	○	乗用車販売店（役員）	・オーダー停止車種のうち、一部生産再開が決まり、12月には新型車の発売もあるため、来客数、注文数に期待ができる。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・コーヒー業界では毎年のことであるが、年末のコーヒー需要が増加する傾向にあるため、景気は回復すると見込んでいる。
	○	観光型ホテル（支配人）	・物価高などの対策とする各種補助に期待したい。
	○	観光型ホテル（総務）	・予約数が安定している。
	○	タクシー（統括者）	・乗務員募集を強化した効果もあり、採用数増加が見込める。
	○	通信会社（社員）	・新商材を扱うようになるため、やや良くなると見込んでいる。
	○	ゴルフ場（従業員）	・県外からの来場者やインバウンドが多くなっているため、単価上昇が期待できる。
	○	美容室（経営者）	・例年、年末年始になると景気が回復していく。日頃の客の動向は、購買意欲が徐々に上がっており、緩やかな上昇線が見込まれる。メーカーでも販売促進をかねてサービスが活発になり、少しづつであるが景気回復が予想される。
	○	理容室（経営者）	・11月は業種的に年末前のため来店を控える客が多く、12月に入ると後半にかけ徐々に良くなる。しかし、例年1～2月の来客数は減少するなど波はあるが、尽力していきたい。
	□	商店街（代表者）	・現在の経済状況から考えると、今後も厳しい商況は変わらない。
	□	商店街（代表者）	・政府の対策による効果がまだ商店街に現れていないため、悪い状況が続くと予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	商店街（代表者）	・商店街では高齢客が多く、まだ物価高の影響が現れていると心配している。
	□	商店街（代表者）	・2～3か月先の当商店街では、来年の再開発による状態が不透明であるため、これから試行錯誤をしながら、商店街一丸となり取り組んでいくことを目標としている。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・正月が終わると特に花を消費に使うイベントがないため、3月の卒業式や送別会等の需要まで、閑散とした時期になると予想している。
	□	百貨店（企画担当）	・物価上昇による買い控えもあるが、生活必需品購入や旅行など消費行動もあり、商況は一進一退を繰り返すと予測している。
	□	百貨店（経理担当）	・物価高や固定客の高齢化、インバウンドの減少等でギフト関連の縮小傾向がみられ、今後も売上は余り見込めない。
	□	百貨店（業務担当）	・地方都市在住者は、物価が全国一律上がるものの、賃金は上がっておらず、労働力も不足しているのが現状で、景況感だけが良くなることはないとみられる。子育て世代の手当が給付されても、将来に対する不安から、貯蓄に回す人も多く、金の循環は始まらないと推測している。
	□	百貨店（営業企画担当）	・景気が上振れする目立った要因がない上に、外交問題によるインバウンドの減少の影響もあり好条件とはいえないが、気温低下による重衣料の購買や年末年始に向けた購買気運の盛り上がりに期待したい。
	□	百貨店（経営企画担当）	・クリスマス商戦や初売り等控えているが、年々縮小傾向にあり、今後景気が改善する外的要因や内的要因では来客数増加につながる新規対策の効果がない。
	□	スーパー（店員）	・政府の経済政策が遅過ぎたため、かなり大胆なてこ入れがない限り、今の状態が長く続くのではないかと予想している。
	□	コンビニ（経営者）	・食品関係を始めとした値上がりが続いている。そのため、客の対応力もそろそろ限界を感じ、節約傾向になると予想している。
	□	コンビニ（経営者）	・インバウンドの減少が予測されマイナス面はあるが、人の動きは活発であるためトータルでは変わらない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・年末に向けての物価高対策に期待している。
	□	コンビニ（エリア担当・店長）	・11月下旬のブラックフライデーでは、取り組みがうまくいき少し回復をしているが、イベントが終われば元に戻ると予想している。この先の気候によるが、暖冬であれば客の動きは良くなるが、例年の気候であれば変わりはない。
	□	衣料品専門店（店長）	・政治状況が報道されているが、景気そのものは良くも悪くも変わらないと予想している。
	□	衣料品専門店（取締役）	・客に購入意欲が若干出始めているが、気分の問題であるため、先行き不透明のなか、3か月後の政治や生活状況への影響が重要になってくる。現実的には、給料が増加しているわけではなく、円安も進んでおり、まだ不安定な状況である。
	□	家電量販店（店長）	・物価高対策や消費に回せる金が増えなければ、現状維持から変わることはない。
	□	家電量販店（店長）	・今月はブラックフライデーで一時的な盛り上がりを見せており、次月以降は不透明な状況であるため、しばらくは物価高の影響により変わらない。
	□	家電量販店（店員）	・ガソリン価格の低下に伴う、その他効果のある景気刺激対策が行われた場合は期待したいが、現時点での内容では好転する材料が乏しい。
	□	乗用車販売店（役員）	・受注については、電気自動車を始め、限られた車種での受注活動がしばらく続く状況にある。また、販売については受注残はあるものの半導体など部品の調達から予定どおりの車両配車が可能かどうか不安が残る状況である。
	□	乗用車販売店（代表）	・変わるような要因が見当たらない。
	□	住関連専門店（経営者）	・円安や米国の関税で物価が高止まりしており、仕入れの値上げが止まらない。置き家具業界の回復はまだ厳しいようである。
	□	住関連専門店（従業員）	・プレミアム付商品券が終売したというネガティブ要因がある。一方で、今後一層冷え込み、秋冬商材の需要が高まることが予測される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他専門店「書籍」(副店長)	・1階テナントオープンから半年がたち、集客は落ち看いでいる。しかし、自店舗ではフロア縮小により売上が減少したため、めぼしい商材が少なくなり売上改善は見込めない。
	□	高級レストラン（経営者）	・12月は忘年会の予約が入ってきており、やはり11月と同様に週末中心となっており、月曜から木曜の予約は少なく、今後の見通しは不透明である。
	□	スナック（経営者）	・週末、平日共に会社員のグループ利用が減少しており、その分をインバウンドが埋めていたが、現時点で前年の来客数に達していないことから、物価高騰の影響により外食費を節約していると推察される。
	□	観光型ホテル（専務）	・世界情勢は先行き不安であるが、国内の旅行者は安定していることに期待している。
	□	観光型ホテル（営業）	・大阪・関西万博の閉幕が理由ではないかもしれないが、悲観的状況は脱したようである。しかし、中国との関係などで楽観視できない。
	□	旅行代理店（統括者）	・日中関係の問題による中国からのインバウンドの影響により、需要減少や円安による海外旅行の伸び悩みが続くが、中国以外のインバウンド需要や法人需要は堅調だと予測される。加えて、政府の補正予算による経済対策での行政事業の需要や年度末に絡んだ企業需要に期待している。
	□	タクシー運転手	・忘年会のシーズンで週末は増えているが、昼間は余り増えないと予想している。
	□	通信会社（役員）	・食品や生活物資の高止まりが続いている。ガソリン暫定税率が廃止されても地域の燃料価格がそもそも高く、地域経済に与える大きな効果が期待できない。
	□	通信会社（企画担当）	・景気は、今の状態が続くと予想している。
	□	観光名所（職員）	・年末を控え、買物客や忘年会、新年会での集客が見込める。
	□	ゴルフ場（従業員）	・2025年12月から2026年2月は、本格的な冬の到来が早まる可能性があり、気温はおおむね平年並みで、寒波が来るタイミングでは厳しい寒さとなり積雪に左右される見込みである。
	□	競馬場（職員）	・現時点では、変化を判断する要素は見当たらない。
	□	設計事務所（所長）	・2～3か月先に結果が出るため、今後の景気は変わらない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・受注の現状は、維持した状況が続いているが、来場者数や商談来客数がやや減少気味となっており、今後の受注の影響を懸念している。
	□	住宅販売会社（従業員）	・国の経済政策で、投資額のリターンや外交政策では中国との関係で輸出入が止まっている状況となっている。総合的な対策を探らないままだと経済が上向きにならないため、生活を良くする政策に期待している。
	▲	商店街（代表者）	・12月を過ぎると一気に減少傾向になり、2月になるとノベルティ関係が増えてくると予測している。
	▲	百貨店（企画担当）	・クリアランスセールが落ち着く頃で、季節としてはまだ寒く、春物の動きも鈍いと予想している。
	▲	百貨店（企画担当）	・中国の日本への非難行動が、どこまで本格化するかで状況は大きく変わると考えるが、マイナスの影響を与える可能性がある。
	▲	百貨店（リーダー）	・今から1か月間までが贈物の時期で買い回りも多いが、その時期を過ぎると日常に戻り、景気は悪くなると予想している。
	▲	コンビニ（経営者）	・物価高の影響により、コンビニで購入する人が減少している。
	▲	コンビニ（経営者）	・日中関係の問題が直接業績に影響するとは考えにくいが、間接的に何らかの影響がある可能性もあり、楽観視できないと推測している。
	▲	家電量販店（従業員）	・中国との問題に伴い、インバウンド需要が減少し、販売額の減少が予測される。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・映画館の特需がこの冬まで続いているため、よほどヒット作品等が現れない限り、この景気を超える状況は期待できない。気候も余り寒くならず、重衣料を始め、客单価を取りやすい季節商材の動向は活発化しないと予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連 (九州)	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・現時点では、中国からの影響は受けていないが、今後の計画ではマイナスの影響として仮定せざるを得ない。3か月後に仮定と実態の比較検証を行う予定である。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・年間で11月はトップシーズンであるため、単価、量共にこれ以上は難しいとみられる。ただし、2月は春節が控えており、インバウンドは活発になると予想している。
	▲	旅行代理店（職員）	・1～2月は秋のシーズンに比べて販売量が落ちる予測である。
	▲	旅行代理店（統括者）	・中国からのインバウンドや交流が冷え込むことが懸念される。
	▲	タクシー運転手	・前年比では国内外からの旅行者が減少している。加えて、飲み会後にタクシーを利用する客が減少していることも実感している。
	▲	通信会社（営業担当）	・観光客が減ってきていたため、今後の景気が心配である。
	▲	テーマパーク職員	・最近の日中関係の状況から、中国からのインバウンドが減少しており、特に旧正月の影響が大きいと予想される。
	▲	美容室（店長）	・物価が上がると生活に支障が出て節約志向が高くなるため、今月より更に景気は悪くなる。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・季節要因として特に冬季の1～2月は売上が減り、損益が悪化する見込みである。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・政府の今後の方針として、介護報酬の臨時改定や介護業界の賃上げに対する補助金等の検討が進んでいるが、一時しごとにすぎず、人材確保の効果的な解決策にはならない。
	▲	設計事務所（所長）	・世界経済の影響が不透明であるが、米国や中国次第でますます停滞すると予測している。特に地方の中小企業・個人事業主には影響が大きく、収入がほとんど人件費で占める企業にとっては、特に厳しい状況だと懸念している。
	▲	設計事務所（代表）	・引き続き金利の上昇で、景気がやや悪くなると予想している。
	×	一般レストラン（スタッフ）	・中国との政治関係でインバウンド減少による来客数の縮小や、食料品等の値上がりによる仕入価格の増加で、景気は悪くなると予想している。
	◎	—	—
企業動向 関連 (九州)	○	農林水産業（経営者）	・12月は年末年始の需要で、幾ら在庫があっても足りないくらいの引き合いが予想され、外食、居酒屋関連でも期待できる。幸いに12月は原料をそこそこ対応できる状態で、工場稼働や販売量共に期待をしている。1月には若干落ちることが考えられ、2月以降には再度需要が伸びてくると考えている。
	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年度末に向けた受託業務の納入が控えている。
	○	化学工業（総務担当）	・前年比の損益は回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想している。
	○	金属製品製造業（事業統括）	・建設需要が旺盛である。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・足場を固めて取引先の要望に応えることができるかが鍵となる。
	○	輸送業（従業員）	・年末や年度末を迎えるに当たり、1月は厳しいが2～3月の動きは良くなるとみられる。
	□	家具製造業（従業員）	・例年ほど年度末に向けての新しい案件情報が出てこない。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注関係が芳しくない状況となっており、産地自体の落ち込みも懸念している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・諸外国との問題は輸出を主体にしているメーカー及び客には深刻であるため、しばらく状況を注視しながら手段を考える状態が続く。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合い等があっても進展が余りなく、この状況では現在の引き合いもなくなるという不安が拭い切れず、明るい兆しがみられない。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の業績目標情報から変わらないと予測している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用関連(九州)	□	輸送用機械器具製造業 (営業担当)	・予算以上の数量で推移する計画で大きな変化はない。しかし、レアアースの影響や中国輸出の影響等、内示などは未反映の状態で先行きが懸念される。
	□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・まだ半導体関連に復調の動きがないため、年内は厳しい状況を見込んでいる。
	□	輸送業（従業員）	・政府は物価高対策を検討しているが効果が薄い。加えて、今後中国との貿易がどのようになるか不透明である。
	□	輸送業（総務担当）	・日中関係の問題によるインバウンド需要の影響が懸念される。観光とともに外食関係の売上が停滞する可能性はあるが、限定的と考えている。続いている円安と物価高がどこまで消費に影響を与えるのか、先が見通せない。
	□	通信業（職員）	・公共工事については年度末工期のものが多く、今後の発注量は多くないと予想される。民間工事で補える量にも限界があり、状況が大きく好転する可能性は低い。
	□	通信業（統括者）	・通信関連投資については、意欲的であるとは言い難く景気に大きな変化はない。しかし、人手不足が顕在化しつつあり、今後は顧客の投資傾向に変化がみられることが考えられる。
	□	通信業（経理担当）	・あらゆる物やサービスの価格上昇が続いている影響によりコストが上昇しているが、販売面では引き合いも多く堅調に推移することが見込まれ、景況感としては引き続きよい状態が続くと考えている。
	□	金融業（経営者）	・自治体からの受託業務の引き合いが減っており、先行きが不透明である。
	□	金融業（調査担当）	・物価高や人手不足が重しとなり、景気は当面、現状程度の推移が続く。
	□	金融業（営業）	・プラス要因とマイナス要因が共存しており、今後の方向性が想像し難い。
	□	金融業（営業担当）	・年末に向け金の動く時期となり消費に期待感はあるが、インバウンドの動きに影響されるサービス業等は、日中関係の問題で冷え込みの懸念もあり、総じて景気は変わらない。
	□	不動産業（経営者）	・顧客企業などの情報によると、今後も余り変動がないと予測している。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に変化はない。
	□	経営コンサルタント（社員）	・値上げ商品が多いが、価格は落ち着いてきたため横ばいが続く。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・今後も受注が増加する見込みがない。
	▲	金融業（調査担当）	・中国からのインバウンドの減少で飲食店やホテルなどの売上に影響が出ることを予想している。
	▲	広告代理店（従業員）	・当社の売上は、新聞部数の減少が続き当面前年割れの状況が続くことが懸念される。国内外の状況からでは景気は当面やや悪い状態が続くと予想している。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の補正予算での新規業務は少なく、12月から年度末まで新たな業務の入札やプロポーザルの募集はなくなっていくため、今後も入札時にダンピングする業者が出てくる。このため、受注できる可能性が低くなる。低価格で多くの業務を受注すると3月末までの完了が難しくなるため、低価格での応札にも限度がある。このため景気は下降していくと予測している。
	×	繊維工業（営業担当）	・現状が悪いということは、3か月先は更に悪くなる。今から3月にかけて繁忙期になっていくはずであるが、全く追加がない。最低賃金引上げに対してメーカーの工賃値上げの回答は0円で、全く要請が通らない。数量が減少になるため、工賃値上げを切望している。
雇用関連(九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・年度末へ向けた依頼により、発注が増えてくる時期である。来年度の賃金テーブルもできており、全体的に給与増額になっているため、求職者からの問合せが期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	新聞社〔求人広告〕(担当者)	・物価上昇が気になるところではあるが、車が生活必需品ともいえる当県の生活において、ガソリン暫定税率の廃止などで恩恵を受ける人も多いと考えられ、その分、業務やジャーなどが活発になると期待できる。
	□	人材派遣会社(社員)	・派遣料金の改定交渉に入る時期に当たり、物価高騰のあおりも受け、改定に応じてくれる企業は多いと予想されるが、派遣受注の増加にはつながらない。
	□	人材派遣会社(社員)	・求職者の動きが良いため、横ばいを予想している。
	□	新聞社〔求人広告〕(社員)	・依然として物価の高止まり感があり、インバウンド需要が落ち込むと考えるが、その影響により個人の景気に悪影響がないことを願っている。
	□	新聞社〔求人広告〕(担当者)	・ガソリン価格の暫定税率など減税の方向性も出ているが、こうした経済対策が景気や給与にすぐには反映されず、当面現状維持ではないかと予測している。対策効果により景気に良い影響が出てくると推察している。
	□	職業安定所(職員)	・新規求人数は2か月連続で前年度を若干上回っており、最低賃金引上げによる求人数の減少は今のところみられないが、人手不足感は依然として強い。
	□	職業安定所(職員)	・前年比では新規求職者数及び職業紹介件数は共に増加しており、企業の採用意欲に大きな変更はないと考えている。
	□	学校〔大学〕(就職支援業務)	・米国政権が打ち出す、米国への輸出品に対する関税措置や自国優先主義を前提とする政策の動向、米中貿易摩擦に加え、日本と中国との政治的対立が表面化するなど国際情勢・国際経済の不確実性を高めている。また、国内では新内閣の政権運営能力や少数政権政党としての衆参両議会の議会運営も困難が予想され、先行きの不透明感が非常に強い状況である。為替相場や株価も大きく影響を受けており物価高騰は収まる気配がなく、実質賃金が大幅に改善する見通しも立たず、景気が上向く実感がない。
	▲	人材派遣会社(社員)	・最低賃金引上げに併せ、同一労働同一賃金に伴う賃上げなどを理由とした取引先企業に対する料金交渉が本格化する。しかし、簡単に交渉がまとまるとは考えられず工数が取られる予測している。また、派遣料金を値上げすると派遣離れが取引先企業で起こると懸念している。
	▲	人材派遣会社(社員)	・最低賃金引上げが企業の人事費負担を強めると見込まれ、採用抑制や求人件数の減少につながると予測される。
	▲	学校〔専門学校〕(就職担当)	・今後も物価高が続く見通しで、光熱費や食品の負担増が家計を圧迫し、消費を更に控える可能性が高いため、身の回りの景気も悪化すると予測している。
	×	—	—

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

(－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(沖縄) 家計動向 関連	◎	通信会社(営業担当)	・政府の経済対策がうまくいくことで、景気が良くなるとみている。
	○	一般小売店〔酒〕(店長)	・インバウンドが増えているなかで、首相の発言に左右されることを懸念している。
	○	一般小売店〔土産〕(営業部長)	・今後も国内観光客の増加が見込まれるが、最近の中国との関係でクルーズ船の寄港回数減少や下船しない中国のインバウンドも増加するとみられ、その影響が出るとみられる。
	○	百貨店(経営担当)	・今後は年末商戦を控え、来客数や買上点数の増加が見込まれる。
	○	コンビニ(経営者)	・観光客の増加により来客数が増加するとみられる。
	○	コンビニ(店長)	・ガソリン価格の暫定税率見直しを契機に、商品価格に変化があると期待している。
	○	乗用車販売店(営業担当)	・年末年始の商戦に期待したい。
	○	その他専門店〔書籍〕(部長)	・最低賃金引上げで、消費も増えるとみている。
	○	一般レストラン(代表者)	・忘年会シーズンに期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業動向関連 (沖縄)	○	その他飲食店〔ファーストフード〕(総務部)	・1月前半は年始の繁忙で2週目までは良くなり、後半から2月にかけては年間で最も厳しい状態になるが、前年と比べると良くなる見通しである。ただし、台湾情勢の影響で、中国、香港からのインバウンドの減少が顕著に出るのを懸念している。
	○	観光型ホテル(企画担当)	・11月の販売室数が前年比7%増加なのに対し、11月末時点での2月の予約室数は前年比23%増加で、プラス幅が大きくなっている。
	○	旅行代理店(マネージャー)	・物価高にも慣れてきており、旅費は高額になるが客層によつては旅行需要も増えるとみられる。
	○	通信会社(サービス担当)	・学割シーズンに入り、通信契約や端末購入の需要が増加するとみられる。
	○	住宅販売会社(営業担当)	・政治的に好景気を期待している。若年層の購買意欲が前向きになるとみられる。
	□	商店街(代表者)	・景気は変わらないとみているが、飲食店は良くなり、小売店は厳しい状況にあるため、判断が難しい状況である。
	□	スーパー(企画担当)	・12月からガソリン補助金の拡充や来年1~3月の電気・ガス補助などの下支え政策はあるが、中国人観光客の渡航自粛が及ぼす影響を見通せないため、2~3ヶ月先の景気は判断が難しい状況である。
	□	衣料品専門店(経営者)	・今月から売上の増加を期待していたが、変わらない状態である。景気が上向く気配が今のところみられない。
	□	家電量販店(営業担当)	・9~10月の売上は前年比で伸長したが、11月は前年割れている。3ヶ月先は予測が難しい。
	□	乗用車販売店(経理担当)	・季節要因を除けば大きく変わらないとみられる。
	□	その他飲食店〔バー〕(経営者)	・地元客の動きが増えないと、景気が良くなった実感がないため、当面は大きく変わらないとみられる。
	□	観光型ホテル(専務取締役)	・2月の予約は、国内客を中心に例年以上の動きで目標達成の見込みとなるなど、今後の動きに期待が持てるところである。一方で、中国客の減少も予想されることから、双方のバランスを考慮して、変わらないとみられる。
	□	観光型ホテル(総支配人)	・引き続き予約は良い状況である。中国からの観光客動向が懸念されるが、現状シェアが小さいため影響はそこまで大きくないと判断している。
	□	その他サービス〔レンタカー〕(営業)	・先行きの受注状況は前年と比べ伸長している。特に個人の動きがよく、ワンボックス車の需要が増えている。
	□	住宅販売会社(役員)	・年末年始にかけて県外から移住やセカンドハウスを目的とした相談が一定程度あり、状況は変わらず底堅い動きになるとみられる。
	▲	スーパー(店舗管理)	・日中関係によるクルーズ船のキャンセルなど影響が出始めていることから、年明けの春節の時期が、足元の商圏に大きな影響があると懸念される。
	▲	コンビニ(店長)	・高単価商品から低価格商品に入れ替を行ったが、予想より来客数、売上共に伸びていない。入替えたばかりだが、このままだとやや悪くなるとみられる。
	▲	コンビニ(経営企画担当)	・中国からの渡航者数減少の影響は免れないとみられる。
	▲	衣料品専門店(経営者)	・日中関係の改善次第で良くも悪くも変わってくるとみられる。中国人観光客の減少が直接的な影響を及ぼさなくとも、全体の景気が良くならないことには、小規模事業者は少なからず影響を受けるとみられる。
	▲	その他専門店〔陶器〕(製造)	・例年では、冬休みが終わると落ち着き、春のイベントに向けて商品を作成する。
	▲	観光名所(職員)	・日本と中国の関係問題に伴い、中国からのインバウンド減少が見込まれる。
	×	—	—
企業動向関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	食料品製造業(役員)	・12月の賃上げ状況などで、一般消費者の財布のひもが緩み良くなるのではないかと期待している。
	○	建設業(経営者)	・資材価格の高騰で建築単価が上がっているが、発注はそこまで鈍化していないとみられる。
	○	輸送業(総務経理担当)	・運賃交渉の成果がみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (沖縄)	○	通信業（総務）	・日中関係は気になるが、ボーナスや年末年始イベントの需要など個人消費は底堅い動きになるとみている。
	□	窯業土石業（取締役）	・見積依頼、受注、生産は共に横ばいで推移しており、当面は現状維持を見込んでいる。
	□	広告代理店（営業担当）	・県内企業の販売促進投資は、引き続き事業収益が厳しいなか、大きく伸長する状況ではないとみている。
	□	会計事務所（所長）	・物価高と賃上げのバランスが不透明である。
	▲	輸送業（経営企画室）	・日中関係による観光需要の低迷が懸念される。
	×	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（審査）	・1月は求職者の動きが徐々に活発化し、企業側もこの時期から採用活動を本格的に再開すると見込まれる。その結果、12月末まで抑制されていた求人数は反動的に増加へ転じる可能性が高く、今後は企業の採用意欲が緩やかに回復していくとみられる。
	□	学校「大学」（就職支援担当）	・物価高騰はしばらく続くとみられる。
	▲	人材派遣会社（総務担当）	・観光客の減少、物価上昇等により景気は良くならないとみられる。
	▲	学校「専門学校」（就職担当）	・2027年卒向けの求人数が多く見込まれるが、採用数の減少があると危惧している。
	×	—	—